

**学校法人 佑愛学園
愛知医療学院短期大学**

2021年度 授業評価レポート



2022/7/11

目次

■ 資料

- 1 学生による授業評価実施要項
- 2 学生による授業評価アンケートの実施要領

■ 授業評価レポート

【教養基礎科目】

- 1 生命の科学
- 2 エネルギーのしくみ
- 3 情報処理
- 4 論文講読
- 5 心理学基礎
- 6 人間関係論
- 7 コミュニケーション論
- 8 レクリエーション
- 9 外国語 1（英会話）
- 10 外国語 2（韓国語会話）
- 11 外国語 3（中国語会話）
- 12 現代社会の理解
- 13 生物と環境
- 14 教養演習 [1PT]
- 15 教養演習 [1OT]
- 16 教養演習 [3PT]
- 17 教養演習 [3OT]

【専門基礎科目】

- 18 解剖学Ⅰ
- 19 解剖学Ⅱ
- 20 解剖学Ⅲ
- 21 解剖学実習[1年]
- 22 解剖学実習[2年]
- 23 生理学Ⅰ
- 24 生理学Ⅱ
- 25 生理学実習
- 26 運動学総論
- 27 運動学Ⅰ
- 28 運動学Ⅱ
- 29 運動学実習 [PT]

30 運動学実習 [OT]

- 31 人間発達学
- 32 一般臨床医学
- 33 公衆衛生学
- 34 臨床心理学
- 35 内科学
- 36 整形外科学
- 37 神経症候学
- 38 精神医学
- 39 小児科学
- 40 医療安全学・救急医学[1年]
- 41 画像診断学
- 42 健康科学
- 43 リハビリテーション概論
- 44 リハビリテーション社会論[1年]
- 45 リハビリテーション社会論[2年]
- 46 社会福祉学
- 47 障がい者スポーツ概論
- 48 リハビリテーション倫理[3年]

【専門科目】

- 49 理学療法概論
- 50 臨床運動学[PT]
- 51 運動療法総論
- 52 検査測定法
- 53 検査測定法実習
- 54 人体触察法実習
- 55 理学療法評価法
- 56 理学療法評価法実習
- 57 中枢神経系障害理学療法治療学
- 58 中枢神経系障害理学療法治療学実習
- 59 運動器系障害理学療法治療学

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 60 運動器系障害理学療法治療学実習 | 97 精神障害作業治療学実習 |
| 61 内部疾患系障害理学療法治療学 | 98 発達障害作業治療学 |
| 62 内部疾患系障害理学療法治療学実習 | 99 発達障害作業治療学実習 |
| 63 小児疾患系障害理学療法治療学 | 100 高齢期作業療法学 |
| 64 小児疾患系障害理学療法治療学実習 | 101 日常生活作業学Ⅰ |
| 65 老年期障害理学療法学 | 102 日常生活作業学Ⅱ |
| 66 日常生活活動学実習 | 103 日常生活作業学実習 |
| 67 義肢装具学 [PT] | 104 高次脳障害作業治療学 |
| 68 義肢装具学実習 [PT] | 105 義肢装具学 [OT] |
| 69 物理療法学 | 106 義肢装具学実習 [OT] |
| 70 物理療法学実習 | 107 リハビリテーション関連機器 |
| 71 生活環境論 | 108 地域作業療法学 |
| 72 地域理学療法学 | 109 地域作業療法学実習[2年] |
| 73 理学療法特論Ⅰ（神経生理学的アプローチ） | 110 作業科学 |
| 74 理学療法特論Ⅱ（関節運動学的アプローチ） | 111 人間作業モデル論 |
| 75 理学療法特論Ⅳ（スポーツ障害理学療法） | 112 就労支援学 |
| 76 理学療法特論Ⅴ（吸引・喀痰法） | 113 臨床実習Ⅲ（総合1）[30T] |
| 77 臨床実習Ⅱ（評価）[3PT] | 114 臨床実習Ⅳ（総合2）[30T] |
| 78 臨床実習Ⅲ（総合1）[3PT] | 115 卒業研究[30T] |
| 79 臨床実習Ⅳ（総合2）[3PT] | 116 総合演習[30T] |
| 80 卒業研究[3PT] | |
| 81 総合演習[3PT] | |
| 82 作業療法概論 | |
| 83 臨床運動学[OT] | |
| 84 基礎作業学 | |
| 85 基礎作業学実習 | |
| 86 作業療法評価法 | |
| 87 作業療法評価法実習Ⅰ | |
| 88 作業療法評価法実習Ⅱ | |
| 89 身体障害作業評価学 | |
| 90 精神障害作業評価学 | |
| 91 発達障害作業評価学 | |
| 92 作業療法研究法 | |
| 93 作業治療学理論 | |
| 94 身体障害作業治療学Ⅰ | |
| 95 身体障害作業治療学Ⅱ | |
| 96 精神障害作業治療学 | |

2021 年度 学生による授業評価実施要項

1. 実施目的

学生による授業評価アンケートは、FD&SD 委員会規程に基づいて行われ、アンケート結果を参考に授業の改善を図り、本学教育の質の一層の向上に資することを目的とする。

2. 実施方法

2021 年度開講科目を対象として、授業毎にアンケートを実施する。

学生は、履修した科目のアンケートを Web アンケート（Google フォーム）方式で回答する。

3. アンケート内容

I 授業の内容について	3 問
II 授業の方法について	5 問
III 授業担当教員について	5 問
IV あなたの受講態度について	3 問
V あなたの学習態度について	2 問
VI この授業についてのあなたの満足度	2 問
VII ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の把握	3 問
VIII 総合評価	2 問

4. 調査結果の集計

調査結果の集計は、FD&SD 委員会が行う。

5. 調査結果の配布

実施した専任教員および非常勤講師には、個人集計結果ならびに全学集計結果に成績平均点分布表を添えて配布する。

6. 実施結果の公表

個人集計結果を除き、全学集計結果を本学ホームページにて公開する。

2021 年度
FD&SD 委員会

学生の皆さんへ

「学生による授業評価アンケート」への協力のお願い

FD&SD 委員会

本学では「授業の質」を高めることを目的として、授業科目毎に「学生による授業評価アンケート」を実施しています。このアンケートが皆さんの成績評価に影響を与えることはありませんので、安心して率直に回答してください。

皆さんの素直で厳しい意見によって、本学の授業がより良いものになります。真剣に回答頂きますよう、ご協力をお願いいたします。

＜実施科目＞

全科目・全クラス

※但し、下記の科目は、科目の性質上、一部アンケートの設問を除外して実施します。

〔教養演習（OT）・総合演習・臨床実習・卒業研究〕

＜実施時期＞

原則として、各科目1回、授業の最後に実施します。

＜実施方法＞

履修した科目について、Web アンケート（Google フォーム）方式で回答します。

※オムニバス形式の授業の場合、全体で一つの授業科目としてアンケートを実施します。

（オムニバス形式の授業のアンケートは、担当教員別には実施しません。）

＜所要時間＞

約 20 分程度

〈授業評価アンケート〉

I 授業の内容について

1. 授業の内容は、あなたにとって、興味深いものでしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
2. 授業の内容は、あなたにとって、理解しやすいものでしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
3. 授業の内容は、後輩にも推薦したいと思いましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない

II 授業の方法について

4. 授業の進み具合は適切でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
5. 授業中、教員の説明は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか
※オンライン授業の場合、パソコン・スマートフォン・Web 環境の不具合によるものは除く
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
6. 板書の文字の大きさ、書き方、レジュメ（配布資料）の提示は効果的でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
7. ICT の使用は効果的でしたか
※ICT の使用とは、プロジェクターによるパワーポイントや動画の提示、コンピュータ機器の使用、デジタル教材、電子媒体でのレポート提出 等を指します
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない ⑥ICT の使用はなかった
8. 指定された教科書や参考図書、参考文献などの使用は適切でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない

Ⅲ授業担当教員について

9. 講義の準備を十分にしていたと思いますか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
10. 意欲的に、熱意を持って取り組んでいましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
11. 授業の開始時間、終了時間をきちんと守っていましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
12. 私語など授業を妨げる行為に対して、適切な対応をしましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない ⑥授業を妨げるような行為はなかった
13. 学生が質問、意見を述べられるような環境でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない

Ⅳあなたの受講態度について

14. この授業に対して熱心に取り組みましたか
①熱心に取り組んだ ②どちらかといえば熱心に取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり熱心に取り組まなかった ⑤熱心に取り組まなかった
15. 理解できない点などを質問しましたか
①その場で授業担当教員に質問した ②授業後に授業担当教員に質問した
③授業担当教員に質問していない
16. シラバスに記載されている「学習到達目標」や「履修上の注意」を意識して学習に取り組みましたか
①取り組んだ ②どちらかといえば取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり取り組まなかった ⑤取り組まなかった

Ⅴあなたの学習態度について

17. この授業1回につき、予習にどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）
※予習とは、教員から提示される予習に相当する授業外学習時間も含まれます
①全くなし ②1時間未満 ③1－2時間
④3－5時間 ⑤6－10時間 ⑥10時間以上
18. この授業1回につき、復習にどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）
※復習とは、教員から提示される復習に相当する授業外学習時間も含まれます
①全くなし ②1時間未満 ③1－2時間
④3－5時間 ⑤6－10時間 ⑥10時間以上

VIこの授業についてのあなたの満足度

19. この授業を受けて、知識修得に満足していますか

- ①満足している ②どちらかといえば満足している ③どちらともいえない
④あまり満足していない ⑤満足していない

20. この授業を受けて、学習に達成感を得られましたか

- ①得られた ②どちらかといえば得られた ③どちらともいえない
④あまり得られなかった ⑤得られなかった

VIIディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の把握

21. この授業の授業到達目標を知っていましたか

- ①知っていた ②知らなかった

22. この授業科目がディプロマポリシーとどのような関連をもっているか知っていましたか

- ①知っていた ②知らなかった

23. この授業を受けて、ディプロマポリシーに基づく授業到達目標を達成することができましたか

- ①達成することができた ②どちらかといえば達成することができた
③どちらともいえない ④あまり達成できなかった ⑤達成できなかった
⑥ディプロマポリシーや授業到達目標がわからない

VIII総合評価

24. この授業の総合評価を5段階でしてください

- ①良い ②どちらかといえば良い ③どちらともいえない
④どちらかといえば悪い ⑤悪い

25. この授業の良かった点や改善すべき点などを自由に書いてください

〈授業評価アンケート 「教養演習（OT）」「総合演習」「臨床実習」「卒業研究」〉

Ⅳあなたの受講態度について

1. この授業に対して熱心に取り組みましたか
①熱心に取り組んだ ②どちらかといえば熱心に取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり熱心に取り組まなかった ⑤熱心に取り組まなかった
2. 理解できない点などを質問しましたか
①その場で授業担当教員に質問した ②授業後に授業担当教員に質問した
③授業担当教員に質問していない
3. シラバスに記載されている「学習到達目標」や「履修上の注意」を意識して学習に取り組みましたか
①取り組んだ ②どちらかといえば取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり取り組まなかった ⑤取り組まなかった

Ⅴあなたの学習態度について

4. この授業1回につき、予習にどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）
※予習とは、教員から提示される予習に相当する授業外学習時間も含まれます
①全くなし ②1時間未満 ③1－2時間
④3－5時間 ⑤6－10時間 ⑥10時間以上
5. この授業1回につき、復習にどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）
※復習とは、教員から提示される復習に相当する授業外学習時間も含まれます
①全くなし ②1時間未満 ③1－2時間
④3－5時間 ⑤6－10時間 ⑥10時間以上

Ⅵこの授業についてのあなたの満足度

6. この授業を受けて、知識修得に満足していますか
①満足している ②どちらかといえば満足している ③どちらともいえない
④あまり満足していない ⑤満足していない
7. この授業を受けて、学習に達成感を得られましたか
①得られた ②どちらかといえば得られた ③どちらともいえない
④あまり得られなかった ⑤得られなかった

Ⅶディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の把握

8. この授業の授業到達目標を知っていましたか
①知っていた ②知らなかった
9. この授業科目がディプロマポリシーとどのような関連をもっているか知っていましたか
①知っていた ②知らなかった
10. この授業を受けて、ディプロマポリシーに基づく授業到達目標を達成することができましたか
①達成することができた ②どちらかといえば達成することができた
③どちらともいえない ④あまり達成できなかった ⑤達成できなかった
⑥ディプロマポリシーや授業到達目標がわからない

VIII総合評価

11. この授業の総合評価を5段階でしてください

①良い ②どちらかといえば良い ③どちらともいえない

④どちらかといえば悪い ⑤悪い

12. この授業の良かった点や改善すべき点などを自由に書いてください

◆集計データ結果について

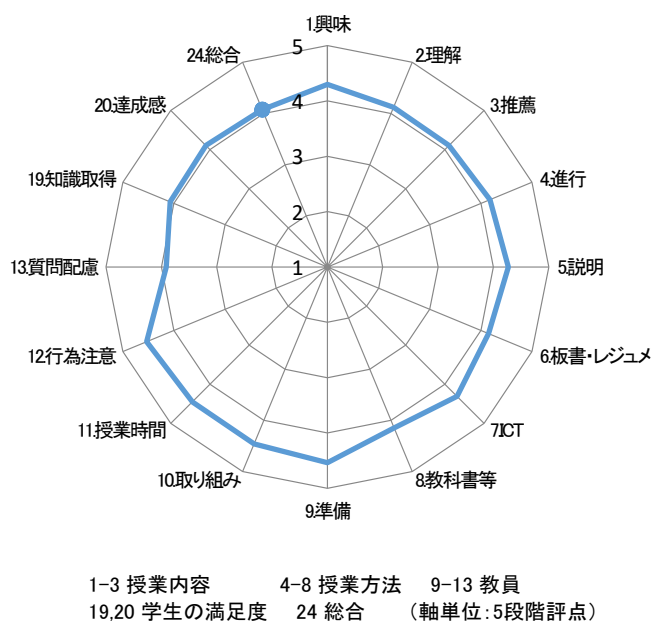
本年度は、第1回の講義から例年どおり、自作のプリントと映像教材を使って対面で授業を進め、ポートフォリオにより形成的な評価を行うことができた。また、グループワークで生命について科学的に考えさせるなど、アクティブ・ラーニングを取り入れた講義も行うことができた。結果については、「総合評価」の平均は約4.1で、昨年度と同様の値であった。その他の項目については、昨年度よりは全体的に少し高めの平均値となっているが、例年とほぼ同様の値であった。これは昨年度前半がオンラインでの授業であったことによるものと考えられる。ただし、「質問配慮」については、例年高い値ではないが、昨年に比べて0.24ポイントほど低い値となっていた。確かに授業中に学生が質問する時間は取っていないが、質問があればいつでも聞くようにと言ってあるので、その気があれば十分に質問することができ、理解を深めることができるはずである。その点残念である。今後、さらにアンケート結果から浮き上がった問題点への対応策を検討し、次年度に向け、講義の改善につなげていきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記述の意見で多かったものは、「生理学や解剖学などとも関係づけて、学ぶことができた」「『生命とは何か』を専門的知識に関連させながら学ぶことができた」「プリントが分かりやすくまとめられていた」「詳しい説明で分かりやすかった」などの趣旨の意見で、例年と変わりはなかった。これらのことから、基本的には来年度の講義もアクティブ・ラーニングを取り入れ、自作のプリントと映像教材を使った現在の講義の進め方を続けたい。しかし、少数ではあるが、「プリントが見にくかった」、「もう少し分かりやすく説明してほしい」、授業に関連するつもりでしている話も「説明の途中で話がそれてしまい、どこをやっているかわからなくなった」のような意見が見られた。これらは、多様な学生の感じ方や意識の差違が集計データにも現れていると考えられる。ポートフォリオについては、「ポートフォリオシートでその日の授業を振り返ることによって、理解が深まってよかったと思う。」などの肯定的な声が聞こえた。これらから、次年度以降も大きく指導方法を変える必要はないが、さらに細く内容を検討し、学生にとって一層効果的な講義をつくってきたい。

◆今後の改善に向けて

高校教育が多様化し、入学してくる学生の学習履歴や学び方も千差万別となっている。学生の多様化が進む中、今回の学生のデータの結果や自由記述の内容を見ても、多様化だけでなく何年か前の学生と感じ方や意識も変わってきていると感じる。そのため、講義のレベルを落とさずに多様な履修者を全員満足させることはますます容易でなくなっている。そこで、以前から進めていることでもあるが、学習内容や教材の検討をさらに進め、今後もより多くの学生が満足できる講義に向け改善に務めていくことがますます重要となっている。また、自由記述の内容からも分かるように、本学の学生にとっては、生命科学の講義の内容を生理学や解剖学の内容と関係づけていくことも必要である。この点については、以前から一部学習内容を変え、取り組みは始めているが、その効果を調べるところまでは至っていない。今後、調査を行い、より効果的な講義内容の構成について検討していきたい。一方、学生の中には、高校までの暗記に頼るような学習方法から脱却できていない者が少なくない。そのため、講義にアクティブ・ラーニングを取り入れ、ポートフォリオで自分の学びを振り返らせ、自分で考え、考えをまとめることをさせている。また、学生が医療短大でリハビリテーション科学を学ぶための基礎を作るには、初年次の講義で、学習に対する意識を切り変えることも重要である。そのための方策の検討も今後引き続き行っていきたい。



◆集計データ結果について

興味・関心・理解はセットになった結果になるが高等学校までの学習環境をリセットして、これから進む道に向かって新たな気持ちに切り換えれた学生、努力する学生と「文系コースだったから解らない」と最初からさじを投げてる学生の差は大きい。「女の子だから・・・」なんて言っている時代でない、将来に向かって頑張してほしい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

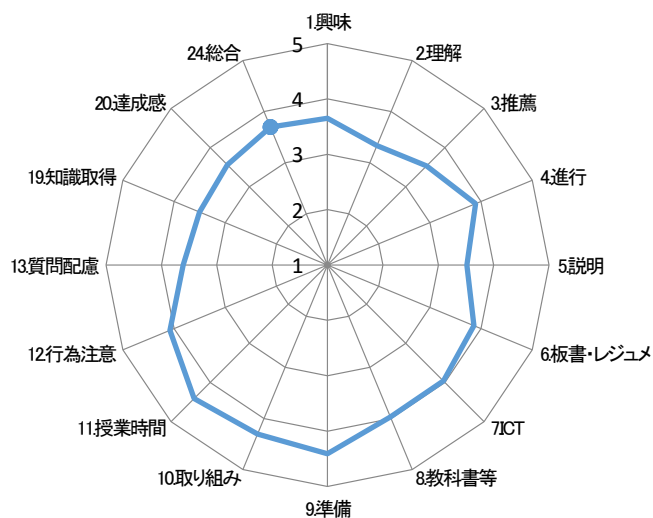
- ・ 高校で文系コースであった、授業のペースが速い、理解に苦しんだ。
- ・ 高校で理系コースであったため補習的で理解も深まり、楽しかった。

の両端の感想にはさまれた状況の学生が大多数であることは例年と変わらない。今年の特徴としては授業の雰囲気が乱れた時などは、冗談・ダジャレや軽く「皮肉の対応」で事済んでいたが今年は、本気で注意をして自分から授業の雰囲気を壊したことを反省していたが学生には好評価としてとらえられている。意外というより寂しい感がする。

◆今後の改善に向けて

文字が小さく読みづらい・・・詳しく説明しようと字数を多く板書してしまう。早く、元の状態の教室にならないかな！

質問時間が無い・・・今の教材量と講義時間からは質問時間を生み出すのは困難ですので「お昼時間」「質問用紙」をお願いします。授業中に手を挙げての質問は「あり」です。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

3. 情報処理

担当教員

斎藤 末広

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

70 名

◆集計データ結果について

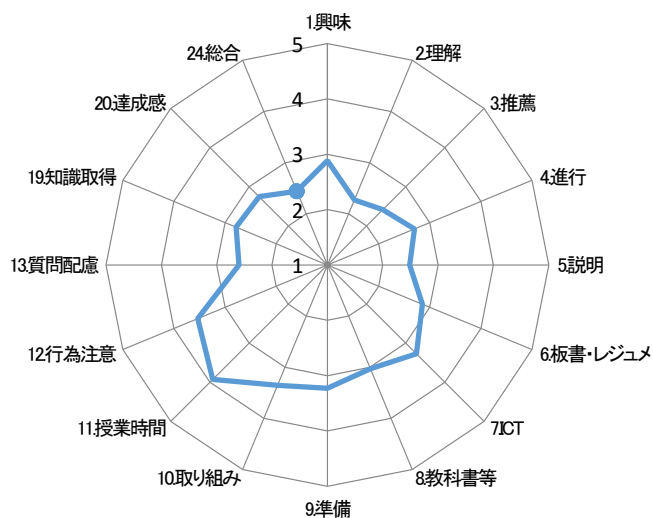
授業の満足度が低い。授業に参加してよかつと思える工夫が必要であると反省した。
 学生が自分のIT技術の成長が実感できるよう課題を用意し、満足度が高い授業としたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業の進め方の不満が多い。それぞれ、なぜ、これをするかを説明したつもりであるが、伝わっていなかったところがある。誤解されないよう、授業の課題の趣旨、やり方を伝えるようにしなくてはならない。

◆今後の改善に向けて

生徒のIT技術の習得がわかるような課題を用意し、指示を適確にする。質問に関しては、なぜ、こういう対応するのかを含めて、相手に伝えるように答える。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

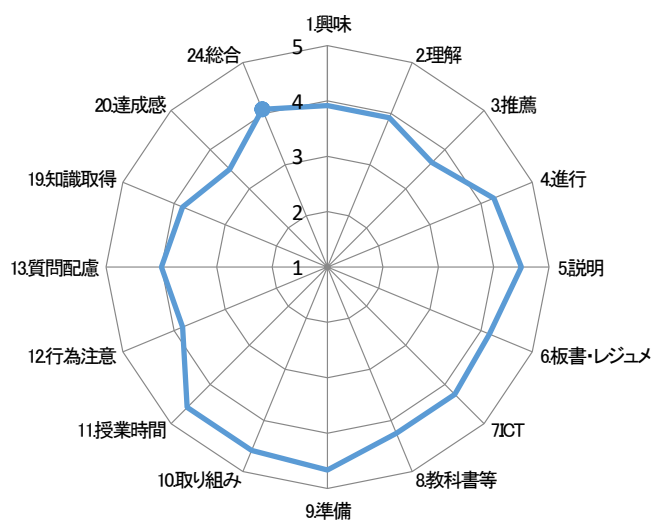
集計データでは「総合」が4となっており、講義担当者の「準備」なども良い評価をもらったのは喜ばしい。しかし、受講生自身の「達成感」が非常に低いのが気になる点である。講義の展開としては、卒業論文の構成という学生にとって身近な事柄から入り、分野は違っても専門的な論文の見本となるようなものを日本語と英語で見てもらおうという流れになっていた。講義が進むにつれて内容が自分から遠いものになっていった感じを抱かれたのかもしれない。また、「質問配慮」の評価も低かった。アメリカなどの大学では、講義の途中でよく受講生が進んで質問をするのだが、それを前提にはいけないのかもしれない。最初の講義の時に、途中でいいから質問するよう言うておく必要があるそうである。とは言え、これまで講義後に質問されたことがあるのは「試験は何を出すのか」以外に思い出せないことも事実である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

講義内容が徐々に難しくなっていったにもかかわらず、「わかりやすかった」「楽しく受講できた」という感想をもらいホッとしている。「資料の本の値段が安かった」という感想をいただいたのは今回が初めてだったので、少々ビックリし、嬉しく思った。医学関連の書籍やさらには電子辞書までもがかなり高価であることは常識だが、デジタル時代の現代、この点が何とかならないものかと考えさせられる。「眠くなるので、生徒どうし話させてはどうか」との意見があるが、コロナ禍の今は実行できないスタイルだと答えざるを得ない。これに対し、「何か作業する時間を入れてはどうか」という意見はありがたい。それなら感染防止が可能だろう。「早口だった」という感想があり、ついつい興奮して喋ってしまう点を反省させられた。

◆今後の改善に向けて

講義内容と講義方法の両方で改善点がいくつかあると考えている。まず、講義内容についてであるが、卒業論文の構成(専門的な内容には踏み込まないし、そもそも踏み込む能力がない)についての解説から入り、いろいろな分野の論文を見ていくという流れは次年度も継続し、論文をめぐる「著作権」「盗用」「代理執筆」などの問題点にも触れるようにしたい。どれだけできるかはやってみないと分からないが、論文を歴史的に眺めることも含めたい。ちなみに、数学の世界では「カルダノの公式」の盗作事件は有名である。次に、講義方法についてであるが、受講生の「眠気」対策として、何らかの作業をしてもらうように教材を工夫し、講義中に質問を呼びかけるように心がけたい。講義時間が昼食直後なので、「眠気」の完全払拭は不可能であるが、がんばって出席してくれている学生さんたちのために改善を加えていくつもりである。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

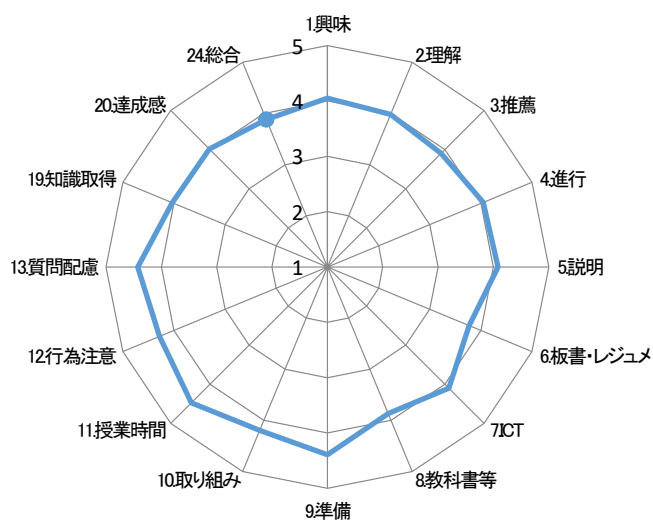
◆集計データ結果について

「総合評価」は、3.89で、もう少し上げる必要がある。各評価項目の中で、低く評価された項目は、「板書・レジュメ」、「教科書等」であった。これは、学生の自由記述からみると、「PowerPointのスライドの文字が多く小さくて見にくかった」、「レジュメの文字が見にくかった」といったことを反映したものと考えられる。ただし、スライドの内容については、「スライドは詳しく書かれていたので理解しやすかった」等の肯定的意見が散見された。また、学生の意識に関する内容で低く評価された項目は、「質問」、「予習時間」、「復習時間」であった。「質問」については、「一人一人が発言の機会がある授業という面ではとても学びやすかった」、「自分たちが意見を言う機会が多くあったので、沢山考えることができた」という自由記述があった。この点は、学生の理解力や性格特性にもよるが、質問しにくい状況にあったのではなく、リフレクションでも質問が可能であったことなどによるものといえよう。「予習時間」と「復習時間」については、初回授業のガイダンスでシラバスに基づき説明したが、学生に十分伝達されていなかったものと推察される。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

改善すべき主な点については、前述のPowerPointの「スライドの文字が多く小さくて見にくかった」、「レジュメの文字が見にくかった」という記述が散見されたということである。

一方、良かった点については、「ディスカッションできる機会があり、楽しく学ぶことが出来た」、「皆んなで考えながら行う授業だったので理解しやすかった」、「参加型の授業内容が楽しかった」といった内容の意見が少なくなく、アクティブラーニングを導入した点で好評を得たといえよう。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

PowerPointのスライドの文字が多く、小さいことから見にくいという指摘は納得できるが、後で復習する際に一層分かりやすくするために詳細に記述した結果によることも理解していただくと幸いである。実際、自由記述で「スライドは詳しく書かれていたので理解しやすかった」との意見があった。いずれにしても、今後、文章の簡略化を検討していく予定である。

「予習時間」と「復習時間」については、授業初回のガイダンスや毎回の授業で、シラバスに基づき一層平易かつ丁寧に説明したり、質問したりすることなどで、その内容の周知徹底を図り改善していく方針である。

◆集計データ結果について

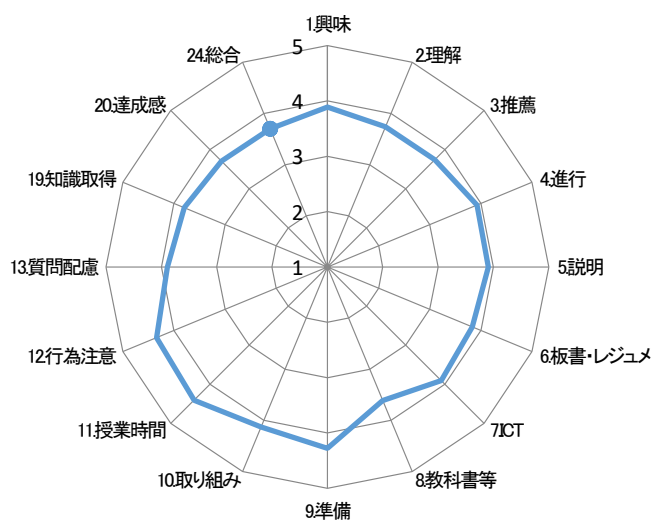
「総合評価」は、3.70で、もっと上げる必要がある。各評価項目の中で、低く評価された項目は、「教科書等」であった。

これは、学生の自由記述からみると、「PowerPointのスライドが見にくい」、「スライドの切り替えが速すぎる」といったことを反映したものと考えられる。また、学生の意識に関する内容で低く評価された項目は、「質問」、「予習時間」、「復習時間」であった。「質問」については、授業内で質問時間を設定しなかったことが主因の一つといえるかもしれない。「予習時間」と「復習時間」については、初回授業のガイダンスでシラバスに基づき説明したが、学生に十分伝達されていなかったものと推察される。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

改善すべき主な点については、前述のPowerPointの「スライドの見にくさ」、「スライドの切り替えを含む授業進行の速さ」についての記述が少なくなかったことである。

一方、良かった点については、「コミュニケーション技法など一つ一つ丁寧に説明してもらい、とても理解やすかったです。」、「授業後にはスライドを配信して下さり、分かりやすかった。」といった内容も多く、授業中の説明や授業後のスライド配信において好評を得たといえよう。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆今後の改善に向けて

PowerPointのスライドの文字数が多く、小さいことから見にくいという指摘は納得できるが、後で復習する際に一層分かりやすくするために詳細に記述した結果によることも理解していただくと幸いです。いずれにしても、今後、文章の簡略化を検討していく予定である。

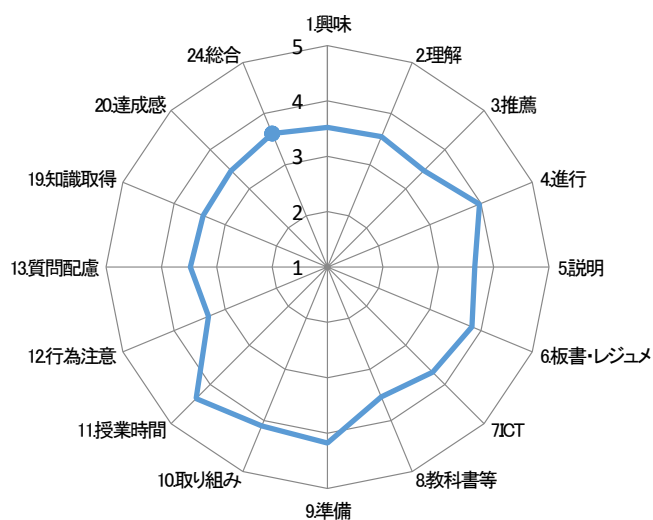
学生の意識に関する内容である「質問」、「予習時間」、「復習時間」について、「質問」では授業中に質問の時間を設けること、「予習時間」と「復習時間」については、授業初回のガイダンスや毎回の授業で、シラバスに基づき一層平易かつ丁寧に説明したり、質問したりすることなどで、その内容の周知徹底を図り改善していく方針である。

◆集計データ結果について

コロナ禍の続く状況で学生たちが頑張って学校に来てくれたことに感謝の気持ちである。隔週で対面とリモートの講義という形は講師にとって初体験だったので、結果がどのようになるか大いに心配だったが、なんとかやり切ることができ、レポートを見る限り、大きな失敗をせずに終えられた感じがしている。総合的な評価が若干の低下を見た(およそ3.5ポイント)ようだが、当方の授業準備と講義の進行に対しては比較的高い評価をしてくれた(4.0強)ことがうれしい。講義の狙いがコミュニケーションについての反省と、現代社会を支える科学技術を生み出した偉人の生き様を学ぶという2点にあったわけだが、いずれも学生の興味のある内容ではなかった(約2.5)ようだ。2兎を追って1兎をも得なかった感なきにしもあらずということか。講義中の私語注意が足りない(ほとんど2.0)ことに関しては、鳥居先生にそのパワーを分けてもらえればどんなにいいかと、叶わぬ願望しきりである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

講義の狙いが大きく2つあることが、学生にとっては分かりづらさを生んでいるようだ。「もっと授業内容を明確にしてほしかった」、「何を伝えたいのか分からなかった」などの意見が寄せられている。コロナ対策としてマスクとフェイスシールドを着用しながらの講義だったので、マイクを使用しても声が通らない時がかなりあったようで、「たまに声が聞こえにくかった」、「対面じゃない時の声が聞きづらかった」などの声が見られる。「授業中うるさいときは注意してほしいかった」という当方の怠慢と、「先生が1人で笑っている」マイペースの授業進行のせいで、さらに内容が分かりにくくなった生徒さんもいたようである。もっとも、「先生が楽しそうだったので自分も気楽に受けられた」という肯定的な反応もあり、いろいろだと感じている。「敬語の学習がよかった」、「歴史上の偉人について知れた」という感想もあることで、ある程度狙いが達成できているのではないかと自分に言い聞かせている。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

◆今後の改善に向けて

講義の狙いの2つのうち、自分の関心がどちらかというとこれまで現代社会を支える科学技術とその開拓者の方にあつたことを反省すべきだと考えている。もう1つの狙いであるコミュニケーションについての研究の内容をもっともっと充実していかなければならないだろう。数年前から「敬語表現」についての検討を授業に取り入れているが、その他の言語・非言語のコミュニケーションについても、講師自身が勉強し、実践していかなければならない。その範囲は膨大であつて、すべてを一度にという訳には到底いかないので、コツコツと少しずつ内容を豊かにしていくしかないのだが、次年度はぜひとも「手話」と「ジェスチャー」の非言語コミュニケーションについて少しでも語れるよう研究していきたいと考えている。コロナ対策のマスクとフェイスシールド着用の結果、声の通りがそこなわれ、講義自体のコミュニケーションがうまくいかなかったのは皮肉である。講義の最初に学生さんたちに言っている「コミュニケーションはうまくいかないのが原則」という言葉が、下手な講義の言い訳かもしれないと開き直りにならないよう工夫していきたいと考える。

◆集計データ結果について

教科書の使用を含むすべての項目で平均4.0以上であり、おおむね良い評価であった。教科書については、感染症拡大の影響により、範囲を指定して活用したため、例年ほど十分に教科書を活用することができなかったが、昨年度よりは活用できたと考えている。学生の意識については「14.熱心さ」で「どちらかといえば取り組んだ」「取り組んだ」と答えた学生が95%超であり、制約の多い環境の中、授業に対する興味を引く授業展開ができていたと考える。

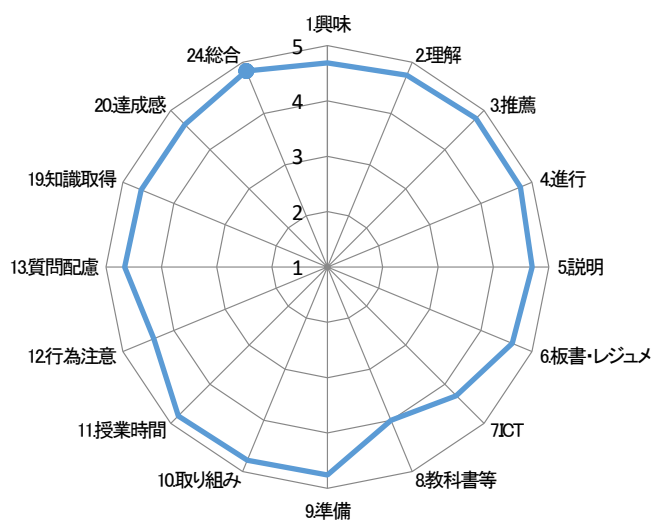
一方、予習・復習時間がまったくないとした学生が多かったが、授業内で間に合わなかった準備や練習を行うよう指示し、そのように各グループとも行い授業に間に合わせてきたため、教員の求めるレベルの学習はできていたと思われる。準備や練習は、予習・復習には当たらないと考える学生が多かったのかもしれないが、これは例年通りの傾向である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

内容については「クラスで協力して出来たし、実際にリハビリをする際にどうすれば良いのか考えることができたから良かった」「この授業を通してPTになって働いた際、患者さんや利用者さんをレクを通して楽しませたり、機能回復を促したりとレクの大切さを感じた」「自分たちでレクをクラスメイトに実行してみてもまだ改善の余地があったりと自分の欠点を見出すことができた。現場に出てこのような機会に遭遇した時は学んだことを生かしたいと思った」「レクリエーションの授業は、毎回授業がすごく楽しみで、みんなで楽しみながら授業を受けることができた。また、グループごとに分かれて行った活動では、みんなで協力してそれぞれの役割を果たすことができ、達成感も味わうことができた」など、肯定的な意見が多く、教員の意図が伝わったようである。

教員の指導方法も「クラス全体だけでなく一つ一つのグループが良かった点やアドバイスなどを貰えてとても丁寧な授業だった。」との意見が挙げられた。

一方で「もう少し準備などの時間が欲しかった」「教科書をあまり使わなかったの、代用できるなら、資料などで十分足りるのではないかと思った」などの改善要望も数件挙げられた。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

◆今後の改善に向けて

今年度は、感染対策のため、PTとOTのクラスごとに授業を実施した。2クラス同時に行いリモートで繋いだ昨年度とは、また異なる、新たな試みである。感染対策のため、できるレクリエーションに限りがあったり、時間を短縮して行うなど、受講生には不便を強いたこともあったが、その中でも、教員、学生ともにできることを見つけ、実行することができた。

クラス間交流ができなかったことはとても残念であるが、ここで磨いた対人交流技能を、是非学校生活でも活用し、交流の幅を広げて頂きたい。教員からすれば、PT・OTのクラスの特徴がよく見て取れる機会でもあった。それぞれのクラスに合わせた授業の仕方を、更に工夫していきたい。

一方で要望のあった教科書の活用は、授業の中で満遍なく紹介しているつもりであったが、十分に意図が伝わらなかった学生もいたようである。今、というよりは今後就職するにあたって有用であるということを含め、いかに学生の満足度を高めるかも、検討していきたい。

◆集計データ結果について

After reading the comments of the students, I felt that many of the students have been satisfied with the class lessons. One student commented: 全てが英語なので、聞き取りにくいところもあったが楽しかった。

One objective of the class was for the students to interact among themselves using the English that they were comfortable using, a student's comment: 説明をした後に理解できたかできてないかを必ず確認して頂けたので英語が苦手な私でも置いていかれることなく授業についていくことができました

For most of the students, their attitude towards speaking English in class seemed positive.

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

The students tried their best to understand the contents of the English lessons, and because of the all-English content of the class, one student felt: 周りの人と話しながら学ぶアクティブラーニングが多くとても良かったです。

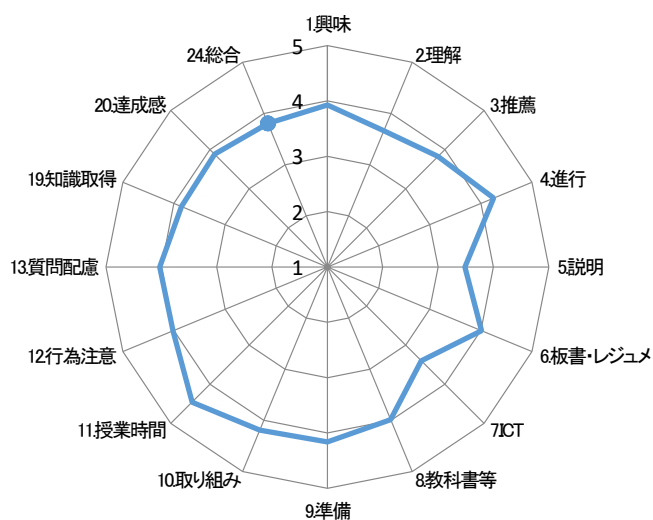
In general, the students communicated and used the English they know and did very well. Other comments from the students:

1. 学生主体の授業であった。
2. OTに必要な英単語や会話文を学ぶことが出来て良かったです。
3. いつでも質問ができる環境だったので分からないところもすぐ確認ができ、とても良かった。
4. グループで教え合う時間があり、ペアで会話をするのもできてよかった。

I appreciate the students' honesty and the time they took to fill out the class evaluation.

◆今後の改善に向けて

I am grateful for the some of the useful comments that the student's made, and I will try to incorporate the suggestions into my teaching.



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

10. 外国語 2（韓国語会話）

担当教員

金 春子

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

62 名

◆集計データ結果について

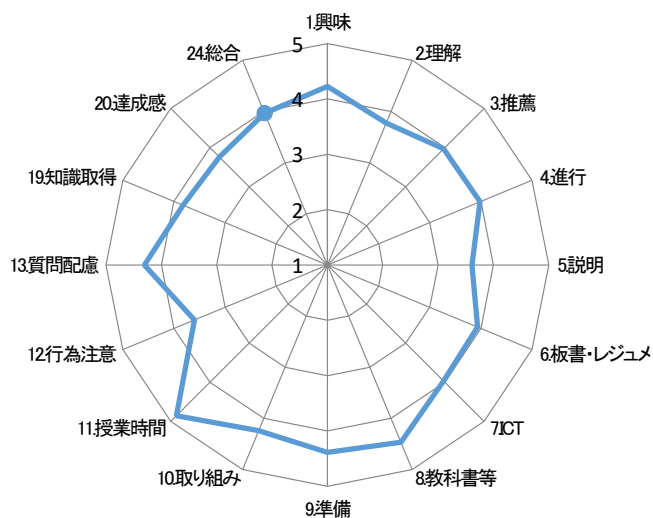
韓国語を予習復習する時間が1時間くらいと、大変短いですが、試験結果はそれなりの成績であり、理解をしてくれているので、嬉しく思います。みんな韓国語に関心をもって授業に取り組んでいる様子が集計データを見て感じることができます。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

韓国語を学びたい学生が多く、韓国語に関心をもって授業に参加していたこと、また短い授業であったが、先生の講義をよく聞き、理解していることが自由記載を読んでわかりました。64人の学生たちの授業で、一人一人に目が行き届きませんが、自由記述でみんなの関心度がわかりました。

◆今後の改善に向けて

授業は後ろの方まで配慮して、大きな声と大きな文字で書くように改善します。授業中は私語を慎むように注意していきます。授業についてこれない学生のための配慮も必要だと感じました。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

◆集計データ結果について

集計結果の各設問において

●質問15「理解できない点などを質問しましたか」に対し、取り組まなかった/質問していないとの回答者が8名いました。質問しやすい環境を作ることが今後の課題だと考えます。

●質問17「この授業1回につき、予習にどのくらいの時間をとりましたか」に対し、まったくなしとの回答者が2名、1時間以内との回答者が8名いました。生徒が意欲的に取り組むよう如何に予習を宿題として出すことが今後の課題だと考えます。

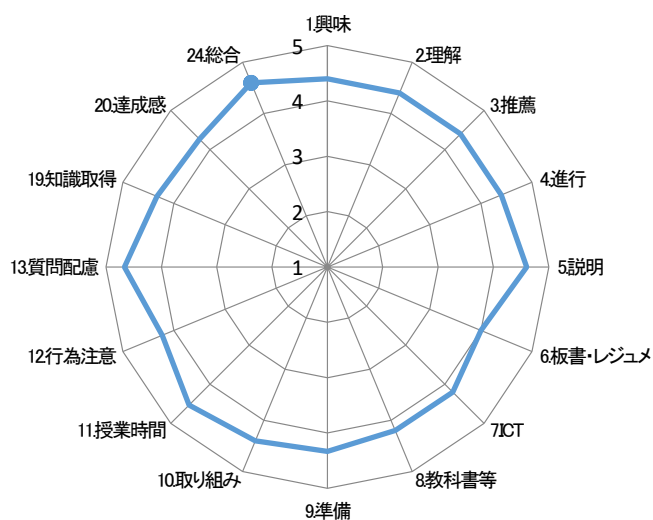
●質問18「この授業1回につき、復習にどのくらいの時間をとりましたか」に対し、まったくなしとの回答者が2名、1時間以内との回答者が8名いました。目標感を持って取り組んでもらえるよう意識付けをしていくことが今後の課題だと考えます。

●質問21「この授業の授業到達目標を知っていましたか」と質問22「この授業科目がディプロマポリシーとどのような関連をもっているか知っていましたか」に対し、知らなかったとの回答者がそれぞれ7名と12名ほどいました。全体感を持って取り組んでもらえるよう意識付けをしていくことが今後の課題だと考えます。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

●予習・復習をYouTubeの動画で一人で行えてうれしかった、小テストを実施する点がよかった、スライドが見やすかった、教室の温かい雰囲気がすごく好きでしたということを知り、安心しました。

●一方で「もう少し医療現場で使える中国語じゃなくて自分の趣味などの自己紹介など患者さんに自分のことを話せるような内容も学びたいと思いました。」という貴重な意見もいただきました。今後の授業内容に取り入れたいと考えます。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

●今後も引き続き発音を分かりやすく説明して、みんなに覚えていただいた上で自己紹介や自分の趣味などについて会話練習していただきたいと思います。基礎文法を教えた後に、みんなが中国語で一番言いたいことを中国語で言えるよう授業のやり方を工夫しながら、今までの授業のやり方よりもっと楽しく身近で中国語を覚えていただきたいです。

●授業到達目標やこの授業科目がディプロマポリシーとどのような関連があるかについて、今後毎回の授業で少しでも明確に生徒さんに説明し、皆さんの学習モチベーションを高めて授業を進めていきたいと思っています。

●今年度授業の後に積極的に中国語について質問した生徒さんが3人ぐらいいました。今後授業の中でも全員に気軽に質問できるようにやり方を工夫しながら授業を進めていきたいです。

●YouTubeの学習動画を活かして、みんなの中国語授業へのモチベーションや大学生としての学習意欲を高めるような授業を行っていききたいと思います。

◆集計データ結果について

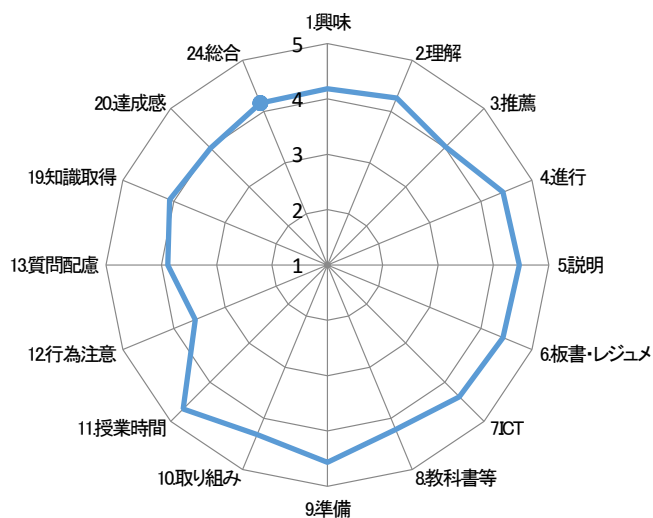
「興味」「理解」「推薦」「進行」「説明」「板書・レジュメ」「ICT」「教科書等」「準備」「取り組み」「授業時間」「知識取得」「総合」の各項目は、いずれも4以上であり、学生からある程度の評価を得られたと考える。今回の集計データをふまえ、さらなる向上を目指したい。「質問配慮」は3.88、「達成感」は3.98の評価であった。講義内容を工夫することで、より改善を図りたい。また、「行為注意」については3.58と他の項目に比べて評価が低かったため、特に配慮していきたい。「授業到達目標」「ディプロマ・ポリシーとの関連性」については、半数近くの学生が「知っていた/達成できた」と回答したものの、十分に認知されているとはいえない。そのため、本学の教育理念と講義内容との関連性や、講義の到達目標を、より明確に学生に伝えていきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

講義内で新聞記事を利用したことについて、「資料が充実していたので、いろいろな視点から授業のキーワードについて知ることができた」という意見があった。また、学生のコメントを共有したことについて、「様々な方向での考えを知ることができた」という感想があった。総じて、社会問題に対する多様な視点を持てたことや、考え方の視野が広がったことを評価するコメントが目立った。このことから、常識的な見方にとらわれず、多角的な視点から物事を捉えるという社会学の基本的な考え方を学んでもらう意図が伝わったことが考えられる。新聞記事の利用やコメントの共有は、来年度以降も積極的に実施していきたい。一方で、教員から学生に問いかけを行うことを求めるコメントや、グループワークの実施を希望するコメントもみられた。今後は、教員と学生とのインタラクティブな講義を行い、学生同士が意見交換する時間も取り入れていきたい。

◆今後の改善に向けて

コメントシートを介した質問の受け答えに加え、講義中にも学生との質疑応答の時間を設けることで、学生がより質問しやすい環境を整え、「質問配慮」の向上を目指す。また、講義中に教員と学生がコミュニケーションを取る機会を作り、双方向性のある講義を行ってきたい。加えて、グループワークを実施し、学生同士での視点の共有を行うことで、新たな気づきを得られるよう促したい。今後も、新聞記事を用いた講義を継続することで、新聞という媒体から社会問題をより身近に感じてもらい、多角的な視点を養ってもらいたい。さらに、講義内容と「ディプロマ・ポリシーとの関連性」を明確に伝えることにより、学生の意欲的な学習を促進するようにしたい。学生が、講義の到達目標である「身近な社会問題への理解・思考・興味・関心」を深められるよう、講義内容のさらなる改善を図り、「達成感」を得られる講義を行ってきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

科目名

13. 生物と環境

担当教員

石黒 茂

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

28 名

◆集計データ結果について

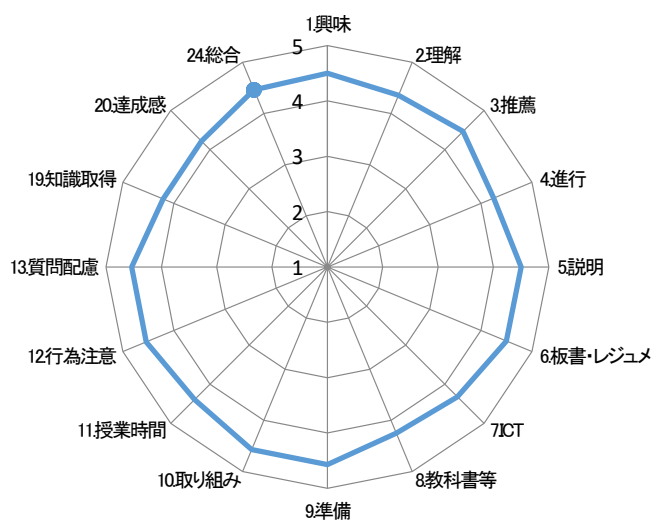
総合評価が4.5、その他の項目の評価も4.5付近の値がほとんどであり、昨年度より、すべての項目において評価の値が上昇していた。昨年度は、新型コロナの影響もあってか、例年に比べ評価が低かったが、一昨年に比べてもほとんどの項目で評価が高かった。講義の内容や進め方は基本的にここ数年変わっていないので、数値が上下する理由はあまり思い浮かばないが、この授業は、後期の選択科目であり、選択者数が年によって変わり、アンケートも全員が提出していないことが、その理由の一つと考えられる。今回提出されたアンケートが、どこまで正確に学生の実態をとらえているか疑問は残るが、結果を真摯にとらえて来年度に向け、学生に興味を持ってもらえるような授業の検討を進めたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「生理学や解剖学の内容も踏まえながらの授業だったのがよかった」「プリントが配布されるが、スクリーンにも写して授業を進めて下さることで分かりやすかった」「プリントを使って授業をしていたためとてもわかりやすかった」などの声があり、自由記載の内容も例年とほぼ同じく、よい記述がほとんどであった。

◆今後の改善に向けて

本年度は、昨年と異なり例年と同様の講義を行うことができた。集計データの結果、自由記載の内容ともに、例年とあまり変化はなかった(昨年度は例外)ので、講義の内容や進め方を基本的に変える必要はないと思うが、今後、この結果をさらに検討し、来年度の講義がさらによいものとなるようにしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

科目名

14. 教養演習[1PT]

担当教員

松村 仁実

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

43 名

◆集計データ結果について

多くの項目で4点以上の結果であった。学生の意識については、8割以上の学生が熱心に取り組み、目標を意識できていた。質問する項目については、7割の学生が取り組みなかったと回答している。予習については7割弱、復習については5割弱の学生が行っていない結果であった。4割弱の学生が、到達目標やDPとの関連性を理解していなかった。

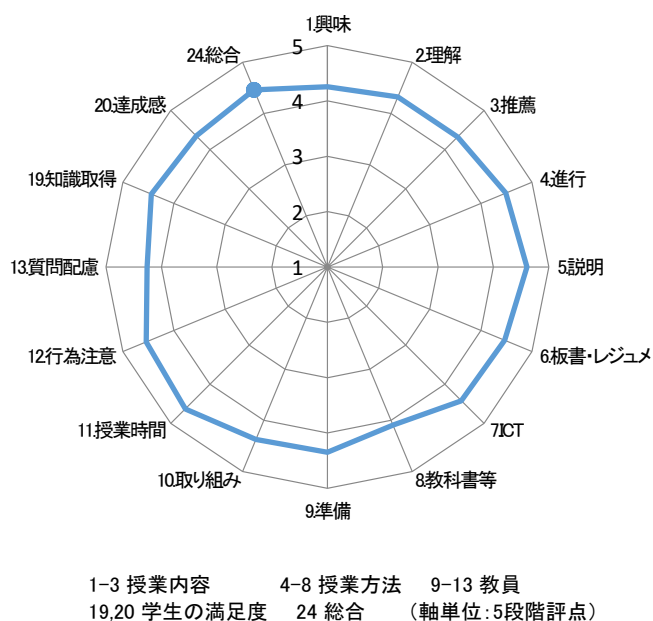
大学での学び方を学ぶことについて、ほか医療人としての素養について考える時間が中心であり、予習・復習という点では行いにくい科目である。しかし、到達目標やDPとの関連性についての理解度が低い印象である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生として、レポートの書き方やコミュニケーションの取り方に加え、社会人、医療職種に就く上での学びがあったとの意見がみられた点は評価できる。自身で考えることにうまく取り組むことができている学生がいた点はよかった。一方で教えられられることに満足している部分があることも見受けられる結果であった。

◆今後の改善に向けて

大学での学び方を学ぶということを通し、DPを強く意識するように説明を加えていきたい。また、DPが目指す力であることを分かったうえで、自身が今からどのように学ぶかを多くの学生ができるように工夫が必要である。レポートの書き方など伝える点が中心になってしまいう内容などは、学んだ知識を活かすような課題設定も行うことで対応していきたい。また、自身が考えていることを発信する場を作るなどの工夫もしていきたい。



科目名

15. 教養演習[10T]

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

34 名

◆集計データ結果について

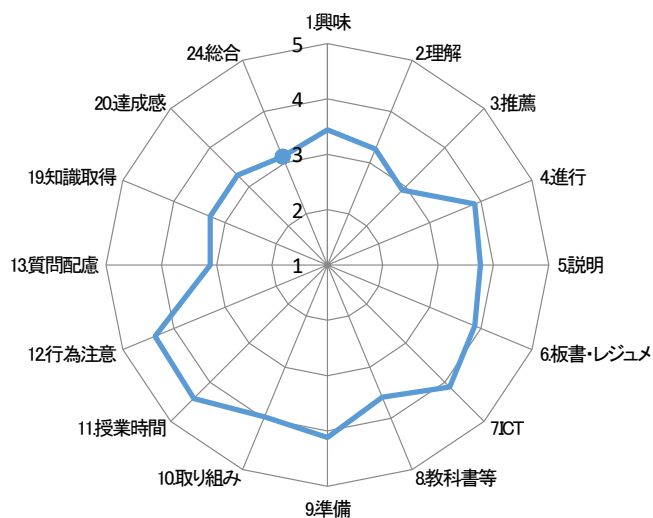
レーダーが3点ほどから4点台と幅があるようだ。授業時間開始前に授業の準備をするなど当たり前のことを指導し、また学習の仕方などを実践を通して演習という形で行ったが残念な結果である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

臨床に向けての準備期間であり、講義初回には全員でシラバスを読み合せ、授業内容を伝えたが、その意味が忘れ去られてしまったのかは分からないが、あまりにも残念な記載が多い。

◆今後の改善に向けて

毎回の授業の目的を授業の始めに確認し自己採点するなどしていかないと、あまりにも受け身的な者になるであろうと思う。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

16. 教養演習[3PT]

担当教員

加藤 真弓・松村 仁実・臼井 晴信・宮津 真寿美・木村 菜穂子・山田 南欧美・齊藤 誠・濱田 光佑

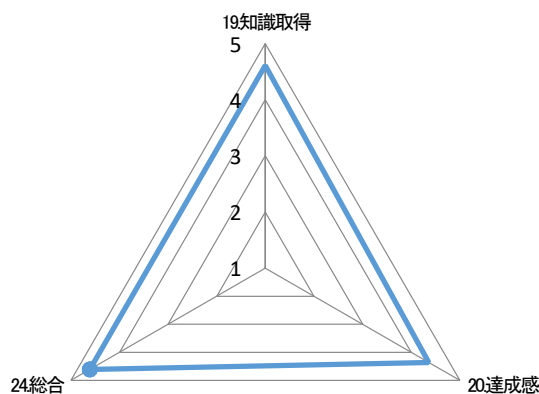
専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

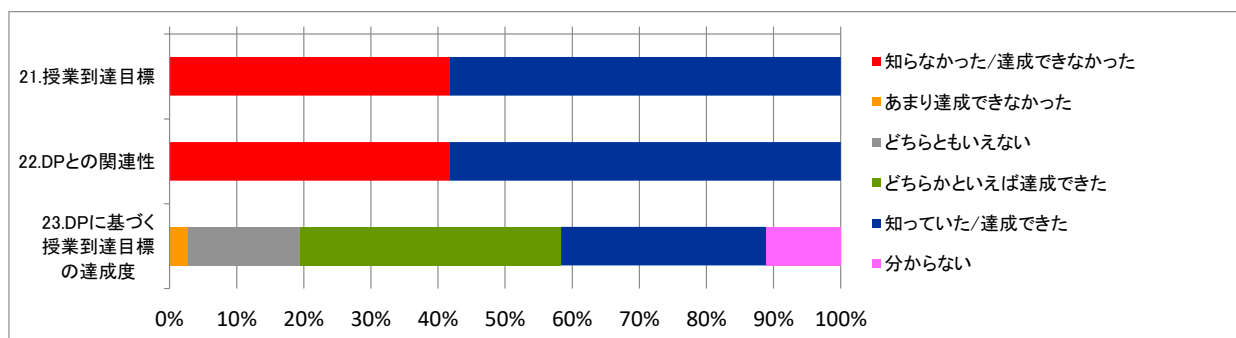
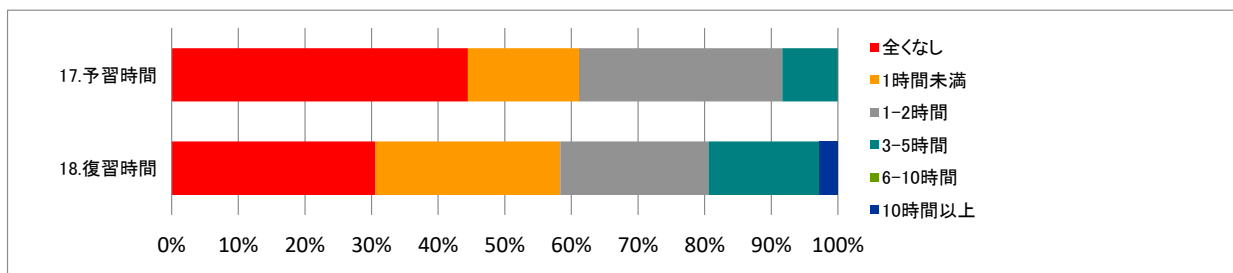
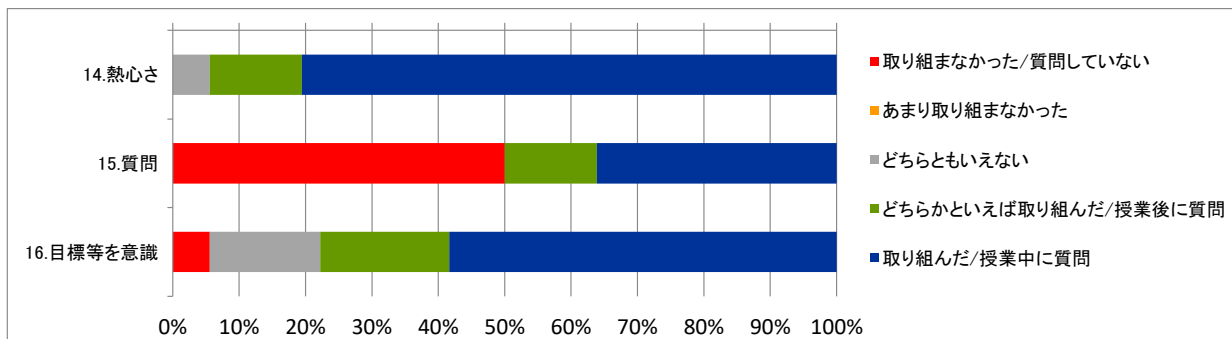
36 名

◆集計データ結果について



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

17. 教養演習[30T]

担当教員

横山 剛・廣渡 洋史・加藤 真夕美・渡邊 豊明・清水 一輝・松田 裕美・外倉 由之

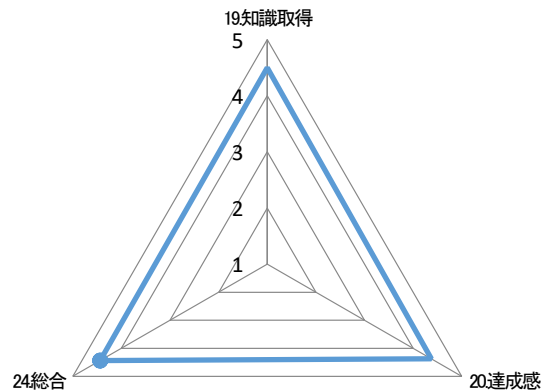
専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

16 名

◆集計データ結果について

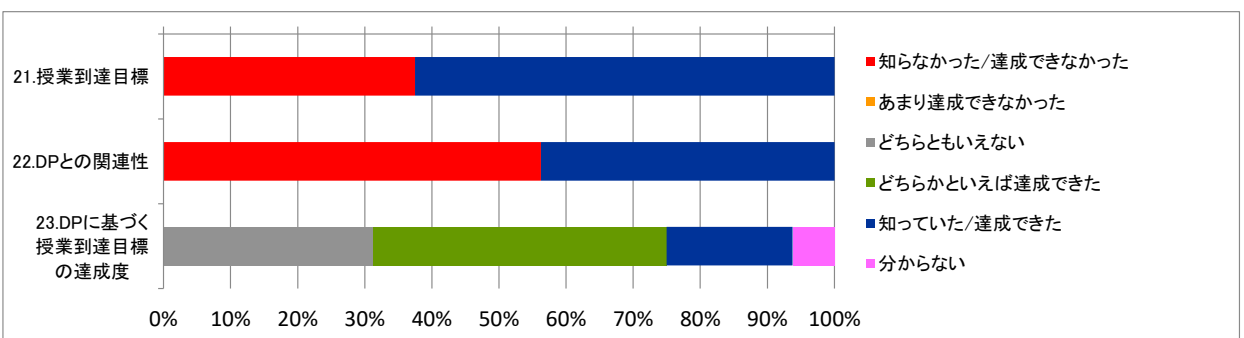
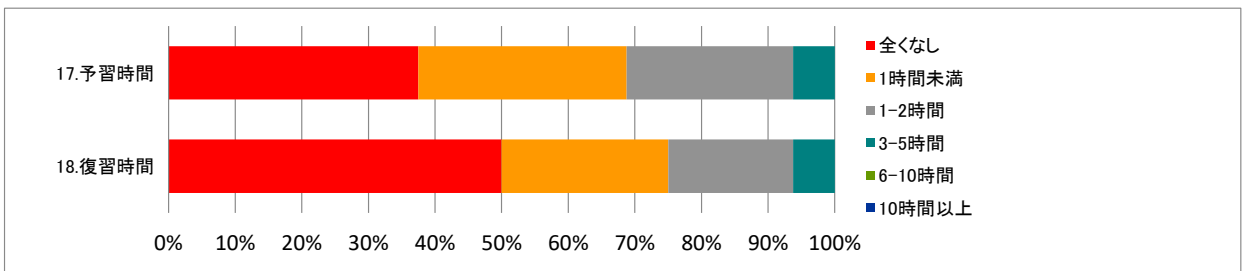
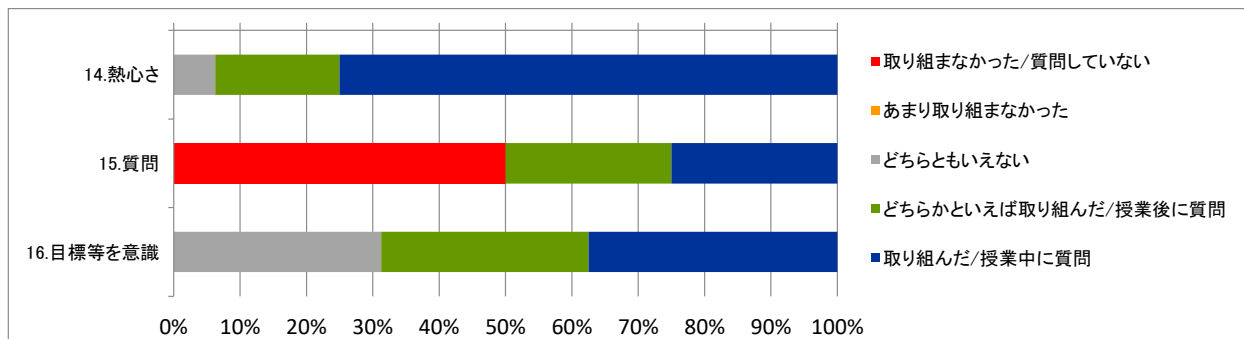


19 学生の満足度(知識習得)

20 学生の満足度(達成感)

24 総合

(軸単位:5段階評点)



◆集計データ結果について

総合評価において、評価が5段階評価の3.77であり、おおむね評価は良好である。今回の評価では、「板書・レジュメ」の項目が全体の評価に比べ特に低くなっている。自由記述にある事前配布した資料の文字が小さく、印刷後に読みにくかったのが大きな要因と考えられた。板書は、必ず半分は遠隔授業となっており、画面を通しては見にくさもあり、あえてしなかった。

また、担当教員の準備や熱意の評価は他の項目に比べて高く、教員の全員に一定の知識を理解してほしい気持ちは伝わっていたと考えられた。

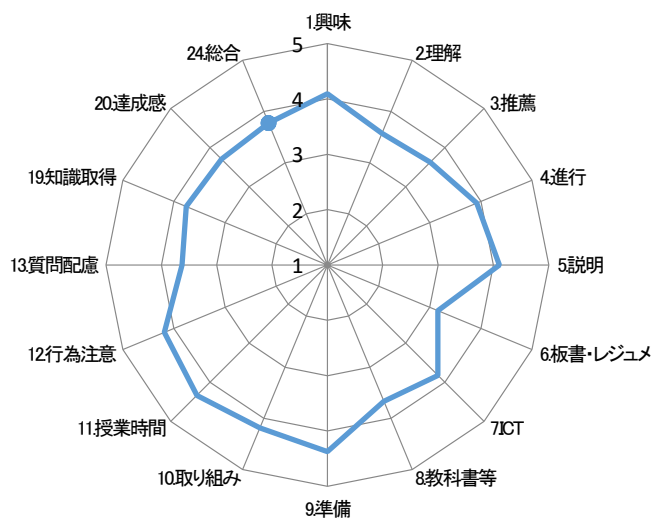
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

この授業では前期で解剖学の全範囲を終えるため、予習・復習がしやすいようにシラバスに沿った授業を行った。また、その日の予習や復習ができるように授業資料を準備し、教科書や参考書名を記載しておいた。学生の理解を深めるため、国家試験問題をピックアップし、小テストも実施した。さらに、授業後には必ず質問等の時間を設けるようにした。しかし、授業終了時、学生からの質問は毎回同じ学生からが多かったため、学生自身で疑問に思うことは積極的に質問してほしいと思った。印刷を大学の方でやってほしいとの声があるが、事前に資料を配布するため、次年度も資料のpdf配布としたい。ただし、印刷する学生のことも考え、文字はもう少し読みやすく改善する。

◆今後の改善に向けて

どうしても教員がしゃべることが多くなり、一方向の授業となってしまうため、双方向性の授業を取り入れるようにしたいと考えている。様々な資料を授業で使い、イメージ化できたことは評判がよかった。次年度では、もう少し授業開始前や終了時に要点を伝え、予習・復習をしやすいし、改善を図っていききたい。

予習時間・復習時間がまったくなしの学生がおり、少しでも解剖学を勉強したいと思ってもらえる努力をしていきたい。解剖学は暗記になりやすいが、理解する授業を行っていききたいと考えている。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

19. 解剖学Ⅱ

担当教員

中野 隆

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

75 名

◆集計データ結果について

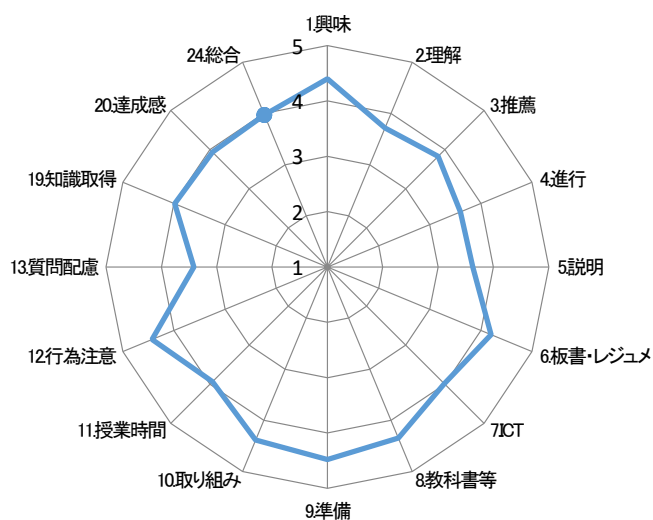
きわめて低得点である。これは、自由記載欄から推測される通り、「判り易い」という肯定的意見と「何を言っているのか判らない」という否定的意見に二分されるためであろう。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「判り易い」という肯定的内容と、「何を言っているのか判らない」という否定的内容に二分される。後者は、白紙の答案を提出する、全く学習意欲がない学生の記載と推測される。振り返しシートに質問を記載する欄があり、講義後は質問を受けるために控室に待機することを明言している。それにも関わらず「質問する機会が無い」、「学生の声に耳を傾けて欲しい」という記載が多い。自ら質問する姿勢がない、学ぶ意欲が無い。

◆今後の改善に向けて

講義を改善する必要性は認めない。改めるべきは、講義中に板書を写すのみで説明を聴かない・メモしない、練習問題を解かない、質問の機会があるにも関わらず質問しない、過半数の学生が白紙あるいは白紙同然の答案を出す学生の学習態度である。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

20. 解剖学Ⅲ

担当教員

中野 隆

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

86 名

◆集計データ結果について

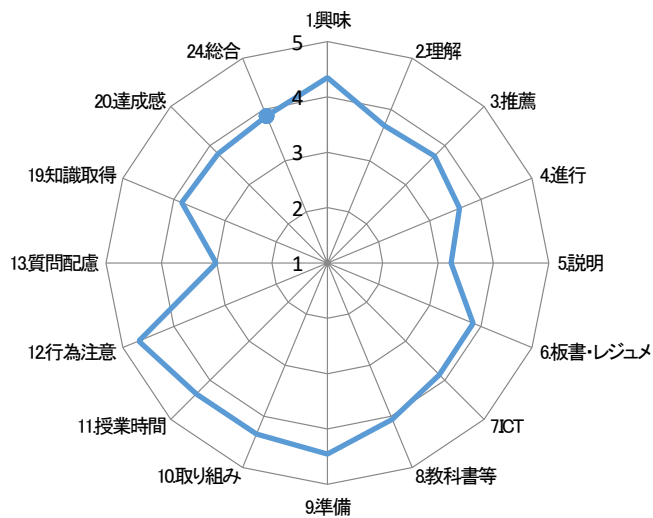
きわめて低得点である。質問に対する配慮は、「講義終了後に控室で待機し、質問に答えている」、かつ「振り返りシートに質問欄があり、講義時に質問に答えている」。これらの機会を有効活用するかは、学生側の問題(学習態度)であり、教員に責任転嫁する問題ではない。「聞き取りにくい」という意見についても同様に、振り返りシートなどで質問をするべきである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

講義時間が他学に比べて少ないため、講義ペースが速い。来年度より、開講時期の変更およびサブノートの改訂を行う。

◆今後の改善に向けて

講義内容を改善する必要性は認めない。改めるべきは、学生の学習態度である。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

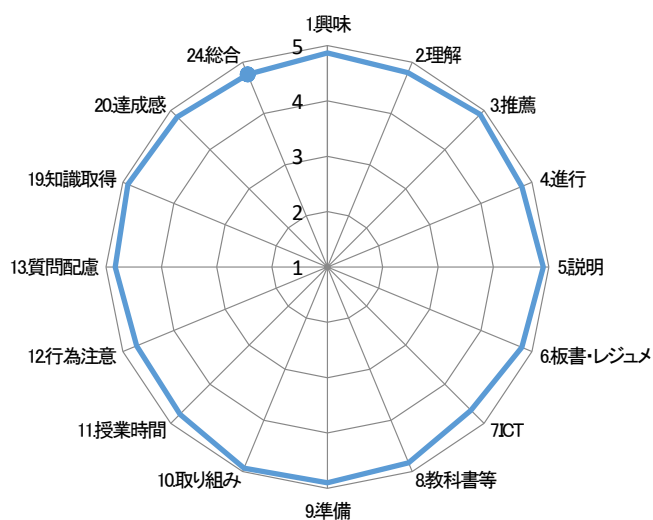
全ての質問項目において、4.5点以上と高い評価を得ることができた。授業内で小テストを実施したり、デッサン課題があったりしたため、予習・復習時間もほとんどの学生が取ることができていた。1年次のなかでも重要となる解剖学をより三次元的に理解することを目的とした科目であるが、達成感4.8点、総合4.7点と高い評価となっており、学生が納得する授業を展開できたと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本科目内で実施した骨デッサンを通して、理解を深めることができたという意見が多数挙がった。本科目では、解剖学のなかでも骨学を中心に講義を進めた。骨デッサンを通して、細かい骨の特徴や三次元的な構造について十分な理解を促すことができたと考える。また、後期に実施した、標本観察実習についても、実際の人体標本を観察することができ、さらに理解が深まったという意見が多数あった。実習中に教員が行った説明についてもわかりやすかったとの意見があり、「身体についてを1番詳しく知れた教科でした」との意見も得られた。コロナ禍において、一時期標本観察実習を行えなかったが、本年度から再開することができ、学生の学修に良い影響を与えることができたと考える。

◆今後の改善に向けて

今年度の内容について、高い評価を得ることができており、骨学に関する学びを十分に促すことができたと考える。標本観察実習についても学生の評価は高く、会場となる大学様のご協力が得られる間は、継続して実施していきたい。加えて、骨学以外の解剖学知識についての理解を深めることも課題であるため、来年度に関しては、骨学以外にも神経系や内臓系に関する知識について三次元的に理解をできるように授業を展開していく予定である。解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの授業内容とうまく連動させながら、解剖学の知識を深めていくことを目指す。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

22. 解剖学実習[2年]

担当教員

木山 博資・木村 菜穂子・山田 南欧美・松村 仁実・渡邊 豊明・清水 一輝・
外倉 由之・廣渡 洋史・松田 裕美

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

16 名

◆集計データ結果について

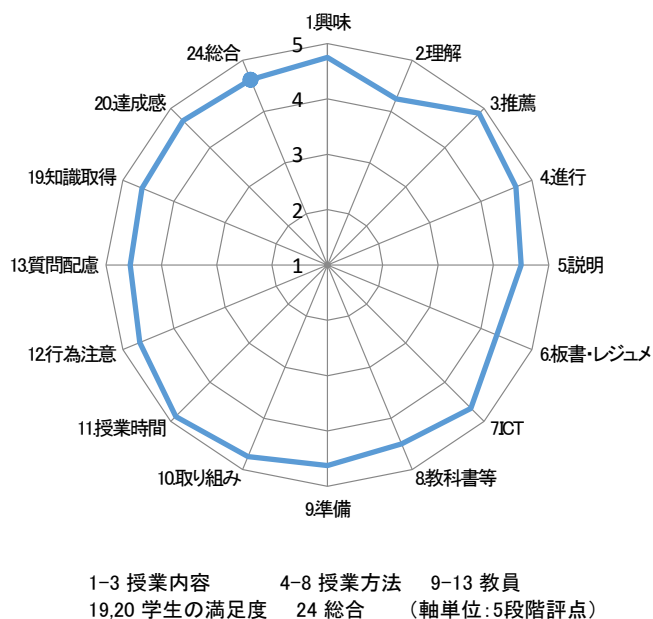
総合評価は4.6点、達成感4.7点と、学生の高い評価を得られたと考える。本科目は、外部大学へ解剖見学実習に行くことが主であることから、講義時間はないため、板書・レジュメの項目のみやや低い点数になったと考える。また、献体を実際に触れて身体の構造を理解することが本授業の内容であるが、実習時間は半日であり、全ての部位を観察・理解するには更なる時間が必要であることから、「理解しやすい授業であったか」という設問において、やや低い点数となったと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

解剖見学実習について、「貴重な経験をすることができた」という意見が多数得られた。「教科書だけでは理解できないところが理解できた点が非常によかった」という意見もあり、机上で身に付けた知識を、三次元的なイメージとして理解に繋げることができたと考える。「説明ができる教員の数を増やしてほしい」との意見もあり、今後、引率する教員数などについては検討の余地がある。

◆今後の改善に向けて

概ね高い評価を得られたことから、今後も外部大学の協力が得られる限り、解剖見学実習を継続していきたいと考える。コロナ禍において、一時実施できない時期もあったが、適切な対応を取りながら、学生に学びの機会を与えられるよう、努めていく。



科目名

23. 生理学 I

担当教員

宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

79 名

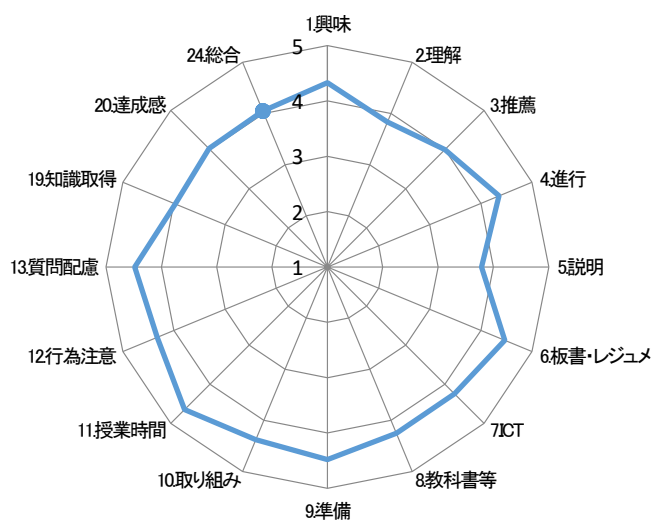
◆集計データ結果について

総合得点が4.1点で、まずまずの評価である。
4.0点以下だった項目は、「理解」と「説明」である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業前に、学習ポイントを明記した予習ガイドと、要点を示した予習スライドの配信をし、授業前までに、学習ポイントに関連した予習課題に沿って予習内容を報告させた。授業では、音声入力した授業スライド配信、Meetでのリアルタイムでの質問&解説、授業約1週間後、復習の確認のため小テストの配信を行った。

学生からの自由記載の中で良かった点として、スライド内容、音声スライド配信、スライド資料の配布、質問のしやすさ、予習復習がしやすい、自己学習時間がある、自分のペースで勉強できることなどが、多数あがっている。要望として、予習が大変、質問しにくい、スライドの音声が悪い(早い、小さい)、などがある。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

生理学 I は共通科目のため、昨年度からコロナ禍によりオンライン授業を行っている。スライドやスライド説明は、昨年より、若干丁寧に修正した。

オンライン授業だったが、学生からの評価は良好だった。予習後の授業スライドは理解がしやすく、予習→授業→復習というサイクルで勉強できたようである。スライドを1週間程度視聴できるようにしたので、自分のペースで勉強できたことをメリットにあげた学生が多い。

スライド配信後、リアルタイムでの質問時間を設定しており、質問しやすいという意見が圧倒的に多かったが、逆に、質問しにくいと記載する学生がいた。質問者の名前がわかるので質問しにくい、と記載している学生がいた。また、解説音声付きのスライドを配信しているため、途中で止めることもできるし、何度も繰り返し視聴できるはずだが、音声が良いという意見がある。今年度は、授業に合わせて工夫しない学生がいる印象がある。学習方法について、さらに丁寧に指導する必要があるのかもしれない。

科目名

24. 生理学Ⅱ

担当教員

宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

50 名

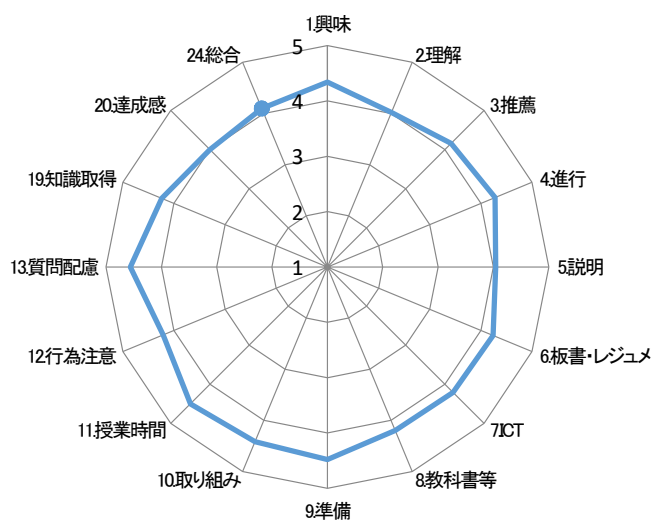
◆集計データ結果について

総合点が4.1点だった。4.0点以下の項目はなかった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業前に、学習ポイントを明記した予習ガイドと、要点を示した予習スライドの配信をし、授業前までに、学習ポイントに関連した予習課題に沿って予習内容を報告させた。授業では、音声入力した授業スライド配信、Meetでのリアルタイムでの質問&解説、授業約1週間後、復習の確認のため小テストの配信を行った。

学生からの自由記載の中で良かった点として、予習ガイド、スライド内容、音声スライド配信、スライド資料の配布、質問のしやすさ、予習復習がしやすい、などが、多数あがっている。要望として、直接説明して欲しい、対面授業がよい、などの意見が少数ある。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

生理学Ⅰと同じ形式で、オンラインで授業を行った。生理学Ⅰより、評価点数が高く、自由記載欄での要望等が圧倒的に少ないので、この授業形式に慣れ、それぞれのやり方で工夫して勉強するようになったのかもしれない。

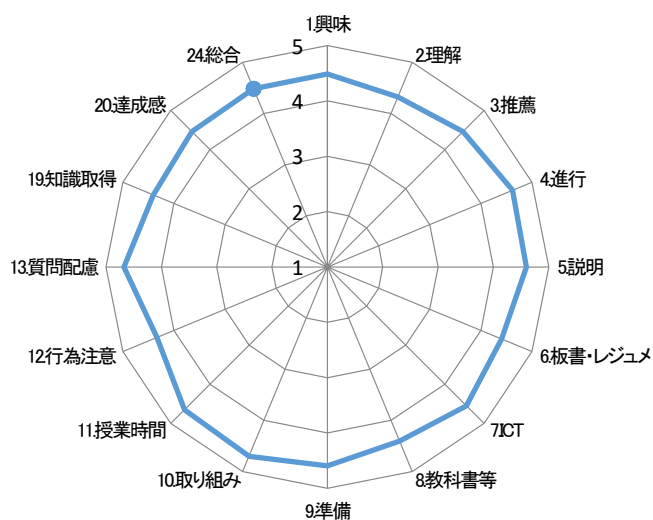
音声解説付きのスライド動画は、何度も視聴でき、学生のペースで勉強できることが利点だと思っている。実際、それが良いと評価する学生が多い。一部、直接のスライド説明や、対面授業を希望する学生がいる。臨場感としてはその方がいいのかもしれないが、その場合、一回しか解説しないので、理解が遅い学生は聞き逃す場合もあり、良かれ悪かれだと思う。配信型授業の利点を丁寧に説明した方が良いのかもしれない。

◆集計データ結果について

総合が4.4点、各項目すべて4点以上であり、学生の評価は良好だった。
ただし、履修学生78名中、回答数は37名だった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載には、良い意見として、「事前、事後学習により理解が深まった」、「考える力がついた」、「レポートの書き方がわかった」、「グループ学習のため、他の人の考え方を知ることができた」、「発表をすることで言葉がわかってないといけないうちに気づいた」、「教員に質問しやすかった」などがあつた。
一方、良くなかった意見として、「予習、復習に時間がかかった」、「班の間で能力に差があつた」、「頑張っている学生と何もしていない学生で同じ評価になるのはどうか」などがあつた。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

グループで、事前学習後、実習を行い、実習結果をレポートとしてまとめ、最後、実習班で発表した。グループ学習によって、理解が深まったり、協力して行う成果を実感している学生が多い。ただ、学習に対するモチベーションに差が大きく、課題をやっているだけで、考察につながらない学生がいる。初回のコースオリエンテーションで、繰り返し、丁寧に説明する。
班ごとにレポート課題を課し評価していることに関して、一人でレポートを作成して評価する方法もあり、悩ましい。考える能力が低い学生は他の学生の力や考え方を借りて能力を高めて欲しいと思っている。実際、多くの学生は、グループで学修することの利点を述べている。したがって、今のところ、グループで協力し、レポート作成や成果発表をする方法を継続する予定である。

◆集計データ結果について

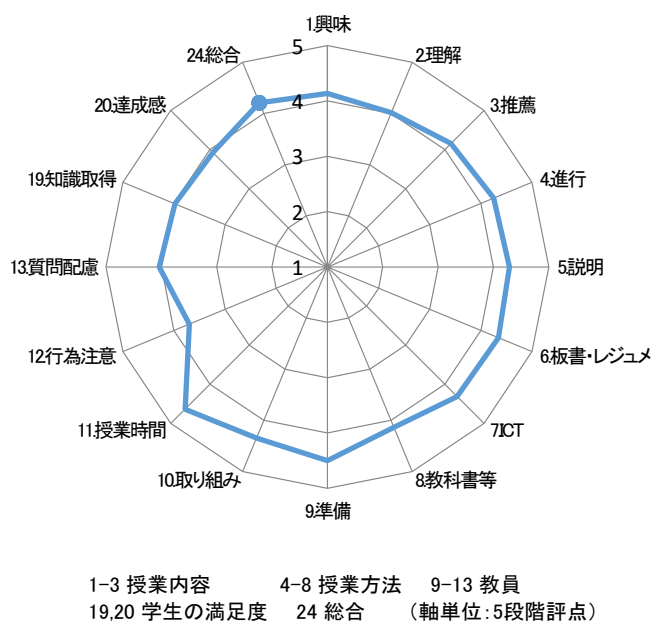
総合4.0と概ね良好な結果であったと思われるが、行為注意、知識取得、達成感が4.0を若干下回るものがあった。本科目では全てオンライン授業ということで学生の反応を適宜気にしていたものの、十分ではないことを再認識した。分散登校により本学教室で受講していた者も多数おり、学内環境(私語等)の悪化があったという話も聞いている。授業態度や姿勢が研究室から可視化できる環境ではない点がこのオンライン授業の限界とも気づかされた。その点では、学生間での行為注意を促していけるよう指導していきたいと思う。また、知識理解という点では、数式を用いることに苦手意識のある学生が多数いることを把握して臨んだもののそれでも難しいという学生からの意見もあったので、次年度に活かしたいと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由意見に関しては否定的な意見はなく、ほとんどが分かりやすいという意見が多かった。ただ、少し文字が見にくかった、音が途切れた、問題を解く時間をもう少し欲しかったという要望がみられた。授業の特性上、書画カメラを準備して、筋の付着や機能などを板書代わりにして良い点は沢山あったものの、それにより影になって見辛い部分があったかと推察します。文字を見やすくするよう拡大する配慮等改善点を知ることができましたのでこれらは次年度に活かしたいと思います。

◆今後の改善に向けて

本科目はリハビリ職にとって重要な科目であり、その基礎という点では学生の理解度を高めることはとても重要と考えています。ハイブリッド形式による騒音・授業に対する姿勢の問題はあるものの基本的授業態度に対する指導を初期に行い実施していきたいと考えます。また、今回は、自身が初めてのMeetによるオンライン授業である点、初めて使用した書画カメラという点で授業中にスムーズに切り替え等出来なかった点があります。これらを踏まえ、次年度に活かしていきたいと思います。



科目名

27. 運動学 I

担当教員

渡邊 豊明

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

61 名

◆集計データ結果について

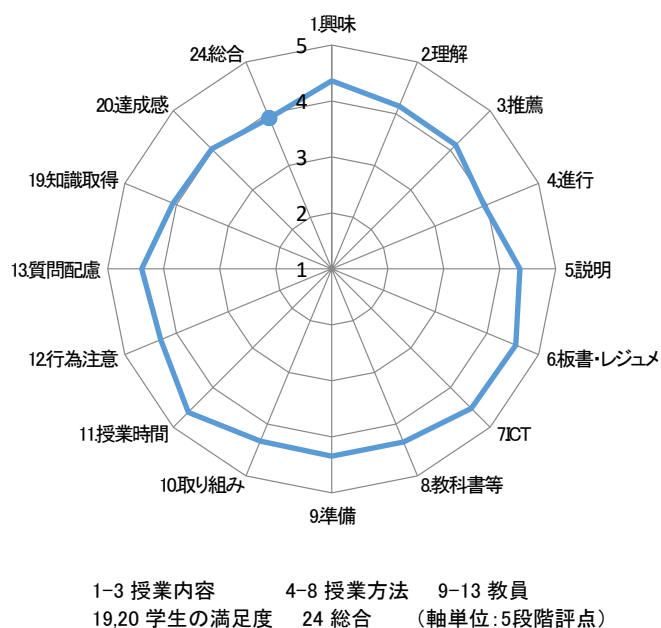
興味, 説明, レジューメ, ICT, 教科書, 準備, 取り組み, 行為注意, 質問で4.3点以上と高い得点でした。特に, 授業時間は4.6点と高い得点でした。しかし, 進行や総合で4点を切る項目もありました。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

雑談時間が長く感じた意見が数名いました。確かに, 少し雑談時間が長い授業回がありました。勉強を進めてほしい学生にとっては, 十分満足するものではないかもしれません。もう少し, 運動学に必要な内容になるよう配慮したいと思います。

◆今後の改善に向けて

オンライン授業のため, できるだけ教員や学生間の交流をとれるように配慮してきました。しかし, 授業以外の内容で時間をとってしまう場面がありました。授業の進行については, オンラインのため15分ごとに5分の休憩を入れましたが, 必要ない学生には, 無駄な時間に感じたかもしれません。しかし, 全体のバランスを考えて, ルールに則り進めていきたいと思います。授業後にはアンケートを取っていましたので, 1回ごとに, 意見が言いやすい環境をつくり, 過度な雑談時間は, 改善していきたいと考えます。



科目名

28. 運動学 II

担当教員

濱田 光佑・臼井 晴信

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

63 名

◆集計データ結果について

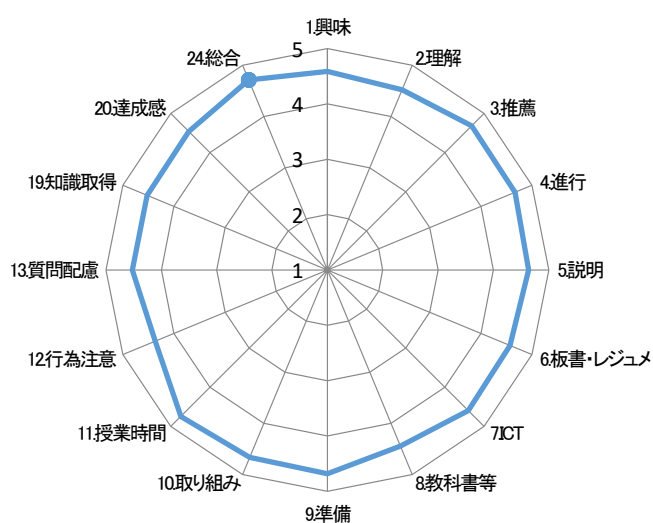
集計されたデータでは、全ての項目において4.5点台以上となっており、おおむね良好な結果を示した。熱心に目標をもって授業に取り組んだ学生が9割以上と多数を示したが、その一方で、質問に関しては5割強の学生が積極的な取り組みが行えなかったと評価していた。講義時には定期的に質問を受け付け、促す時間を設けたが、受動的な学習態度を示す学生が多く、自発性を引き出す講義形式に一部修正を図る必要がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

全体の傾向として授業の内容に関しては、各教員共に非常にわかりやすいと評価された。特に授業資料であるスライド、配布プリントに加え、動画コンテンツ、骨格標本等を導入したことが好評であった。当科目では、各章に合わせレポートの課題を課しており、一部は課題量について苦労したとの記載を認めた。一方で、課題や体験型学習に関しては学生の修学に効果的に作用しており、授業の理解度は高く評価された。

◆今後の改善に向けて

今年度に関しては、前年度と比較しレポートの課題量を減らし、学生からの質問を受ける時間を多くとった。結果として、各項目共に4.5点程度の一定の評価を得た。一方で、学生からの質問や学習姿勢を引き出し学習内容の理解を深めるには、学生の主体性を引き出す講義構成が必要になる。今後は、学生相互で知識を補完し合う時間や環境を作りを行っていく必要がある。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

29. 運動学実習[PT]

担当教員

松村 仁実・山田 南欧美・濱田 光佑

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

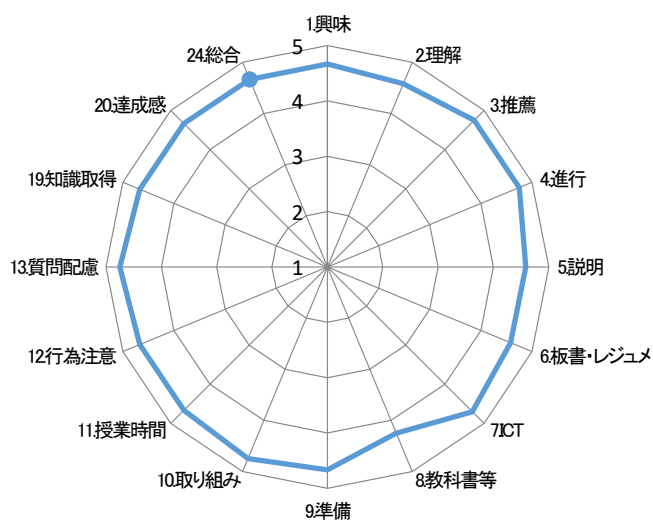
12 名

◆集計データ結果について

回答者が12名と少ないが、概ね4.5点以上の結果であった。指定教科書については、4点台前半であった。回答した学生は全員が目標を意識し、熱心に取り組み、質問ができたと回答している。しっかり取り組んだ学生のみがアンケートに回答していると思われる。予習・復習にも時間をかけていた。レポートや次回実習の内容を把握するための時間を確保していると考えられた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

回答者は、実験内容の理解、レポート作成の作法、教員とのやり取りを通して学ぶことができていることが窺えた。レポート作成にあたっては、修正事項が提出のたびに新たに出ることに戸惑いを感じた学生もいた。修正しながらよくするという考え方の理解が不足していると思われる意見も見られた。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

実験を通し、論理的に物事をとらえ、知識の整理、結果のアウトプット、疑問点の確認やそれに対する対応方法といった、多岐にわたる学習目標を持つ科目である。うまく取り組める学生には学びが大きいと考えられる。アンケート回答者が少なく、取り組めた学生が回答していると感がられた。今後は、なるべく多くの学生が上記の学習目標を達成できるような構成になる工夫が必要と感じられる。実習課題が理学療法とつなげられるような提示を行い、興味を持てるように促していきたい。

◆集計データ結果について

受講生のアンケート回答者数の集計結果を分析する。

レーダーチャート(項目1～3,4～8授業方法,9～13教員,19,20学生の満足度,24総合)での平均は4.72点であり、概ね高値であると考えられる。

14.熱心さ,16.目標等を意識については、回答者の多数が「どちらかといえば取り組んだ,取り組んだ」と回答しており、学生が主体的に取り組めたと考えられる。

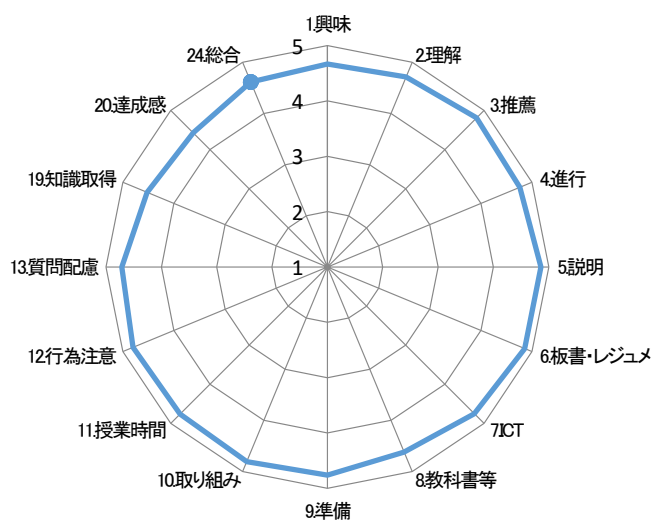
しかし、15.質問については回答者の3分の1程度が「質問していない」と回答していた。アンケート点数や自由記載内容,本試験合格率から,授業内容を理解しており質問することが少ない面も考えられる。しかし,今後は授業後に質問を受け付けるアンケートを実施し,多くの学生から意見を集約していきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

講義内容をグループワーク中心で取り組んだ結果,学生からはグループワークを通じて,自分自身で課題を考え,発表するなど実践できたことで理解が深まったとポジティブな意見が多くみられた。

今後も各講義のテーマ内容を見直し,学生がよりディスカッションしやすい環境を調整し,実技で学んだことが反映された結論や成果物が発表できる形式で講義していきたい。

一方で,自由記載の一部から「発表やレポートが大変だったがためになった」との回答もあった。そのため,発表やレポート作成が負担にならないよう,学生の意見・他講義の内容・課題をみながらレポートの提出時期,発表時期を調整していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

項目17,18.の(予習時間・復習時間)データからも、回答者の予習復習時間には「1時間未満」「1時間～2時間」がやや多いが、個々の学生で差が大きいことが確認できた。

授業内容の理解をより深めてもらうためにも,各講義で毎回設定されている「予習・復習内容」を伝えていき,適切な予習・復習時間を確保していきたい。

また,22.DPとの関連性について回答者の3分の1程度が「知らなかった・達成できなかった」と回答しているため,DPとの関連性をより意識してもらうためにも,DPとの関連を各授業で適宜伝え,理解してもらいながら受講することでDPとの関連を高めていく改善をしていきたい。

◆集計データ結果について

リハビリテーション学を知る上で、出生前や新生児期の障害はその後の発達への影響が大きく、この時期の解説にある程度の重点を置いた。内容は、生理学的発達と精神・心理学的発達を二本柱とし、それぞれの発達過程にみられる代表的な疾患を提示、発達過程と疾病成立との関連性を理解しやすいよう工夫した。また、人の発達段階に対してより広い視点でアプローチできるよう、各発達段階の成育ポイントを多数のイラストや写真、図、データなどを活用してプリント作成し、講義に用いた。

今年も新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、対面授業での学生とのコミュニケーションは充分とれたとはいえないが、学生のアンケート結果からは思った以上の成果が得られたのではと考えている。

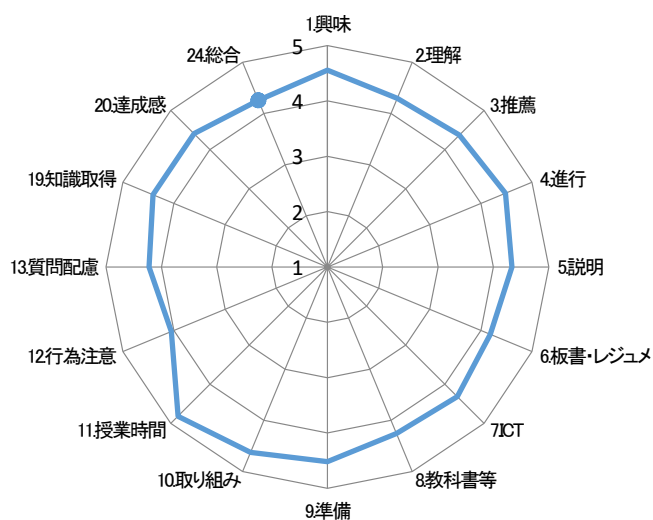
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

例年、学生から「プリント枚数が多すぎる」「どこがポイントか分かりづらい」などの感想を受ける。そのため、授業開始時に復習時間を設け、必要なポイントをまとめ明示している。講義中の態度では居眠りがやや多かったが、授業後の質問も適切なものが多く、全体として真剣度が感じられた。他方で「プリントは見やすい」「理解しやすい」との評価もあり、今後とも続けていきたい。

授業が単調に流れないよう、適宜ボードへの書き込みもする。やや走り書き気味になるのか、学生から「読みづらい」との指摘があった。特に、併行して行なうサテライト教室では画面は見づらく、大きく平易に書くよう心掛けてはいるが、限界を感じる。コロナ感染症の影響が緩和されることを望む。

◆今後の改善に向けて

本講義はコロナ禍のため対面とサテライト併用で行われており、席順も決められるなど、かなりの制約を受けた。学生自身との自発的会話の機会を多くすべく、より自由闊達な雰囲気での対話授業を進め、近い将来、我が国の礎となる人材育成につながるよう努力を続けたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆集計データ結果について

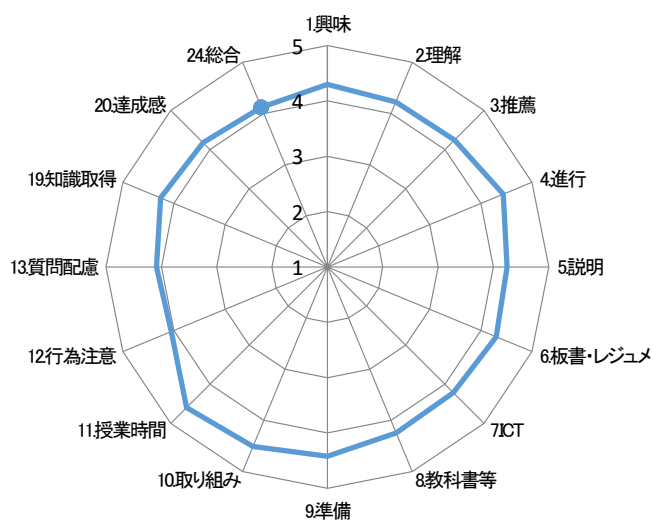
- ・教員への16の質問項目に対し、授業内容、授業方法、学生の満足度はおおむね良好な結果であった。
- ・すべての項目中、質問に対する点数が最大と最小点を示した。最大を示した項目は、取り組みや授業時間であり、今後も継続していく。最小を示した項目は、行為注意と質問配慮であった。講義中は、概して静かな雰囲気であったので注意も少なかったと思われる。質問配慮(学生が質問、意見を述べられるような環境でしたか)の点数が低いことと、自由記述の中で、「質問したら+αまで聞けた」、「質問を開ける時間がいい」、「毎回質問がないか聞いてくれ質問がしやすかった」との意見があり、両者は矛盾した結果となった。いっそうの受講生の質問を促すような工夫を検討する。
- ・学生自体への質問では、目標を意識し熱心に取り組んだことがうかがわれるが、さらに興味を持てる講義にし、予習・復習の時間を増やし、質問ができるように工夫する。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

- ・全体の流れを初回に提示したこと、質問しやすい雰囲気など、授業の進め方については、おおむね良好であったと考えられる。
- ・それに対し、プロジェクターで映し出される文字やマーカーが不鮮明、聞き取りにくい部分があったとのコメントもあり、来季からの講義に反映させる。
- ・一部ではあるが、薬理学に対する興味を持てた、薬について楽しく学べたという感想を持つ学生がいたことは、授業レベルが学生のニーズに合致していたと考えられる。1割程度の学生が、「分かりやすい」と回答したことも、ニーズに合致していたことを裏付けている。今後、この授業が引き金になり、関連分野の学習が進むことを期待している。
- ・小テストの取り扱いについて誤解があったようだが、来年度は説明を十分に言い、周知する。

◆今後の改善に向けて

- ・授業を聞きながら、自分に必要なことを瞬時に取捨選択して素早くメモできる能力が身につくことを目標とし、その結果、さらに関心を持って、予習・復習の時間や質問が増えるような授業の組み立てをする。
- ・単に知識を身につけるだけでなく、現場で知識を組み合わせて薬物理療の方針を考えられるよう、考え方の幅や興味が広がるような授業の組み立てをする。
- ・毎回の授業の理解度を質問により確認するとともに、まとまった内容に対する理解度の確認を行い、その結果は定期試験とは切り離して評価する。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

教員に対する評価では、レーダーチャートに示されている通り、16項目中16項目で4.0以上であった。最低の評価(4.02)は、5. 授業中、教員の説明は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか? であり、自由記載の中でネガティブなコメントで記載されている通り、ほとんどが「教員の説明が聞き取りにくかった」であった。これはマイクの使い方の問題であったと思う。またその次に低い評価は、12. 私語など授業を妨げる行為に対して、適切な対応をしましたか? であった。これは対応してなかった。また、13. 学生が質問、意見を述べられるような環境ではなかったも低い評価であった。当初、授業の最後に質問時間を設けていたが、質問が全く出なかったため質問時間をとることをやめたためであった。

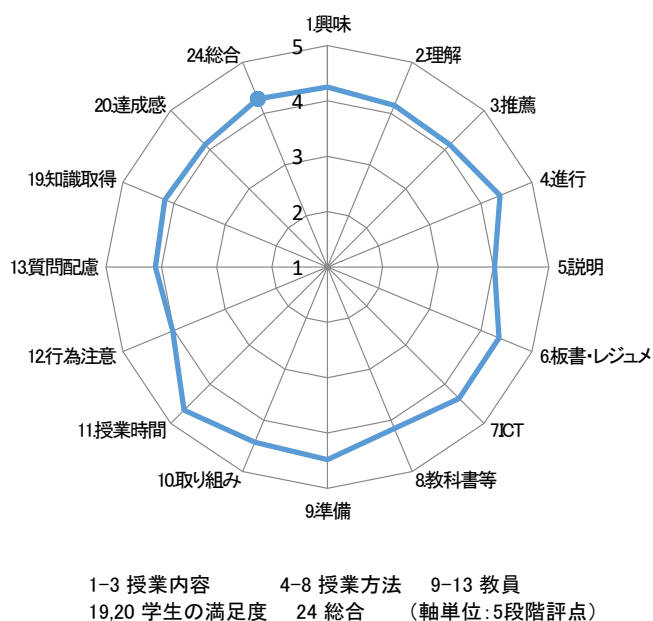
公衆衛生学は授業内容が学生にとってあまり関心の持てるものではないため、時に触れて関連する臨床での事例を紹介したことは良かったと思う。また講義の後半部分では、公衆衛生学に直接関係はないが、コミュニケーション・スキルを修得すべく、コーチングの講義を行った。コミュニケーション・スキルは学生にとって最も重要な資質であり、この講義は学生からも高い評価を受けた。さらに、最後の3回の授業では、定められたテーマに従って学生同士が自分の意見を言い合い、それをまとめて発表するというワークショップ形式の授業を行った。ワークショップは学生にとって将来必ず経験することになる教育方法であり、この講義も学生からの評価が高かった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

否定的なコメントは約9%(5/56)にみられたが、その9割以上は授業中の声が聴きとりにくかったことであった。これは前述した通りマイクの使い方の問題であったと思う。声が聞こえるようにするためには、ハンドマイクで大きい声で話す必要があると反省している。肯定的なコメントとしては、①資料のプリントが分かりやすいこと、②公衆衛生に関連した内容について関連した具体的な臨床の話を取り入れたこと、③自分の人生観を最初に伝えたこと、④毎回、振り返りのレポート提出を要求したことなどがあげられる。

◆今後の改善に向けて

公衆衛生学について半年間にわたって週1回全7回の講義を担当した。その印象は本一冊分の公衆衛生学の内容を、毎回数十ページ分の内容でスライドにまとめて講義することは結構大変な作業であった。公衆衛生学で学ぶ内容は、学生にとっては将来医療従事者として必須となる基本的な知識であり、また国家試験でも問われる内容であり、しっかり習得させる必要があった。しかし、公衆衛生学の内容は、学生にとっては決して興味がわく内容ではないので、それに関心を持って聴いてもらうために講義方法をいろいろ検討して行った。今回の学生からのフィードバックを大切にして、これからの授業では、学生が理解しやすく、かつ興味を持って聴けるような授業方法を取り入れていきたい。例えば、いろいろな臨床での事例やマスキ等を取り上げられている話題を交えて話することなどを積極的に行っていきたい。また、自由記載のコメントにある内容については、肯定的なコメントにあるような授業を積極的に行うことを心掛け、否定的なコメントに対しては、全員の学生に聞き取りやすい話し方で、学生がもっと質問しやすい雰囲気、時間を作るなど改善していきたい。



◆集計データ結果について

「総合評価」は、3.92で、もう少し上げる必要がある。各評価項目の中で、低く評価された項目は、「教科書等」であった。これは、学生の自由記述からみると「PowerPointのスライドの字が見辛かった。」「スライドの文字が小さく多かった。」といったことを反映したものと考えられる。また、学生の意識に関する内容で低く評価された項目は、「質問」、「予習時間」、「復習時間」であった。「質問」については、授業内で質問時間を設定しなかったことが主因の一つといえるかもしれない。「予習時間」と「復習時間」については、初回授業のガイダンスでシラバスに基づき説明したが、学生に十分伝達されていなかったものと推察される。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

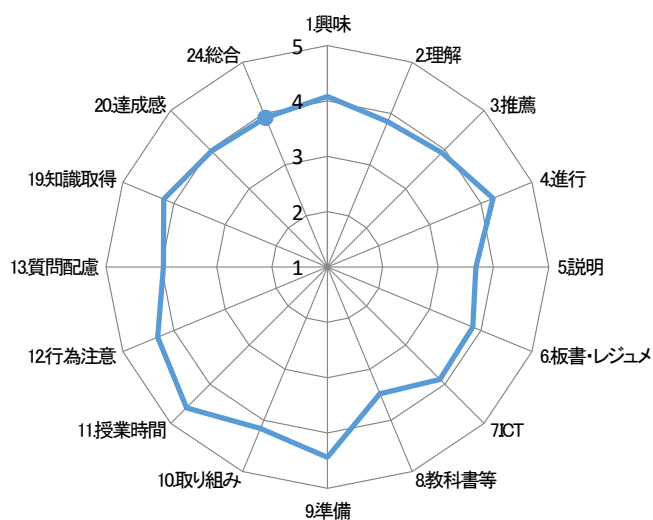
改善すべき主な点については、前述のPowerPointの「スライドの見辛さ」、「スライドの文字が小さく多かった」についての記述が多かったことである。また「オンラインで声が聞き取りにくかったこと」ことも指摘された。

一方、良かった点については、「心理テスト、自律訓練法など実際行うことができ、イメージがしやすかった。」「自分が活用できるストレス解消法を知ることができたのでよかったです。」といった内容の記述が少なくなく、カウンセリング実習を導入した点で好評を得たといえよう。

◆今後の改善に向けて

PowerPointのスライドの文字数が多く、小さいことから見辛いという指摘は納得できるが、後で復習する際に一層分かりやすくするために詳細に記述した結果によることも理解していただくと幸いである。いずれにしても、今後、文章の簡略化を検討していく予定である。また、オンラインで声が聞き取りにくいという点については、もう少し大きな声で話すように留意する。

学生の意識に関する内容である「質問」、「予習時間」、「復習時間」について、「質問」では授業中に質問の時間を設けること、「予習時間」と「復習時間」については、授業初回のガイダンスや毎回の授業で、シラバスに基づき一層平易かつ丁寧に説明したり、質問したりすることなどで、その内容の周知徹底を図り改善していく方針である。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

新型コロナウイルス感染症の流行から2年。影響で今学期も対面とサテライトの2本立ての授業を行った。ただし同時進行が叶い、昨年の遠隔授業と比べ講義が組みやすくなったが、学生との直接的討議はまだ不十分のままである。特に、サテライト授業時の学生はモニター画面の映り具合やマイク状況の不備などでややもすると学業意欲が低下し、90分間を持続的に集中できていない状況が見受けられた。

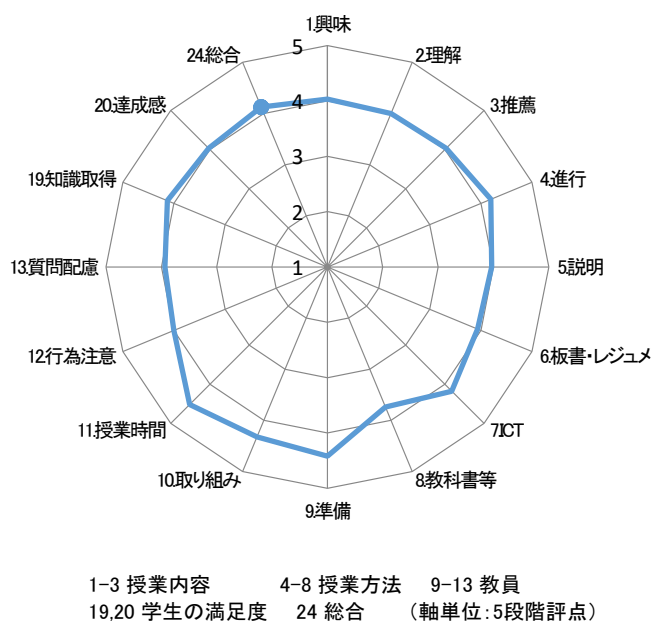
今年も事務方からの多大な応援を頂き、調整、改善を図りながら講義を進めることができ、大きな支障もなく終えれたことは幸いである。その甲斐あってか、集積データや期末試験の成績などから学力が著しく低下した印象はなく、学生の努力や適応能力の高さが見て取れる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

毎年のことであるが、「教科書」の活用を訴える要望が少数ある。今年は上記の如く講義中での学生との会話が難しく、一步通行的講義にならざるを得なかった。その分、教科書の役割が大きくなった可能性もある。ただ教科書では理解しづらい点があり、その点プリント作成に際して、時事問題も積極的に取り入れ、国試対策などにも触れるなど注意しながら、学生の要望に応えつつプリント中心の講義を続ける予定である。

◆今後の改善に向けて

コロナ禍では色んな側面に気付かされることがあり、今後の授業に活用して行きたい。ただ、授業の基本は単に“知識の切り売り”ではなく、人間相互の触れ合いを大切にしたい。医療系の大学である本校では、リハビリテーションを行う上での内科学の果たす役割は大きく、全人間としての“患者を診る”目を育てなければならない。その一歩として患者とのコミュニケーション能力を涵養することが日々求められており、学生もまたそれに応えるべく勉学への熱意、希望は決して低くはない。コロナ下の苦況ではあるが、将来を見据え、彼らの意欲を最大限引き出せるよう、努力していきたい。



科目名

36. 整形外科

担当教員

種田 陽一

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

27 名

◆集計データ結果について

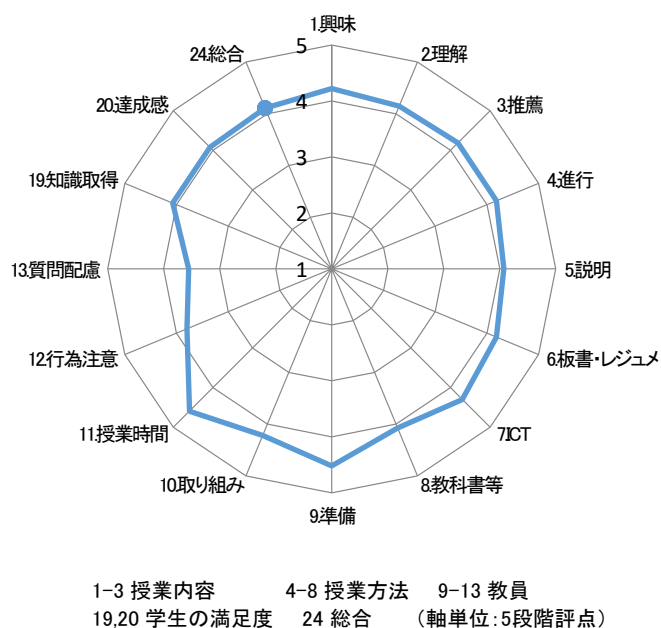
回答数が少ないので確定的なことは言えないが、オンライン講義は前日に講義ノートを配布していることもあり、概ね講義の目的を達成したのではないかとと思われる。しかし学生が使用しているオンライン機器が多様で、機器によってはスライドが見にくい、声が聞きにくいなどの問題があった様である。またオンラインの宿命としてリアルタイムで質問ができない問題があるが、後日メールで質問をしてきた学生は数人であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

今年から絵が多い教科書に替えたところなかなか評判が良い様である。国試問題を講義の最後に説明を詳しくして行なっているが、これが学生には良かった様である。オンラインの出席カードに講義の感想の項目があり、これに質問を書いてくる学生がいるが、集計では誰から来たものかわからず返事のしようがないので、質問はメールでする様にしておくべきであった。対面講義になるとこの問題は解消される。

◆今後の改善に向けて

昨年までは板書をして講義をしていたが、字が読みづらい、白板の下の方の字が遠くからでは見えないなどの問題があったため、オンラインで得た経験を元に、来年度は対面講義になるが、前日にMeetで講義資料(講義ノート)を送っておき、オンラインと同様にスライドを中心とした講義に切り替える予定である。



◆集計データ結果について

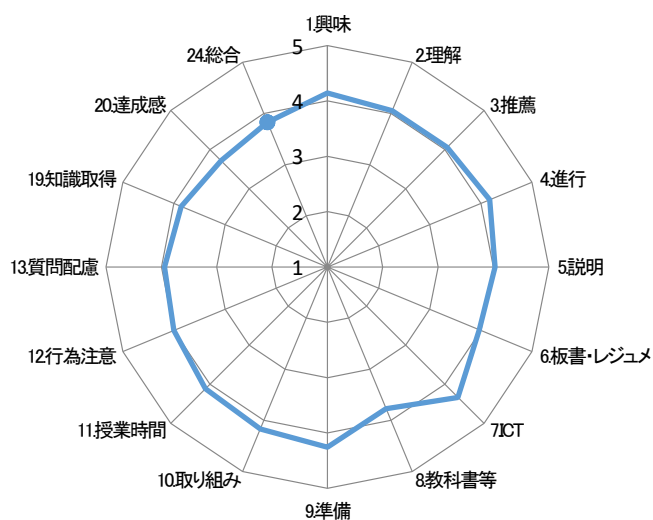
本科目は、今年度初めて担当するメンバーであったこと、また、コロナ禍で現場での講義であったりオンライン講義であったり対応が困難な点も多かったが、概略良好な評価を得られたと感じている。
 相対的に評価がやや低かった、知識取得・達成感に関して、より良い結果が得られるよう、テキストの事前配布や講師間での連関について工夫したい。また、授業内容と教科書などの資料との不一致や、テスト問題の難易度が高かったことが授業の総合的な満足度が下がってしまったかもしれないと考えられ、次年度以降の参考にしたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

コロナ禍によりオンライン講義が主体となり、学生に会ったことがある教員がいない中、おおむね良好な評価を得たと感じる。特に、テキストの事前配布の問題や講師間での内容の重複の問題や試験難易度調整について、工夫していきたい。

◆今後の改善に向けて

神経症候学は、初学者にとって理解が難しく、特にオンライン講義では「聞く気を失ってしまう」分野かもしれない。学生の自由記述にもあるように、例えば国家試験の問題と一緒に取り組むなど、学生の興味を刺激しながら進めていくなどの工夫をしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

38. 精神医学

担当教員

内藤 顕人

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

49 名

◆集計データ結果について

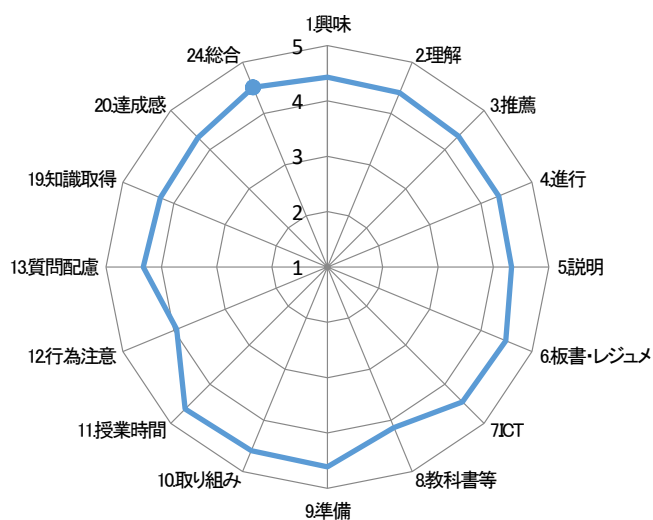
平均的にバランスが良く良好な結果だと思われる。オンデマンドと対面と両方であったので、なかなか伝わりにくいこともあったが、比較的大多数が理解を示してくれた。しかし映画鑑賞という部分ではオンデマンドだと見づらいとあり、今後の修正が必要かと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

ほとんどの学生が積極的に授業を聞いていただいて、適切なフィードバックもできていたのではないかとと思われる。新型コロナウイルスの影響でオンデマンドに慣れず苦労した学生も多いかと思われる。しかしそんな中で、多くの学生が積極的に質問しており、とても有意義な授業だったと思われる。

◆今後の改善に向けて

今回はインプットがメインであったが、今後はアウトプットを意識した授業も心掛けていければと思う。学生の熱意が感じられたため、それらに応えられるようにわかりやすいスライドや映像を多用して、今後の理解を努めていくように心がけていく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

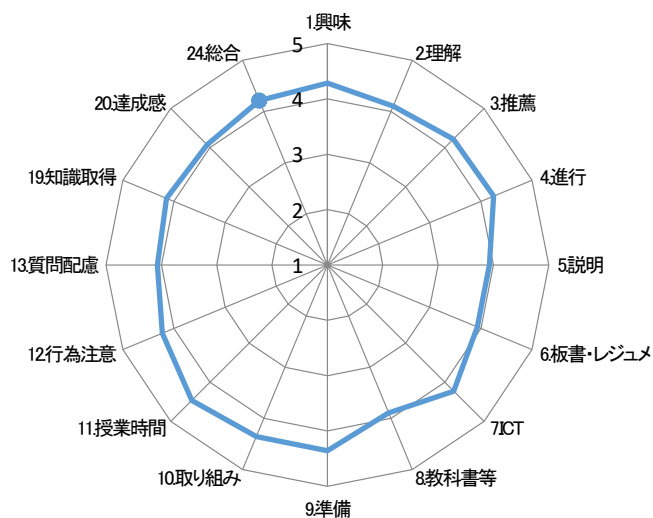
◆集計データ結果について

新型コロナウイルス感染症の流行から2年。影響で今学期も対面とサテライトの2本立て授業を行った。ただし同時進行が叶い、昨年の遠隔授業と比べ講義が組みやすくなったが、学生との直接的討議はまだ不十分のままである。特に、サテライト授業時の学生はモニター画面の映り具合やマイク状況の不備などでややもすると学業意欲が低下し、90分間を持続的に集中できていない状況が見受けられた。

今年も事務方からの多大な応援を頂き、調整、改善を図りながら講義を進めることができ、大きな支障もなく終えたことは幸いである。その甲斐あってか、集積データや期末試験の成績などから学力が著しく低下した印象はなく、学生の努力や適応能力の高さが見て取れる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

毎年のことであるが、「教科書」の活用を訴える要望が少数ある。今年は上記の如く講義中での学生との会話が難しく、一步通行的講義にならざるを得なかった。その分、教科書の役割が大きくなった可能性もある。ただ教科書では理解しづらい点があり、その点プリント作成に際して、時事問題も適宜取り入れ、国試対策などにも触れるなど注意しながら、学生の要望に応えつつプリント中心の講義を続ける予定である。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

コロナ禍では色んな側面に気付かされることもあり、今後の授業に活用して行きたい。ただ、授業の基本は単に“知識の切り売り”ではなく、人間相互の触れ合いを大切にしたい。魅力あるものにしたい。医療系の大学である本校では、患者とのコミュニケーション能力を涵養することが日々求められており、学生もまたそれに応えるべく勉学への熱意、希望は決して低くはない。コロナ禍の苦況ではあるが、将来を見据え、彼らの意欲を最大限引き出せるよう、努力していきたい。

科目名

40. 医療安全学・救急医学[1年]

担当教員

石川 清・宮津 真寿美・松村 仁実・山田 南欧美・横山 剛・濱田 光佑・松田 裕美

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

63 名

◆集計データ結果について

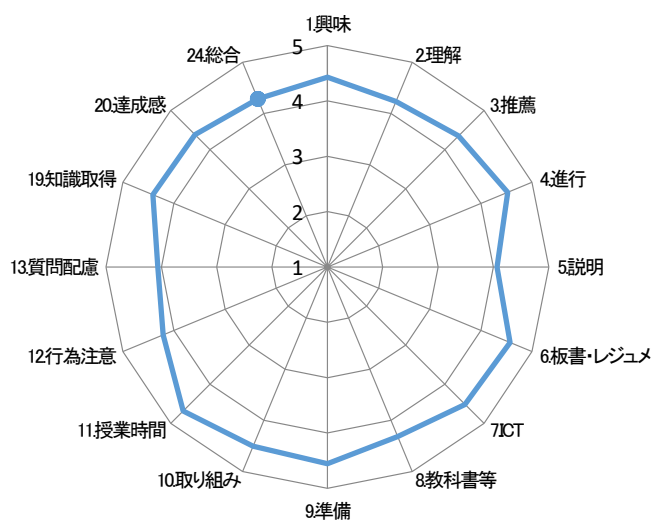
授業評価の平均値は、4.5以上が約半数、4.0以上が約半数で、4.0以下はなかった。授業方法、授業担当教員の評価については、一部を除いて満足できる評価であったと思われる。その一部とは質問配慮で学生が質問しやすい配慮には欠けていたかもしれない。また、授業に対する達成感や知識取得も評価が低いのは、内容が難しかったことも関係しているかもしれない。また、授業中の説明が聞き取りにくかったとのコメントがあり、説明の個所は低く評価されていた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生の自由記載については、9割以上の記載がポジティブなもので、ネガティブなものは少なかった。スライドが分かりやすい、映像が分かりやすい、資料が分かりやすい等教材に対する良い評価が多かった。また、医療現場の生の話が良かったとか、体験談が非常に理解しやすかった等のコメントが多かった。ネガティブなものとしては、話すスピードは速くついていけないことがあったとか、声が聞き取りにくいとのコメントも散見された。

◆今後の改善に向けて

聞き取りにくいとのコメントに対しては、話すスピードを考慮して、理解できるように話す必要があると思った。また資料等は好評であったので継続して取り入れていきたい。また、医療現場の生の声を聴けたのが良かったというコメントに対して、今後も現場の話をもっと取り入れて授業を進めたい。医療従事者として必要になる知識を教授していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

41. 画像診断学

担当教員

種田 陽一

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

34 名

◆集計データ結果について

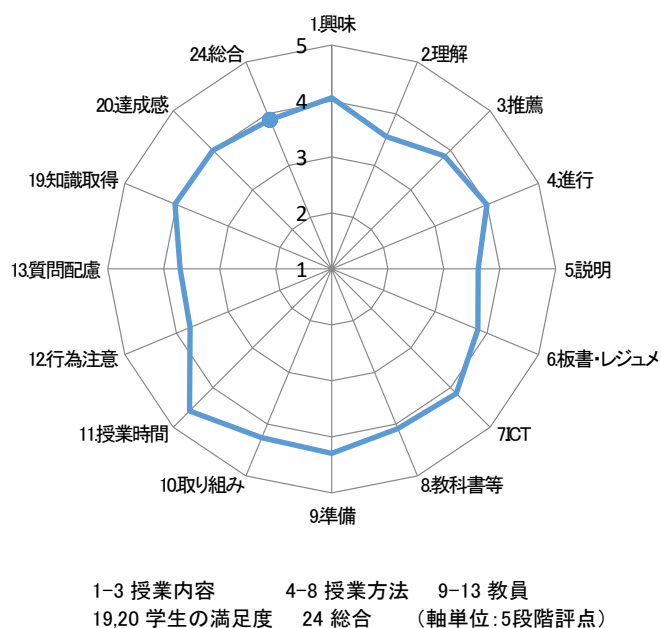
回答数が少なく信頼性があるか否かは不明であるが、概ね予想した結果である。半数の学生がディプロマポリシーとこの授業の到達目標を知らなかった割には半数近い学生が到達目標をほぼ達成できたと考えているのは面白い結果である。対面の際は質問できる環境であったが、講義後に質問を受け付ける時間を設けたが質問は一つもなかった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

今年度はほぼ対面で一部オンラインであったが、整形外科のオンライン講義のように前日に講義ノートを送り講義後に講義で使ったスライドを送っているのが概ね好評であった様である。復習と試験勉強に役立ったと思われる。講義後に整形外科と同様にスライドを送って欲しいとの要望が学生からあり送ることにした。

◆今後の改善に向けて

対面になっても講義ノート、講義後スライド送付は続ける予定である。講義の声が聞きにくい学生がいるので、なるべくゆっくり喋るようにしたいと思う。



◆集計データ結果について

概ねバランスが良い結果だったと思います。予習時間が少ない点が気になるが、基本的にまずは復習に取り組めるように促したいと考える。(鳥居)

講義の担当が15回中2回であったため、アンケート結果にほとんど影響していないと考えます。

全ての項目が5段階評価で4.5前後なのはすごいと感じました。

質問項目2の「理解」の部分や質問項目の5「説明」・6「レジュメ」等で1・2がなかったため、自身の授業に関してもある程度の理解は得られているのかなと考えます。

予習については栄養という分野で普段学生が学ぶ領域とは異なるため難しいかと思いました。復習に関しては、授業の内容だけを復習するよりも、普段の生活の中で食品表示をみるようにしてもらったり、自分たちの専門領域で患者さんたちに治療等をする際に食べ物や栄養も関わっているということを意識してもらえたりすると、復習の一つとして捉えられると考えます。(高橋)

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

現代の理学療法士や作業療法士の取り組みとして、予防医学に関わる事項が非常に多くなってきており、また、社会的期待も大きい。その点で、健康に関する正しい意識を持ち、実践できることが重要である。完全な理解がどうであったかは推察の域を出ないが、この点で、健康に対する考え方や行動変容に繋がったであろうことは重要である。(鳥居)

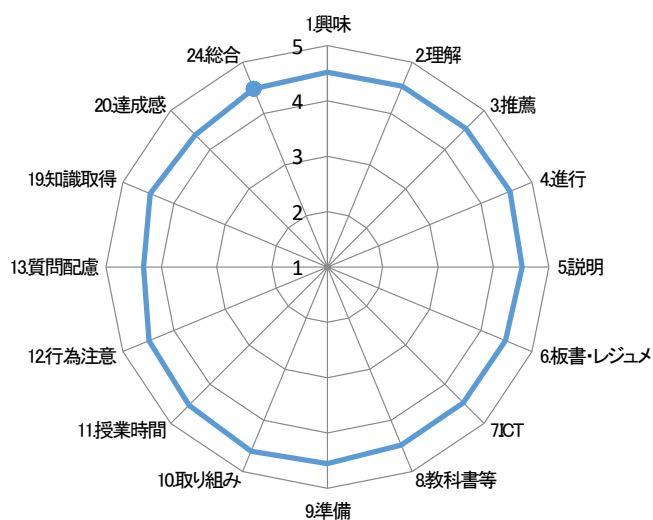
スライドが見やすいという意見があったので、良かったと思います。

小テストの時間がギリギリになってしまうという意見については、オンラインの準備で少し手間取ったのとについて説明が長くなってしまった影響も少しはあると考えるため、次回に向けて授業内容の見直しをしたいと思います。しかし、担当分の成績が小テストで行っているため、授業時間外に作成するレポートを授業評価にする科目もあると思うので小テストの時間が授業外であっても大きな問題はないか考える。

特になしという意見も、悪い印象はなかったということだと考えるので、大きな問題はなかったのではないかと思います。(高橋)

◆今後の改善に向けて

特に「ここが分からない」という意見がなかったので、大きな内容変更はしなくても良いかと考えます。しかし、2コマのなかで授業内容の見直しは行いたい。栄養について最低限知っておいてもらいたい内容と学生の生活等にも関係する興味のある内容、内容の取捨選択と深さ・厚さをどこまでにするか次回に向けて考える予定である。ついつい、説明が長くなってしまうので、そこは注意をしたい。できれば対面も2クラス合同でできた方がやり易いが、コロナ次第であると考えます。(高橋)



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

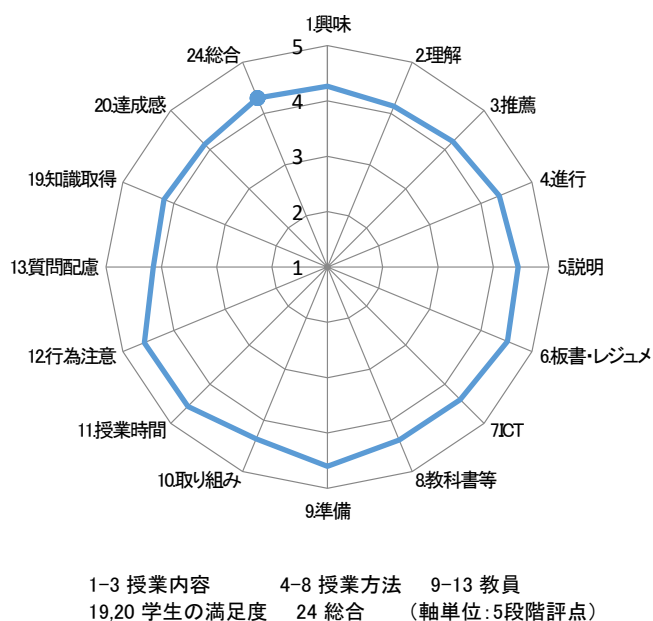
各質問項目に対する評価は、4.1～4.6であった。自由記述と照合し数値を検討すると、個人による差が大きいのではないかと考える。理解、質問配慮、知識取得、達成感4.1となり全体からみると低い値であった。概論の授業であるため、単なる単語の暗記では対応できない科目であるが、答え探しの学習からの転換が十分とは言えないと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

概ね、肯定的な記述が多く授業に大きな問題はないと考える。記載内容として、具体的には、「予習や授業目標が示されていたことから学習に取り組みやすかった」、「グループワークが多くあり、他者の考えを聞く機会があつてよかった。学生同士での取り組みで知識を深めることができた」「わかりやすかった。進行もちょうどよかった。」、「小テストがあつたよかった。」というような内容である。一方で、少数であるが「進行が早かった」、「教員からの質問が多かった」、「質問しにくかった」などの記載もあった。予習と復習時間がゼロの学生や少ない学生もいたため、進行について行くことが困難な状況になることが予想される。また、受講のルールが守れていない者に対する注意をしたが、そもそもそのルールを理解できていない、忘れている者がいるため、受講上の注意は入学時のガイダンスで丁寧にする必要がある。

◆今後の改善に向けて

次年度授業も、リハビリテーションの意味を理解し、専門用語を正しく使い、自身の言葉で表現できること、また多くの意見に触れ、考えることができることを目指して、展開していきたいと考える。質問に関しては、振り返りフォームも活用しており、集団の前でなくても個別での質問ができる機会を作っているため、機会を活用してほしい。



科目名

44. リハビリテーション社会論[1年]

担当教員

石川 清・木村 菜穂子・横山 剛・松村 仁実・宮津 真寿美・山田 南欧美・
濱田 光佑・松田 裕美

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

60 名

◆集計データ結果について

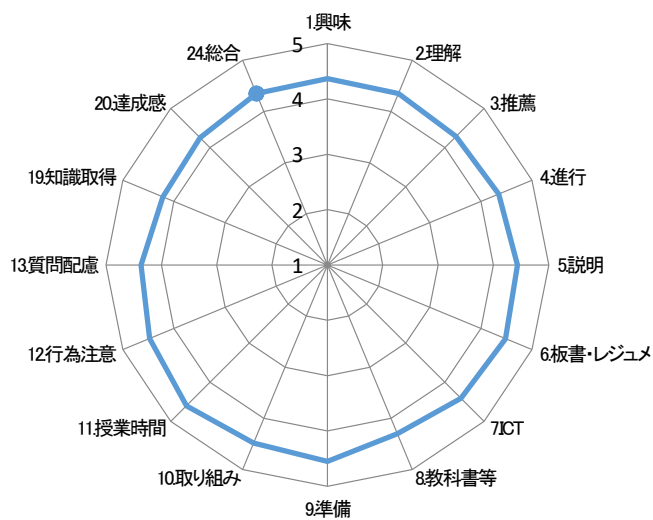
概ね4点以上で良い結果であったと考えている。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループなどで意見交換できることが良かったという意見が多数見られた。唯一の答えだけを覚えれば良い、ということばかりではないので、自身の意見と他者の意見の相違や共通点などを見付けていけたら良いと考える。

◆今後の改善に向けて

今後も引き続き良い学生教育に努めていきます。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

災害救護は本学の重要な柱と位置づけ、数年前より医療安全・救急医学の授業に取り入れている。実技としては、毎年9月開催される清須市総合防災訓練を予定し、その防災訓練に向けての防災教育を実施した。特に、トリアージ訓練についての講義も実施した。今年度はコロナ禍で、防災訓練は中止となったため、その代わりに下記の内容でレポートを課した。

「清須市総合防災訓練に代わるレポート課題」

あなたが近い将来遭遇するかもしれない大規模災害(地震、風水害等)に対して、自分自身や大切な家族を守るためにどのような備えをしていますか？ 以下の2つのテーマについてそれぞれ800字程度にまとめて記載してください。

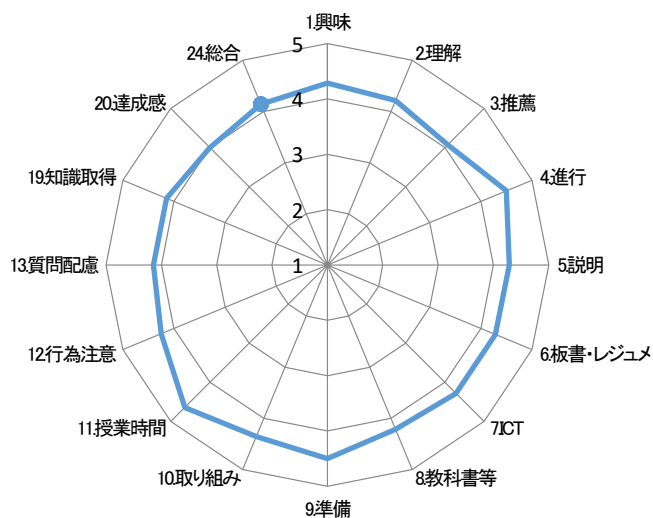
1. あなたが住んでいる地域のハザードマップについて
2. 災害に対する備えについて
 - (1) すでに取り組んでいること
 - (2) これから取り組むこと

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

ほとんどの学生は災害医療に関心を持っており、レポート記載も非常によく書かれていた。

◆今後の改善に向けて

来年度も同様に、医療安全学・救急医学の講義で災害医療についての座学を行い、実技としては清須市総合防災訓練への参加を予定したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

46. 社会福祉学

担当教員

伊藤 正明

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

63 名

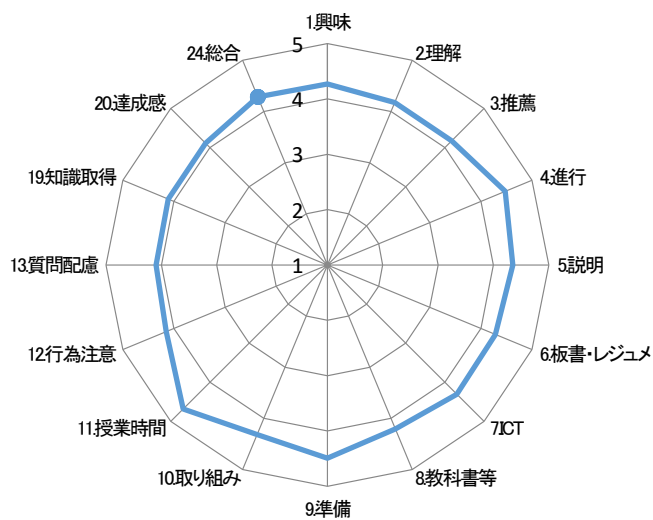
◆集計データ結果について

「社会福祉学」を担当し4年目、今年度は前期金曜午後の開講でした。
 対面授業となりましたが感染対策のため、グループワークや演習は内容を変更して実施しています。
 集計されたデータの「総合評価」は「4.28」で昨年度とほぼ同じ結果となりました。各質問への回答からは、引き続き、授業の到達目標を意識できるよう予習・復習への取り組みが課題と考えています。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

制限を設けつつ実施したグループワークおよび演習に一定の効果が感じられましたので、次年度も応用させていただきます。また映像教材についても多くの方に強く印象に残ったようでしたので、引き続き活用していきます。

◆今後の改善に向けて



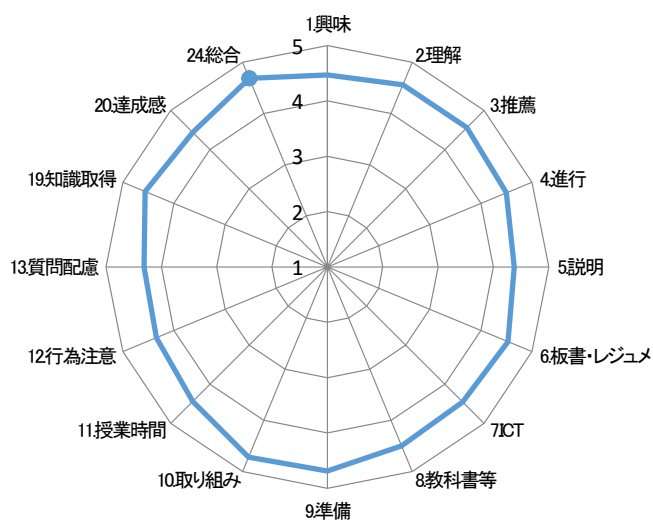
1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

レーダーチャートを見る限り、バランスが取れた結果であったと思われるが、予習や復習など家庭学習に繋がっているかという点、今一つ自発的な学習に繋がっていないと感じる結果である。
本講義は、体験を多く取り入れたことや、実際に調べ学習なども含めて進めた部分も少なくないため、自己学習の意識が高まるような方策を工夫していく必要があると感じる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

概ね、本講義に対する感想は良好なものが多く、興味を持ってくれた学生も少なくないと考えられる。
体験型の内容や、グループワークを通して、障がい者スポーツの素晴らしさを実感し、これが卒業後の活動に繋がってくれることを期待したい。



◆今後の改善に向けて

昨年度から必須科目になったため受講生が多く、競技体験やテーピングなどの実技系内容に工夫が必要である。時間配分、開催タイミングなどを含めて学校側と相談して、対策を考える。

1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価点)

科目名

48. リハビリテーション倫理[3年]

担当教員

鳥居 昭久

専攻・配当年次

PT・OT 3年

回答者数

71 名

◆集計データ結果について

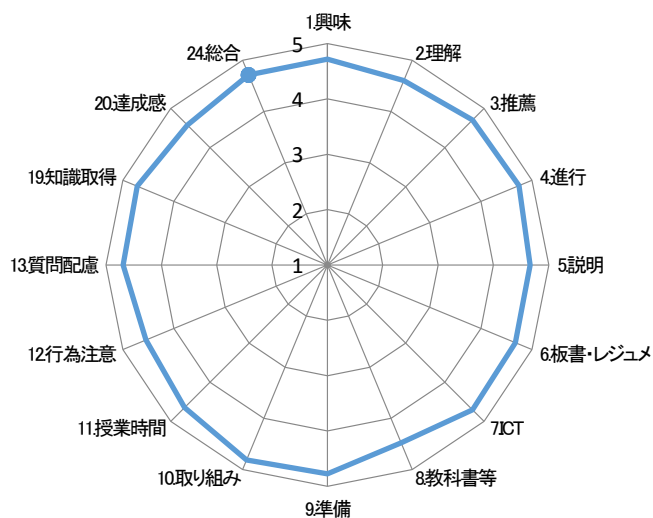
集計結果は概ね高得点であり、満足のいくものであったと思われる。この講義は、予習、復習はあまり求めていなかったもので、その点での回答水準が低かったのは仕方ないと思う。授業中にアクティブラーニングを実践できたことがとてもよかったと感じている。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

理学療法士、作業療法士が、医療倫理、生命倫理を真剣に考える科目は非常に重要であると考え。この点では、新しいカリキュラムで、この講義が無くなってしまうことが誠に残念でならない。いわゆる倫理学で、思想や哲学を学ぶことも大事であるが、臨床現場での一つ一つの問題に対して、具体的に考えさせることは、是非とも理学療法士、作業療法士教育の中で実践すべきであろうと考える。この科目内容が、新カリキュラムの別の科目で実践されることを期待したい。

学生の自由記載から、改めて「生と死」について考える機会を与えることができた手ごたえを感じた。これが、とても重要であると多くの学生が感じてくれたことは有意義であったと思う。

◆今後の改善に向けて



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

49. 理学療法概論

担当教員

宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

33 名

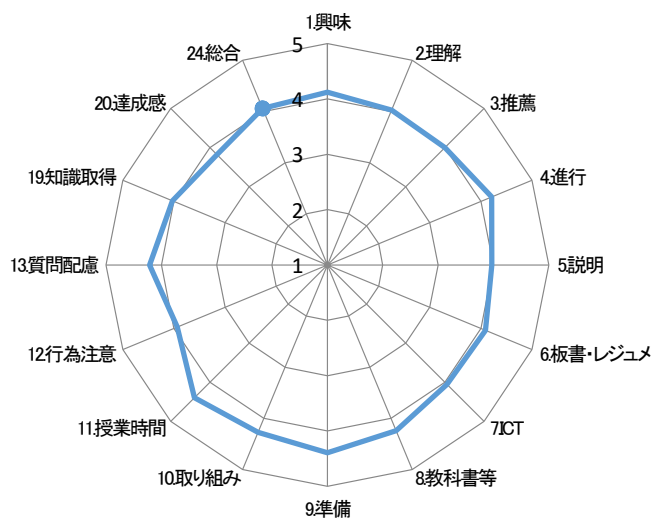
◆集計データ結果について

総合点は、4.1点だった。

4.0点以下の項目は、「行為の注意」3.9点と、「達成感」3.8点だった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載では、良い点として、グループワークやグループ発表で理解を深めることができた、質問しやすかった、レポート課題で理解が深まった、などの記載がある。悪かった点について、課題が多かった、復習に時間がかかった、進み方が早いことがあった、などの意見があった。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

「行為の注意」と「達成感」が項目点がやや低かったが、それに該当するコメントが自由記載にはない。
復習をレポート課題にしており、その課題に対して、「多かった」、「大変だった」との記載があるが、「大変だったけど理解が深まった」と述べる学生の方が多い印象である。1年生前期でレポート作成の不慣れがあるのかもしれないが、自分でまとめ理解することに慣れてほしいと思い、継続していきたいと考える。

◆集計データ結果について

おおむね4点台であったが、「行為注意」の項目が3.8点台と若干低い結果となった。学生の取り組みとしては、9割以上の学生が熱心に、目標を意識しながら取り組んでいた。7割以上の学生が予習・復習を行っていた。7割弱の学生がDPとの関連性や授業の到達目標を理解していたが、実際に到達できたと考えている学生が5割ぐらいとの結果になった。

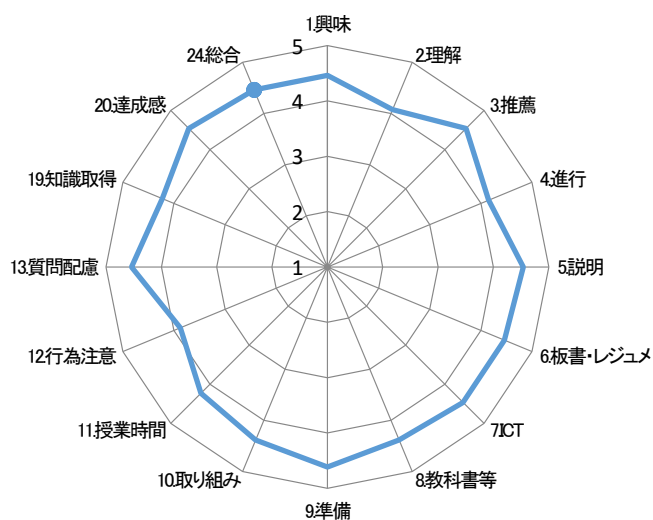
グループワークを中心に進めるような授業形態であったこともあり、学生の自由度が高いこともあり行為注意の点では若干低かったと考えられる。授業の到達目標を理解している学生が実際に達成できていくことが望まれる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

必要なポイントを理解し、自身で考えることができる点を評価している意見が見られた。また、質問に対しても適宜対応できている点も評価できる。内容的に難しさを挙げる意見や、グループワークのメンバーについての工夫を求める意見も見られた。内容的な難しさについては、質問しやすい環境を継続的に行うことは必要である。グループメンバーについては、あらゆる考え方ややり方の中で実施できる能力を身につけることも必要であるため、配慮は考えてはいない。ただし、グループワークを進める上での注意点も検討が必要と思われる。

◆今後の改善に向けて

グループワークを通して、自身で実施や考え、発表していく形は引き続き行っていきたい。活発なグループワークにできるような介入は引き続き実施する。授業内容として、実際の動作をみながら分析するということは、初めて行う内容でもあり難しさもある。取り扱う内容を絞ったり、小分けにする、ポイントの説明を丁寧にするなどの工夫も合わせ伝えることで、学生自身ができるように促す工夫を行う。グループワークを進める上で、全員が最低限することや、互いの長所を活かしながら協力することも説明に加え、負担の偏りがなく各自が到達目標を達成できるように伝えていくようにする。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

51. 運動療法総論

担当教員

松村 仁実

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

34 名

◆集計データ結果について

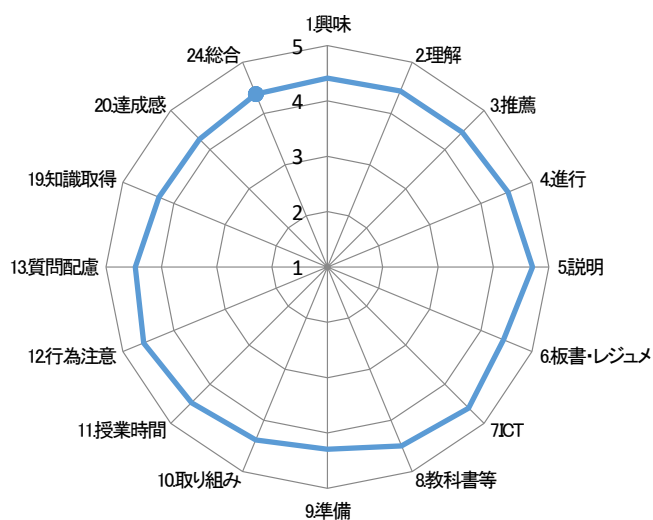
ほとんどの項目で4点台の結果であった。8割の学生が、目標を意識し熱心に取り組んでいた。一方、6割以上の学生が質問をしていない結果となった。6割の学生は何らかの予習に時間をかけ、9割を超える学生が復習を行っていた。6割の学生が到達目標とDPとの関連を理解できていたとの回答であった。毎回小テストを実施していたこともあり、復習の時間確保につながった可能性がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

提示資料については、分かりやすいという意見と、分かりやすくしてほしいという意見がみられた。提示資料は学習の材料であり、参考書ではない点の理解が不十分だと思われる。小テストの実施が復習時間確保につながったという意見と、自身の理解度を確かめることにつながったとの意見がみられた。理解を促すきっかけになっていたと考えられる。授業時間内での話し合いの時間を有効に利用できたとの意見も見られた。学生が集中する方法の一つになると考えられる。

◆今後の改善に向けて

提示資料が理解を深める材料とするもので、資料だけで勉強するものではないことを改めて伝えていきたい。復習を促す方法の一つとして小テストは有効であると感じる。継続していく。合わせて次回内容に興味を持ち予習できるような課題提示も検討したい。講義科目ではあるので、授業中の質問が難しい点もあると思われる。振り返りシートなどで質問を受け付けることも検討していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

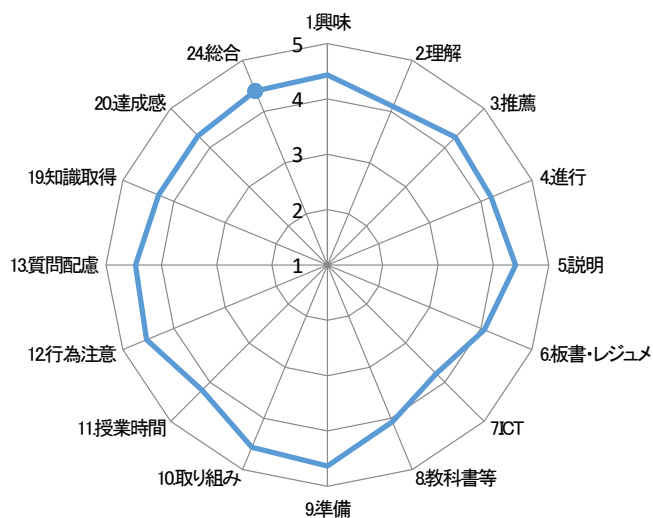
◆集計データ結果について

概ね4以上の評価でしたので、全体的に大きな問題はなかったかと思われます。

受講者(学生)の意識についても、ほとんどの人は熱心に取り組んだと自己評価されており、質問などもありましたのでよかったと思いますが、毎回ではないものの小テストも実施していたことを考えると、予習や復習の時間では20～30%の人が1時間未満というのは少し残念に思いました。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載では「質問しやすい環境であった」とのコメントが多くあり、よかったと思います。一部、進行に関する意見(授業の終わり時間)やデモンストレーションを増やしてほしいなどの意見もありましたが、可能な限り受講者が実際に経験する時間を確保したいと思って時間を使っています。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

自由記載にあった授業終了時間については、片付けや掃除時間がずれ込むこともあったかと思いますが、注意していきたいと思います。技術の習得には正しい理解と反復練習が重要ですが、テストに受かることが最終目標ではなく、患者さんにその技術を提供していくことを意識できるような講義をこれからもしていきたいと思います。

科目名

53. 検査測定法実習

担当教員

木村 菜穂子・山田 南欧美・齊藤 誠・濱田 光佑

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

23 名

◆集計データ結果について

検査測定法と同様、評価結果は4以上で大きな問題はなかったようです。学生の意識の項目を見ても、熱心に取り組んでくれた人が多かったということが分かります。ただ、予習・復習に関しては1時間未満の人が一定の割合(20%程度)いたようです。授業中に反復練習の重要性はお伝えしたつもりでしたが、そのくらいの時間で十分であると感じたのだとしたら、少し残念に思います。

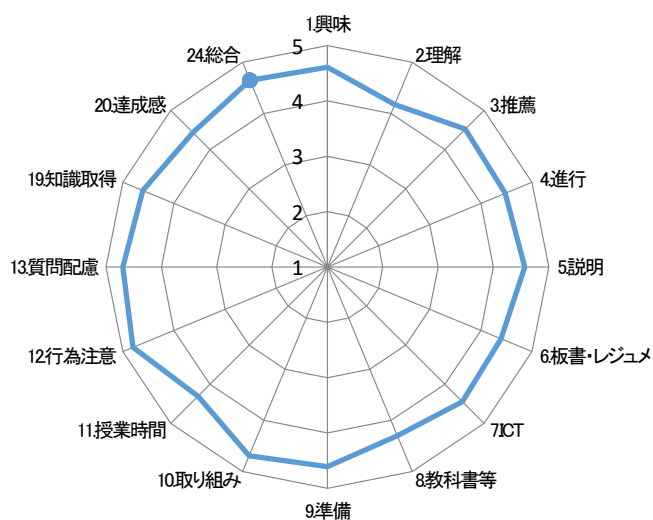
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「質問しやすい環境であった」「集中して取り組むことができる環境であった」との記載が多くみられ、皆さんが学ぼうとする気持ちと、それを保持する環境が提供できたのだとしたら、よかったと思います。

「テストの時に、間違っていた点を教えてほしい」という意見もありました。確かに、気持ちは分かりますし、我々もそうしたいと思うことがあります。ただ、全員の評価を公正・平等に行うことが必要であり、また時間的な制約もあることから、テスト中の指摘や指導は難しいと言わざるを得ません。試験後に不明な点は確認してもらえるとよいかと思います。

◆今後の改善に向けて

一部の自由記載で、「会場によっては声が聞こえにくかった」との意見がありましたので、今後は環境を確認しながら実施したいと思います。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

概ね4点台の結果であった。板書・レジュメの提示、ICTの活用については、若干低い結果であった。学生の取り組みとしてはおよそ9割の学生が比較的熱心に取り組んでいた。また、予習・復習についても相応の時間をかけていることが読み取れる。3割ほどの学生が、この科目での到達目標を理解できていなかったか、到達できなかったと回答していた。

実技実習科目のため、板書・レジュメの活用は行いにくいと考える。科目の特性を理解し、熱心に取り組んでいる学生が多いのは評価できる。学生が到達目標についても意識しながら取り組みができる点は課題である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

内容に関しては、難しかったとの意見が多くみられた。また、負担が大きかったとの意見もあった。専門職になるために必要な実技という点では、ある程度学生に負担となることは致し方ない部分があると考え。

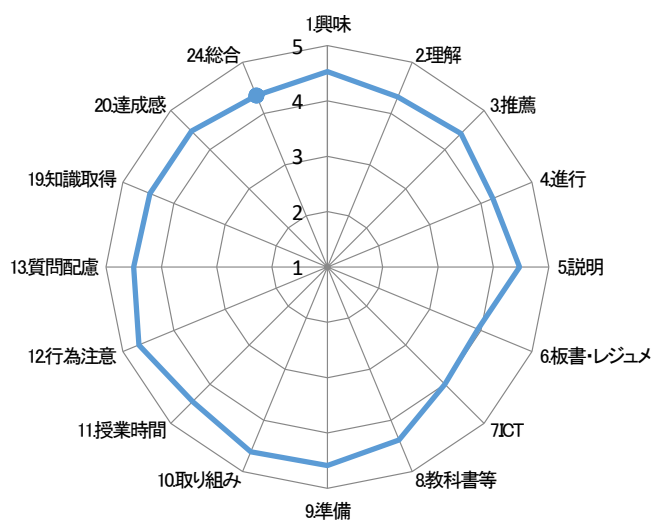
進行に関しては、質問しやすい環境であったとの意見が多数みられた。一方で、学生人数に対する教員人数を増やす、授業数を増やすなどの意見も見られた。実技指導については、分かりやすかったとの意見がみられた。

受講者の人数が多かったこともあり、教員数については課題である。しかし、今年度は1教室で実施できたことで、カバーしやすい環境ではあった。また、分かりやすかったとの意見からも質問に対応することはできていたと考えられる。

◆今後の改善に向けて

必要な技術や知識の習得を目指し改善を加えていきたい。一方で技術を身につけるためには時間をかける必要もあるので、予習や復習を通して身につける大切さも加え説明をし、負担として感じることを減らせるような関わりを取り組みたい。

授業中には、学生の質問を受けやすいように行っており、その点は評価されていると感じる。科目担当者の増員は難しいので、学生からの重複するような確認事項についてはすぐに全体へ共有するなどの対応を検討したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

55. 理学療法評価法

担当教員

臼井 晴信

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

11 名

◆集計データ結果について

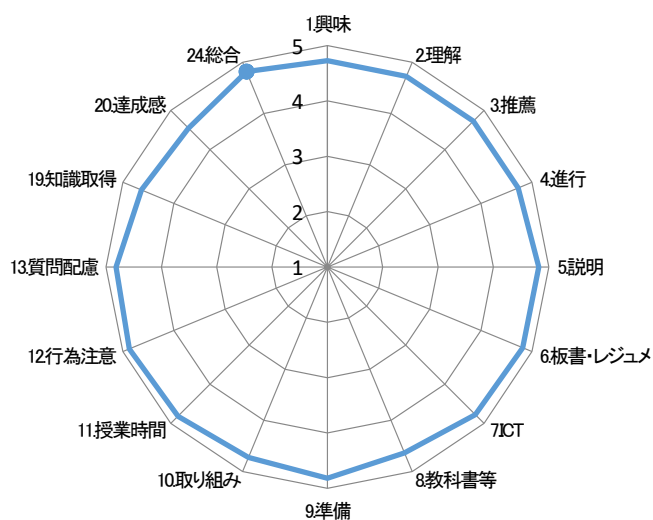
全ての項目で4.5点を超えており講義内容は妥当だったと言える。予習時間を全くなしと回答している学生が3割以上いた。シラバスなどに記載はされているが、教科書のどの項目を次の講義で行うのか、情報を提供すると良いかもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークで討論し、15分程度の講義で解説するという講義スタイルをとったが、非常に肯定的な意見が多かった。また講義の中で臨床をイメージできたという意見も多かった。今後も情報はアップデートしながら、講義形式は継続しようと思う。

◆今後の改善に向けて

今年度は他者評価を成績に含むのを廃止した。廃止したため学生からのフィードバックはないのは当然だが、学生の受講態度に特に差はなかったように思う。今年度の評価結果を受けて今後も今年度の講義形式を継続して行おうと思う。また学生がより主体的に学修するためには、教科書などを通して予習復習を促さないといけないのかもしれない。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

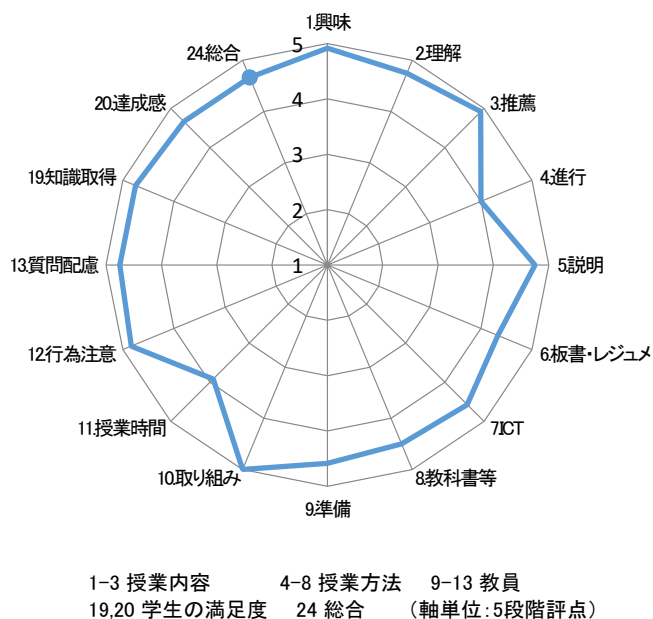
回答者数が受講者の3分の1に達していない。そのため受講者全体の意見を反映できていないのかわからない。その上でデータを見ると、「授業の進み具合が適切だったか」という質問項目に対して適切でないと回答している学生が複数いることは重要な点だと思われる。グループワークによって症例検討を行う講義であるが、2週間で3症例を考えるのは非常にタイトなスケジュールであることは確かである。内容についての批判的な意見がないことや、臨床実習に向けた重要な講義であることを考えると、内容を減らすよりはスケジュールを調整しもう少し余裕を持たせた方が良いかもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークに対する意見と、医療面接の講義に対する意見があった。グループワークに対しては肯定的な意見の他、時間が足りないという意見があった。時間が足りないという点については教員も認識しており改善すべきだと思う。医療面接の講義に関しては、どのように行えば良いのか「教員が見本を見せろ」というのが学生の意見だと思う。臨床現場に出たことのない学生に対して教員が見本を見せることが、コミュニケーションの定型化になり、対象者を評価出来ない学生を育てることになる。その点は講義前に説明をしており、試験での評価内容も事前にルーブリック評価表を渡して口頭と書面にて説明している。意見は真摯に受け止めるが、内容は変更しない。講義の意図をより丁寧に説明しようと思う。

◆今後の改善に向けて

臨床実習前の非常に重要な講義であるため、学生には主体的かつ真摯に取り組むことを望んでいる。時間に追われたり試験勉強の合間にグループワークを行ったりするといった環境では真摯に取り組もうと思っても思うように行かないこともあるかもしれない。講義スケジュールを学年のスケジュールと合わせて再検討する必要があるかもしれない。



◆集計データ結果について

おおむね4点であったが、「理解」と「達成感」の項目が4点より低い結果となった。9割弱の学生が熱心に取り組んでいた。7割弱の学生が目標を意識して取り組んでいた。しかし、7割強の学生が質問をしていない結果となった。予習は9割以上の学生が実施している。また、復習は回答者全員が実施していた。3時間以上の復習をしている学生も2割弱見られた。7割弱の学生が、到達目標、DPとの関連性を知っていたが、達成できたと回答した学生が5割程度であった。

復習の時間が多い学生がいることから、理解できるまで学習できないと、達成感も得にくいと考えられた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

内容の難しさを挙げる意見が多く、知識量の多さであったり複雑であるとの認識を持っている学生が多い。分かりやすかったと評価した意見も見られた。繰り返して行ったり、提示資料の工夫を評価した意見も見られた。

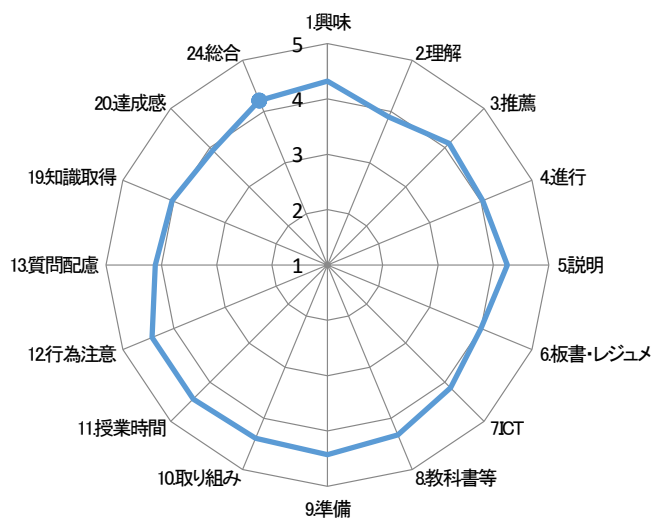
内容が理解できていないという内容の意見があった。科目受講の前提となる知識の不足も影響していると考えられる。疾患の理解やそれにかかわる理学療法の内容を理解するために必要な知識が前提にあることを改めて認識することになった。

◆今後の改善に向けて

理解すべき知識量は多くあるため、改めて学生自身に学ぶ姿勢を伝えることも必要であると感じる。また、授業開始前に専門基礎科目の知識（特に解剖学、生理学）が関連することを伝え準備を促す必要もある。

授業の方法として、重要事項を繰り返すことにより一定の効果があるため、引き続き継続していく。学生の理解を深めるための提示資料の工夫も必要である。イラストや模型などといった工夫は効果的と言える。

毎回、確認の小テストの実施により、予習や復習の時間を確保することにつながることができたと思われる。理解度を上げるための勉強時間を確保する必要がある。引き続き小テストを実施し、理解を深めることを時間を確保することを促していきたい。達成感につながる工夫についても検討していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

58. 中枢神経系障害理学療法治療学実習

担当教員

松村 仁実・加藤 真弓

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

13 名

◆集計データ結果について

回答者数が少ないため、全体を反映できているかは不明である。回答者の多くはおおむね満足という回答であった。回答者の6割ほどは、目標等を意識し、熱心に取り組んでいる。ただし、質問に関する項目では、4割ほどの学生はできなかったとの回答であった。予習・復習では、1時間未満、1～2時間の学生が多い様子ではある。多少は時間をかけ学習していた。復習では3～5時間と熱心な学生も見られた。到達目標やDPとの関連を理解できているとの回答が多かった。

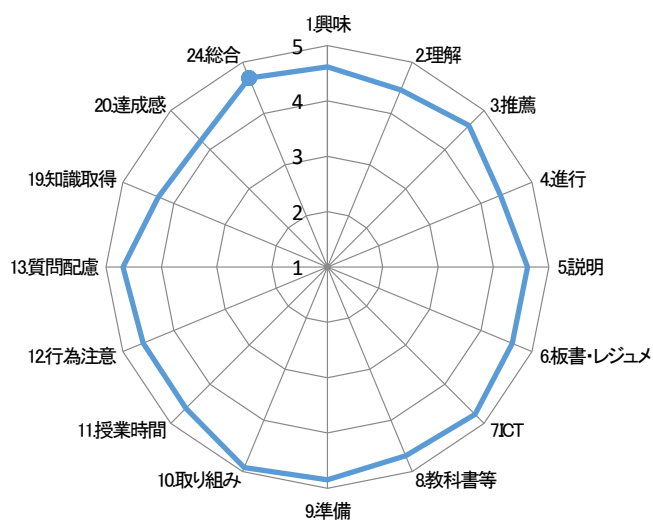
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

前期の学習を踏まえて理解できたとの意見があり、うまく学習がにつながった学生がいた点はよかった。また、実技を交え、臨床的な話を入れることで、勉強している意味であったり、疑問を持って確認しやすかったとの意見がみられた。

◆今後の改善に向けて

回答者が少なく、回答した学生は授業に対しての取り組みも前向きだと考えられるため、ほかにも改善の課題があるかもしれない。しかし、今回は結果を踏まえて検討する。

前期で開講している中枢神経系障害理学療法治療学の知識を使うような工夫ができるとよい。また、実技を身につけることも必要であるため、引き続き臨床場面の話を加えるなど学生が、疑問を持ち、実施できるように進めていこうにしたい。予習復習は、時間の長さではないが、行うことは重要であると考え、本科目での予習復習の仕方についても触れていくことで理解を深めることにつなげたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆集計データ結果について

各項目の平均点を参照する限りは、良好な評価を頂けたと解釈している。しかし、有効回答数が受講者の27%程度であるため、はっきりしたことはわからない。

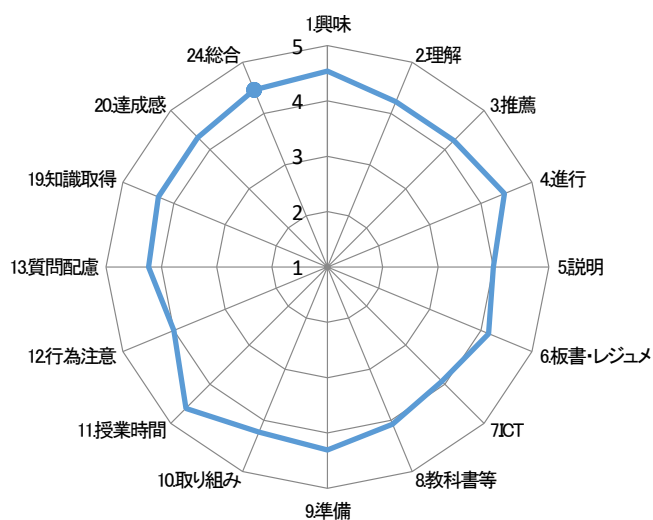
本講義は、教員より事前に講義動画を配信した。学生は該当講義前までに動画を視聴し、講義時間中は事前に回収した質問に回答するという形式をとった。また、該当講義の1週間後に小テストを実施した。このような形式にもかかわらず事前・事後学習時間が全くないと回答した学生もいたが、全体的には事前、事後学習時間をある程度確保していたと回答した学生が多かったことは良かったと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

小テストの実施方法について改善を求める意見が散見された。小テストの実施方法については不正防止と学習効果の向上を目標に毎年修正を行っているが、すべての要望に応えることは難しい。講義中に小テストを行う意味や、本講義自体のねらいをしっかりと説明することを心掛けたい。

◆今後の改善に向けて

事前に動画を配信する方法については、例年好意的な意見が多いため、今後も継続する予定である。
成績判定に関しては、自由記載の意見も参考に修正を行いたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

60. 運動器系障害理学療法治療学実習

担当教員

齊藤 誠

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

8 名

◆集計データ結果について

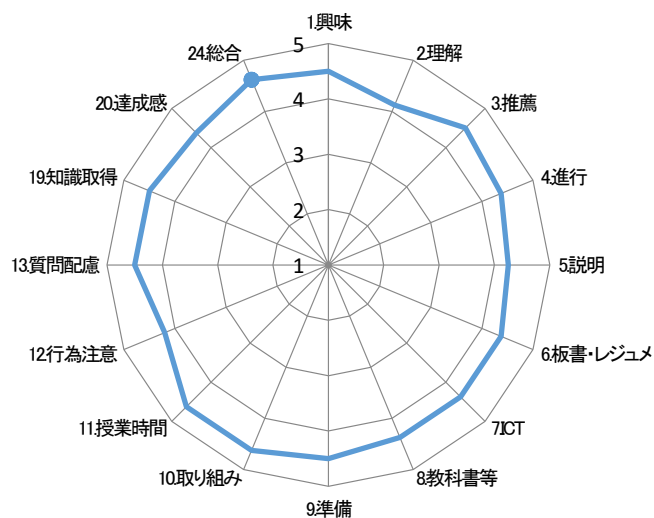
アンケートに回答いただいた人数が8名であるため、そのまま受け取ることはできないが、好意的な意見や点数が高かったことは良い傾向であると感じている。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本講義は論理的思考の重要性を訴え、演習を通して学ぶことを意識した。数名であるが、そのような自由記述があったことはうれしく思う。

◆今後の改善に向けて

臨床現場において論理的な思考ができることは非常に重要であると考えている。今後も演習を通して臨床推論能力向上を促していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

61. 内部疾患系障害理学療法治療学

担当教員

臼井 晴信・宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

12 名

◆集計データ結果について

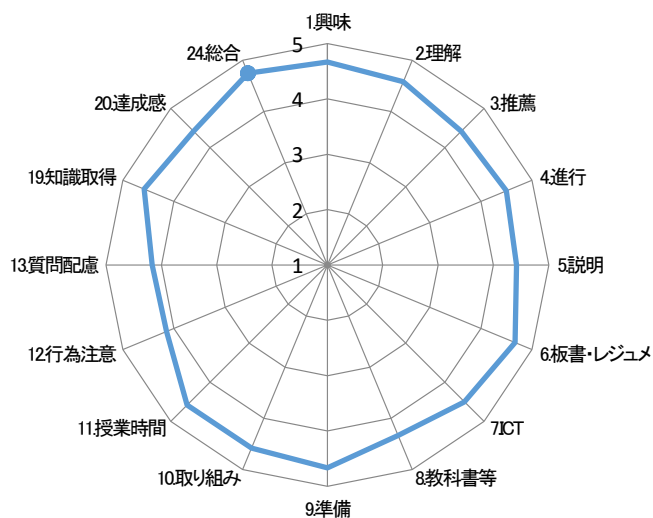
ほとんどの項目で4.5点を超えており概ね問題なかったと思われる。「質問への配慮」の項目で「あまりそう思わない」と回答している学生がいた。講義内容が多く余裕のない構成になっていたのかもしれない。予習と復習について課題を課していたが、取り組んでいないという学生が1名いた。毎回提出されていない学生はいなかったので結果の解釈ができない。盗用して提出していたか、アンケート結果を適当に回答しているかのどちらかが考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

わかりやすかったと回答した学生が多かった。わかりやすい授業よりも自分で考えてわかったと感じる授業を目指していたが、すこし狙いとズレたかもしれない。毎回の課題で知識を深められたという意見もあり、自分で考える機会を与えることができたのは狙い通りだった。質問する時間が欲しいと回答している学生がいた。上記の結果と同様に、余裕のない構成になっていたと考えられる。

◆今後の改善に向けて

教授内容が多く難しい内容も多いので、予習と復習の課題を明確に設定した。多くの学生が意欲的に取り組み、自分で考える機会になっていたと思うが、情報や課題が過多となっていたかもしれない。講義時に教授する内容を整理し、もう少し余裕を持った構成にできると良いかもしれない。自分で考える機会を増やすために発表や討論の時間を増やしてみようと思う。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

62. 内部疾患系障害理学療法治療学実習

担当教員

臼井 晴信・宮津 真寿美・杉山 成司

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

13 名

◆集計データ結果について

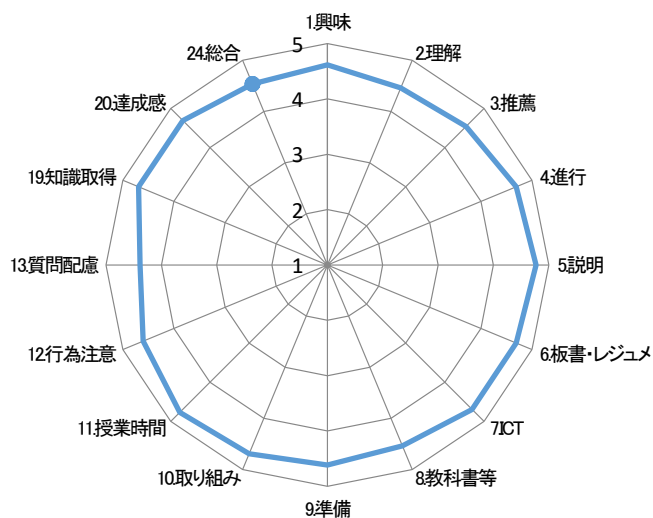
ほとんどの項目で4.5点以上のため講義内容には問題なかったと思われる。質問しやすい環境だったかの問いに対して「そうではない」と回答している学生が13名中1名いた。質問しやすい環境を整えているつもりではあったが、そう思わない学生もいるということは真摯に受け止める。グループワークや実験が中心の講義構成であったが、学生にも教員にも時間的な余裕がなかったのかもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークや実験、発表などが中心の授業構成であり主体的に学べたという意見があった。主体的に学修し、自ら問題や課題を解決しようと行動することが講義の目標であった。今後も同様の授業構成により行おうと思う。

◆今後の改善に向けて

授業構成を大幅に変更することはしないが、内容のアップデートを行いつつ、学生の主体的な学びを促す仕掛け作りを常に考えながら授業を組み立てようと思う。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆集計データ結果について

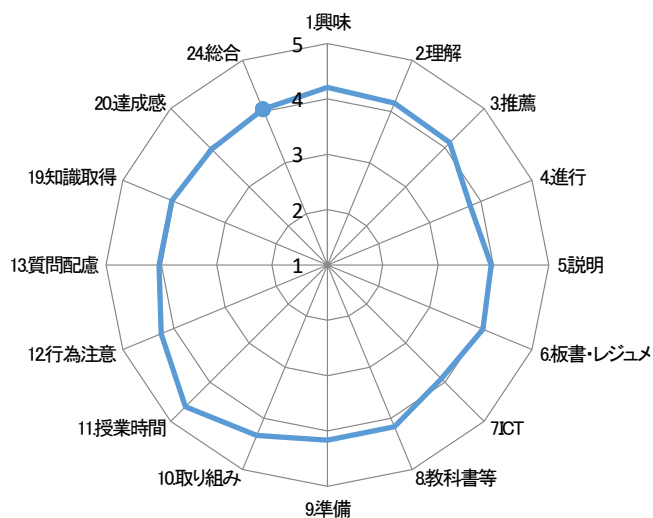
「平均」:4.11点、「総合」:4.04点と概ね評価が良かった。しかし、4点を切った項目として「進行」:3.79点、「説明」:3.95点、「ICT」:3.90点、「達成感」:3.95点と評価が低かった。講義に熱心に取り組んだ学生が、「どちらかといえば取り組んだ」、「取り組んだ」を合わせて8割程であった。また、目標を意識して取り組んだ学生が、「どちらかといえば取り組んだ」、「取り組んだ」を合わせて6割程であり、やや低かった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「動画など実際に観ることが出来、理解が深まった」との回答が多く、小児特有の馴染みのない疾患の病態について、実際の症例を通して視覚的にイメージしながら解説できたのが、理解の助けになったと考える。「しっかり大切なところを教えてもらい勉強がしやすくなった」との回答については、重要項目事項は講義内で繰り返し、強調することに努めた。「説明がわかりにくかった」との回答もあった。スライドをただなぞるようなところもあり、やや単調になってしまったかもしれない。また、各項目、用語等の理解の確認作業も不十分であったかもしれない。「授業の進行が早かった」との回答もあった。

◆今後の改善に向けて

小児疾患の動画の閲覧については、学生が具体的にイメージし易かったの意見を受けて、今後も講義で実施していきたいと思う。痙直型脳性麻痺の項目においても症例の動画を用いて時間も割いて解説したつもりであったが、試験の得点に全般的に反映されていなかったのが反省点である。よりポイントを明確にした、分かりやすい講義を展開していく必要がある。また、当該講義は前期の序盤の日程で設定されていた為、専門用語、知識などの理解が十分でない側面があったと推察する。1年生で受講する「解剖学」「生理学」「運動学」の基礎科目との関連付けを示しながらの解説も重要と考える。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

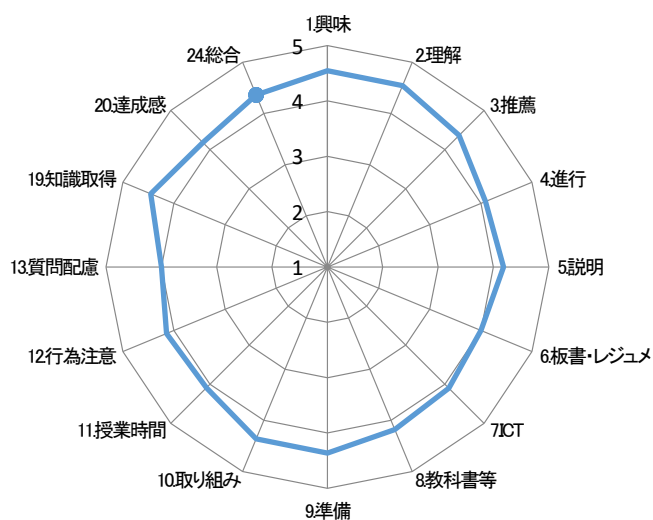
小児領域の理学療法はマイナーな分野であるので、興味理解の領域が比較的高く出ているのは、興味関心のある学生にはより興味が深まり、授業の内容が学生の皆さんの興味にフィットしやすく理解を進めることができたのではないかと考えています。ただし回答者が11名ということで、興味の持てない学生には、なかなか浸透しにくかったかもしれないと反省しています。配布資料に関しては、スライド資料を穴あき式に今年度より改善をしたので、スライド資料が欲しいという一定の希望には添えたのではないかと思います。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

概ね良好な回答であったと認識しています。実際の授業でも実技を行っている多くの学生さんが積極的に動いていると感じましたので、実技の授業により、学生が理解を深めているという様に考えます。また視覚教材(動画や写真など)の活用で具体的に小児疾患の特徴などを提示したことにより、あまりなじみのない小児疾患が印象に残り理解を深めていくことに役に立っているのではないかと感じました。今後もできる限り視覚教材を多くしたスライドの作成に務めたいと考えています。

◆今後の改善に向けて

今年度、「小児疾患系理学療法治療学」を御担当されている教員が変更され、前年度までの分担で行っていた授業内容の分担が急遽変更しなければならなくなり、授業が始まってから変更を知ったので、最初のほうの授業では一部授業内容が重なり学生さんには迷惑をおかけしたと感じました。できるだけ「治療学」でご教授される内容を事前に把握して、私の授業では重ならないよう反映したいと思います。また、国家試験内容として近年、小児整形外科、小児精神科、小児科病理学など、幅広く出題されるようになり、脳性麻痺や筋ジストロフィーなど定番問題も少しずつ問題傾向が変化しており、そのあたりを伝えられるように授業を組み立てていきたいと考えています。このような状況から、一定の座学はやむを得ないとも考えていますが、実技については今後も同頻度で実施していくとともに、コロナ禍で中止している調べたことを発表するというアクティブラーニングを次年度から再開できるかどうかを検討したいと思っています。このコロナ禍において、おおよそ対面授業が実施できたのは、ひとえに養成校側の管理と、学生さんの感染対策の徹底を意識した行動のたまものと感謝しています。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

65. 老年期障害理学療法学

担当教員

木村 菜穂子

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

24 名

◆集計データ結果について

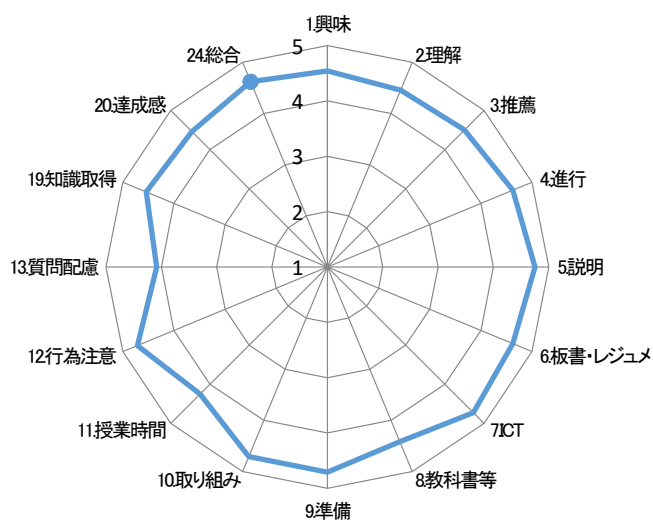
全て4以上の評価でしたので、大きな問題はなかったかと思いますが、「質問配慮」の項目が若干低かったと思いますが、「分からないことがあればその都度確認してほしい」と伝えてあったと思いますし、授業後には質問に答えるようにしていましたので、どういう状況を望まれているのか、不明でした。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

まだ医学的な知識(症候学)を学んでいない1年後期での開講科目であるため、できる限り分かりやすく内容を伝えることを意識し、さらに前期に終了した基礎科目(解剖学・生理学等)との関連を意識した学習ができるよう、繰り返し質問も行いました。皆さんの負担となっていないか心配でしたが、多くの人が好意的に受け取ってくれていたことが自由記載から読み取れて、とても安心しました。また、ノート代わりとなるレジュメも活用していただけていたようで、良かったです。メモスペースが狭いという意見もありましたが、付箋なども活用して自分なりのノートを作成してもらえればと思います。

◆今後の改善に向けて

予習・復習時間はなし/1時間未満の人が多かったですが、学生の意識からは「熱心に取り組んだ」と自己評価している人が多かったので、興味を持って受講してくれたのだと理解したいと思います。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆集計データ結果について

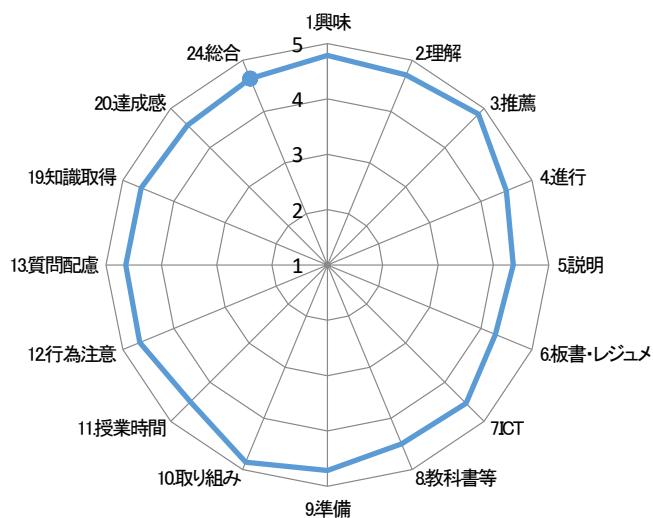
4点台後半であり、概ね良好であると考え。説明および板書・レジメの点数がやや低い点数があった。今年度は、教員が教科書内容を説明するのではなく、症例を通して各疾患のADLについてグループワークを中心に行った。学生自身が授業をする(伝える)ことを意識し、PowerPointにまとめ、発表し、質疑応答の中で考えてもらい、不足する点を教科書等を用いて説明を加えた。そのため、教員からレジメの配布や板書することは非常に少なかった。説明については、自由記述欄から、賛否が分かれていることがわかり、その結果としての点数であると考え。今回は回答者が受講生の半分にも満たないため、この数値的な結果を鵜呑みにすることはできないと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

症例を通したADLの検討をグループで実施したことについて肯定的に捉えられていると考える。説明については、わかりやすいという意見があれば、長かったため短く纏めて欲しいという意見もあった。トランスファー実技については、もう少し時間があるとよいという意見があった。実技についての様子を見ていると、数回実施して終了している様子がうかがえたため、学生の取り組み方も見直しをしていただきたいと感じる。疾患や障害のイメージができていない学生同士での実技練習方法には工夫をしたいと思う。

◆今後の改善に向けて

グループワークは継続して取り入れていく。グループワークを進める中での関わりとして、臨床思考に繋がる質問や障害像理解の助けとなるようなファシリテーションに取り組む。トランスファー実技については、対象者に合った方法を考え実施できることを目標に課題の提示方法を検討したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

科目名

67. 義肢装具学[PT]

担当教員

山田 南欧美

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

38 名

◆集計データ結果について

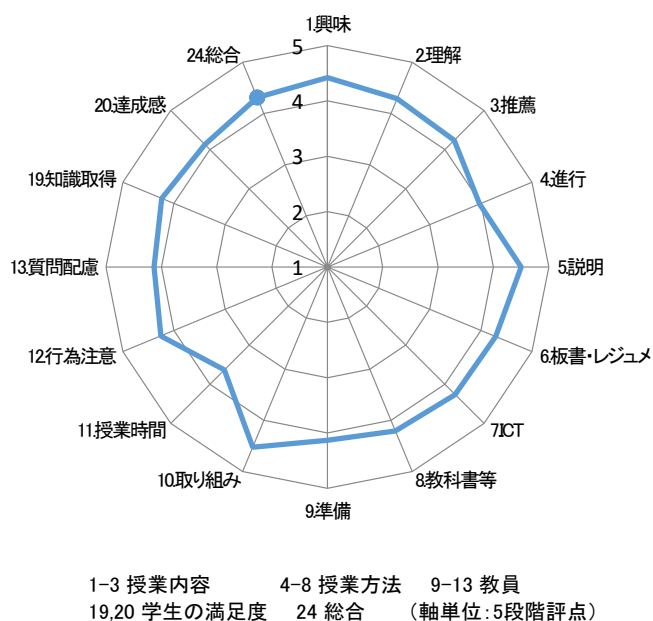
ほとんどの項目で4点以上の評価を得られており、総合評価においても4.3点であったことから、概ね高い評価を得られたと考える。授業の進行具合、および、授業の開始・終了時間の遵守において、3点台とやや低い評価となっていた。今年度より、新しい教科書を授業に採用したため、授業内容・資料も大幅に変更した。その結果、授業の進み具合が予定と異なってしまう、やや後半の授業が足早になってしまっていた。そのことが、今回の評価につながったと考える。また、授業中に多くの説明を盛り込んだりことにより、予定していた内容が授業内に終わらず、延長してしまったり、作り直した資料の印刷が授業前に立て込み、開始がやや遅れてしまったりしたことがあったため、授業時間についての低い評価に繋がったと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

多くの意見として、実際に義肢・装具を見る・触れることができてよかったとの意見が挙がった。義肢装具は学生のうちは馴染みのないものであり、学内に保管している実物になるべく授業で使用するよう心掛けたことが、これらの意見に繋がったと考える。また、異常歩行などを教員が実演して見せるなど工夫をしたため、それについても動きがわかって良かったとの意見がみられた。プリント等授業資料についても図や写真を多くするよう心掛けた結果、資料が見やすかったとの意見を得ることができた。小テストに関する課題についての説明がほしかったという意見があったことから、授業はじめのシラバス説明などで詳しい内容を説明する必要があったと感じた。

◆今後の改善に向けて

今年度から教科書の変更に伴い、資料・授業内容の刷新を行ったため、授業の進行状況において若干不十分な点があった。これについては、今年度の進行状況を踏まえて来年度の授業内容を再検討し、改善を図っていきたい。授業資料や提供方法については、今年度においても高い評価を得られたことから、来年度以降も継続して実践していきたいと考える。イメージがなかなかつきにくい科目のため、写真や図表、実物の提示などを積極的にに行い、学生の理解を促せる授業を展開していきたい。



科目名

68. 義肢装具学実習[PT]

担当教員

山田 南欧美・西井 千博

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

9 名

◆集計データ結果について

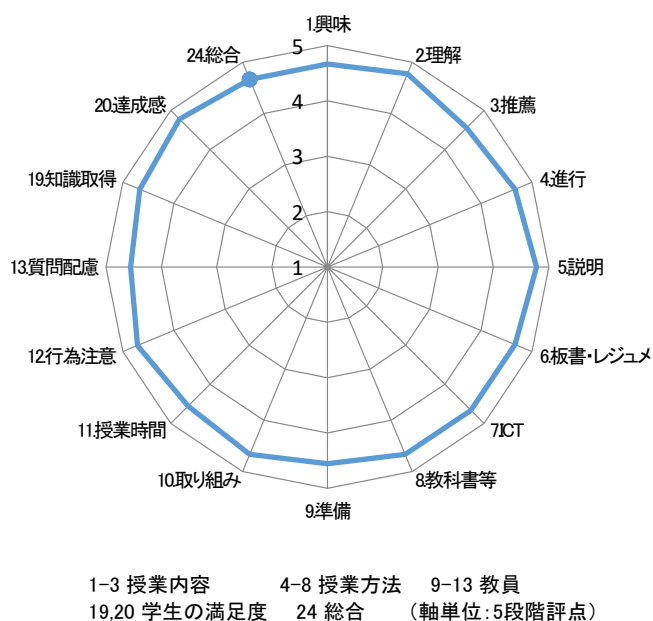
回答者数は少ないものの、全ての項目において4.5点以上と高い評価を受けることができた。達成感4.7点であり、学生のうちは馴染みがない義肢装具について、授業を通して十分に学びを得てもらえたと考える。予習時間が短めではあったが、授業内容について翌授業において小テストを実施していたため、復習時間は多数の学生が1-2時間と、しっかりと取り組めていたと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本授業では義肢装具士を招き、義肢装具の実物に触れることのできる授業回を設けている。そのおかげで、実際に義肢装具を体験することができてより理解が深まったとの意見が多数みられた。また、実際の義肢装具のイメージが沸きやすいように、授業資料内にも多くの写真等を盛り込むように心掛けたが、その成果として「図や表が資料に多く見やすかった」という意見が寄せられた。加えて、義肢装具学は国家試験への出題頻度が高い分野であることから、国家試験の過去問を配布し、グループで学習・ディスカッションをさせたが、国試問題に取り組めたことがよかったとの意見もあり、1年後に控える国家試験に対して、苦手意識を減らすことができたと考える。

◆今後の改善に向けて

今年度も例年と同様の内容で授業を展開したが、概ね高い評価を得られたことから、来年度以降も同様の内容にて授業を行っていく予定である。ただ、義肢装具の種類等、年々新しいものも増えていくことから、資料内容については、常に最新の情報を盛り込むことができるよう、配慮していく。また、本科目の国家試験問題の難易度も年々上がっていることから、授業で得た知識を国家試験問題に応用することを、授業内で促していきたい。



科目名

69. 物理療法学

担当教員

臼井 晴信

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

25 名

◆集計データ結果について

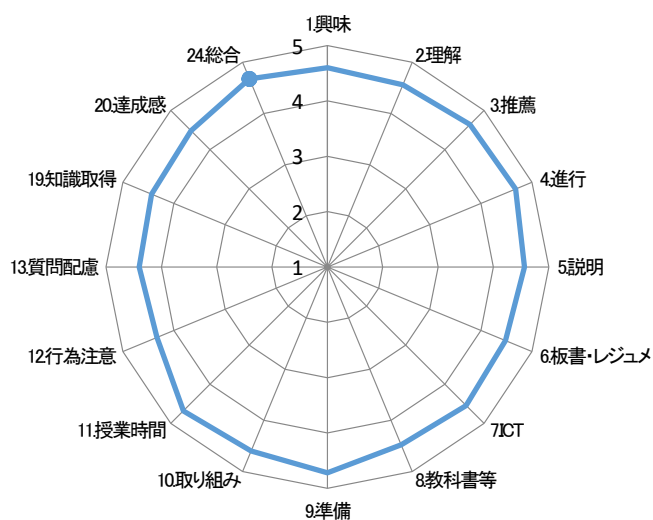
ほとんどの項目で4.5点を超えており授業内容は概ね問題なかったと思われる。予習を行わなかったと答えている学生が一定数いる。課題などを課し予習を促すことは行わなかったためと考えられる。また質問しなかったと答えた学生がある程度いる。「質問しやすい環境か」の項目は点数が高いので、質問がしにくかったというよりは講義内容に興味を持たなかったことが原因と考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

講義には実験も多く取り入れて自ら考えられるような工夫をした。そのためか「面白かった」と回答している学生がおり、一部の学生に対しては考える楽しさを伝えることが出来たと思う。

◆今後の改善に向けて

より興味を持って自分で考えることが出来るように、実験や考察を多く取り入れること、さらに最新の機器などの情報を多く取り入れた講義をする。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

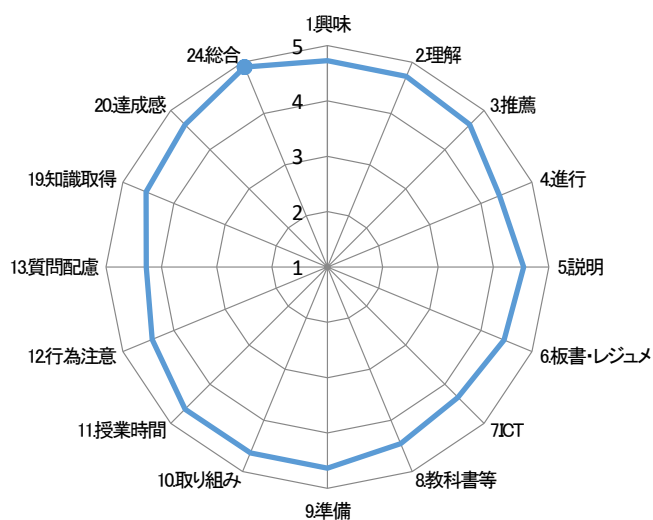
得られた回答が限定されているものの、全ての項目にて4.0点以上とおおむね良い評価を得た。「質問配慮」、「進行」に関しては、それぞれ4.2点、4.3点と他の項目と比較すると相対的に低い点数であった。この要因として、グループワークを主体とする授業展開であったため、学生各自での計画、役割分担が必要であったことや、一部の物理療法機器の不具合による進行の遅れなどが考えられる。

DP、授業達成目標に関しては、8割以上の学生が達成できたとの回答が得られたが、一部では達成が不十分である結果であった。グループワークによる学習は継続し、授業の進行に応じ、DPを含めた物理療法の意義等を継続的に伝達する事が望まれる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生の自由度が高いグループワークを主体とし、実験による物理療法の経験、レポート作成による思考の統合と解釈、発表、資料作成による成果報告など一連の授業形態は良い評価を得ている。

特に物理療法学で学んだ知識を発揮する実践の場として活用された事や、学生間での主体的な取り組みは授業への興味、関心へと繋がり、楽しみながら講義を受講できていたと考えられる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

グループワークを通じた学生主体の授業形態は、今後も継続していきたいと考える。各グループで個人が役割を持ち主体的に取り組めるように、教員が介入を行う、もしくは役割分担を促すような課題設定を継続して行っていく必要がある。

レポートに関しては、個人、グループそれぞれに課題を課しおり、授業の進行と共に多くの学生の成長を認めた。その一方で、一定数の学生はレポートの質に改善が認められず、「作業」として取り組む傾向があった。レポートを含め、発表等の際にも、学生が自ら考え表出できるように、個人に沿ったフィードバックを与える必要がある。

物理療法実習を通じ、物理療法の意義と必要性の理解だけでなく、臨床で実践できる対応能力、理学療法の効果測定方法、成果の発表の手段など引き続き指導していく。

科目名

71. 生活環境論

担当教員

木村 菜穂子

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

17 名

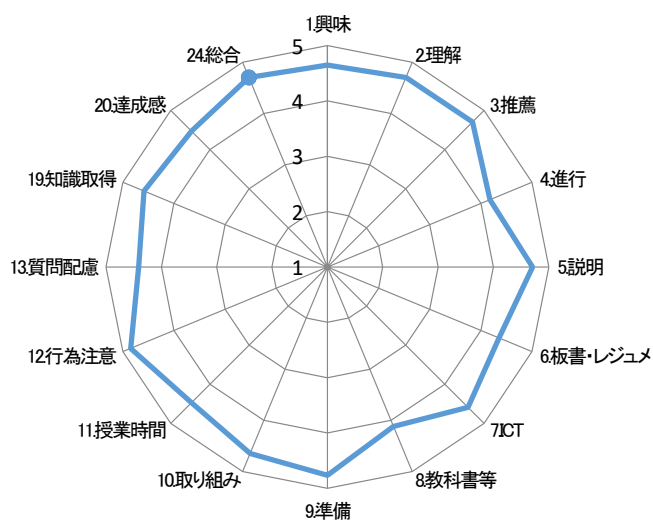
◆集計データ結果について

全ての項目で4以上という評価をいただきました。概ね、問題はなかったということかと思います。

また、学生の意識で「熱心に取り組んだ」と自己評価した人が70%を越えており、興味を持って授業に取り組んでいただけたのだと理解しています。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

ただ、国家試験に必要な知識を学ぶだけであればテキストをひたすら読んでもらえばよいのだと思いますが、こういった分野に少しでも興味を持ってもらいたいとの考えから、できる限り私自身が臨床で経験したことを具体例として提示することを意識しています。それが概ね「分かりやすかった」「面白かった」と受け入れていただけているようなので、よかったです。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

患者さんや高齢者がより望む生活を送るために、私たち理学療法士が行えることは多くあります。どうしても直接的な援助に目が行きがちですが、周囲(それがすべて「環境」)へのアプローチも重要であることをより伝えられるよう、今後も工夫していきたいと思っています。

科目名

72. 地域理学療法学

担当教員

木村 菜穂子

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

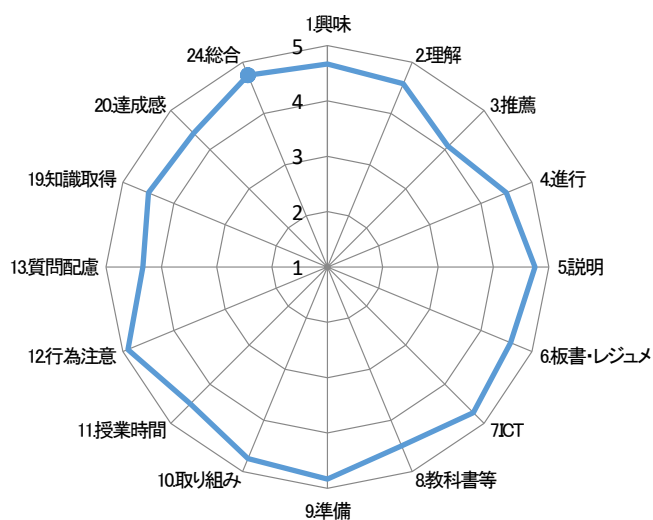
12 名

◆集計データ結果について

全ての項目で、4以上という評価でありましたので、概ね良い評価であったかと思いますが、ただ、回答者数が例年に比べてかなり少ないことが気になりました。回答いただいた方たちは、熱心に取り組んでいただけたようで、良かったです。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

回答者が限定されてはいますが、私自身の経験や臨床での話を盛り込んだ講義スタイルは比較的好意的に受け入れていただけており、「興味を持てた」「理解しやすかった」という記載はうれしく思いました。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

例年、この講義は制度の話が中心となるため、興味を持ってもらいやすいように、なぜこの内容を知っておく必要があるのかを説明したうえで講義に入ったり、社会人として知っておいてほしい関連制度の説明などを加えたりと工夫をしています。そして、1年後の臨床実習、2年後の就職の際に医療従事者として求められることを学び、感じてほしいと私自身が経験したことを失敗も含めてお話ししています。そういったことが、少しでも皆さんに伝わるよう、さらに工夫をしていきたいと思っています。

科目名

73. 理学療法特論Ⅰ（神経生理学的アプローチ）

担当教員

加藤 真弓・高松 泰行

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

14 名

◆集計データ結果について

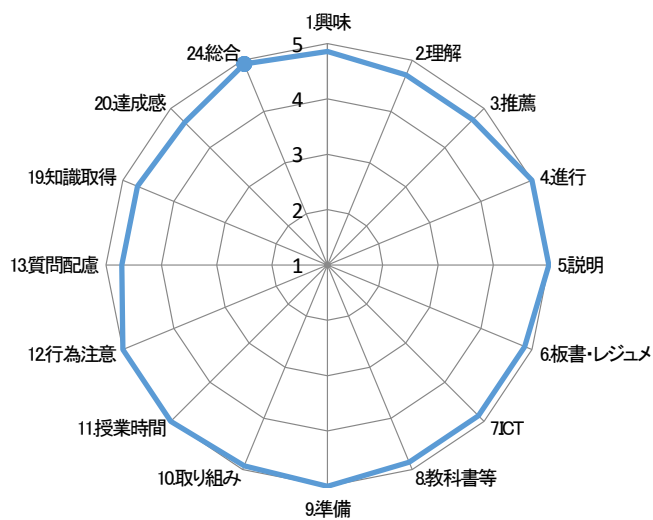
いずれも4点台後半であり、高評価である。これは、本科目は、選択科目であり、興味関心のある学生が受講していることが大きく影響していると考ええる。また、臨床実習終了後の開講であり、臨床を理解した上でそれに活かせる知識と技術を授業で扱うことが理由であると考ええる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

臨床に活かせる知識、技術を学ぶことができたという記載が多かった。環境面に関しては、他の授業との兼ね合いで、昇降式のベッドが使用できなく、体の使い方がまだまだ十分でない学生にとっては、体への負担が大きかったかと思われる。ただ、臨床ではいつも環境が整っているとは限らないため、体の使い方の工夫も考えてできるとよい。

◆今後の改善に向けて

環境面については、極力整えられるようにしたいと考えるが、限りがあるため対応できないこともある。その場合は、今ある環境での工夫の仕方を学生と考えられるようにしたい。その他については、継続していこうと思う。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

74. 理学療法特論Ⅱ（関節運動学的アプローチ）

担当教員

齊藤 誠・鈴木 惇也

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

35 名

◆集計データ結果について

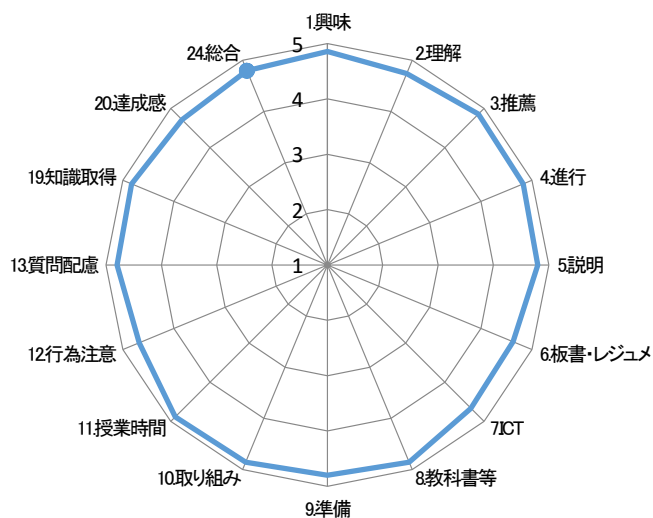
全体的に非常に高い点数を獲得することができた。臨床実習を終えた学生を対象とした科目であり、臨床に向けた講義、実技を行ったことが、今回の結果になった要因であると考えている。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

実技、講義とも良かったという記載が多かった。臨床実習で見学した内容を、より深く学べたこと、質問しながら技術指導を受けられたことなどが良かった点として挙げられていた。

◆今後の改善に向けて

本講義は最終学年の後期に実施する科目であり、学生自身の受講意識も高い。より深く学ぼうとする意欲を向上させるような講義を今後も展開していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

75. 理学療法特論Ⅳ（スポーツ障害理学療法）

担当教員

鳥居 昭久

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

24 名

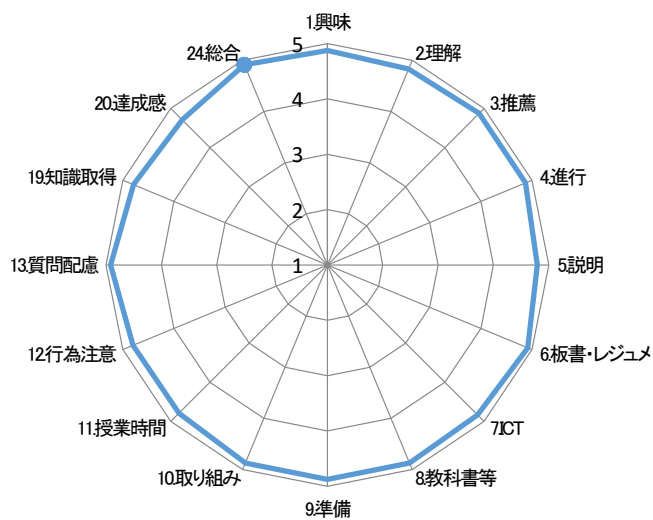
◆集計データ結果について

集計結果は驚くような高得点であったことは、大変興味を持って取り組んでいたことを伺うことができる。当該科目を担当するのが最後の学年でもあり、後悔する部分が無くてよかった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

基本的に臨床に役立つ知識や技術の一端を感じて欲しいという願いがあり、この点では学生たちには伝わったと思えることが伺えた点で自己評価としても高い点を付けたいと思える。この講義で考えたこと、取り組んだことを4月以降につなげて欲しいと感じる。

◆今後の改善に向けて



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

76. 理学療法特論Ⅴ（吸引・喀痰法）

担当教員

臼井 晴信・長井 多美子

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

32 名

◆集計データ結果について

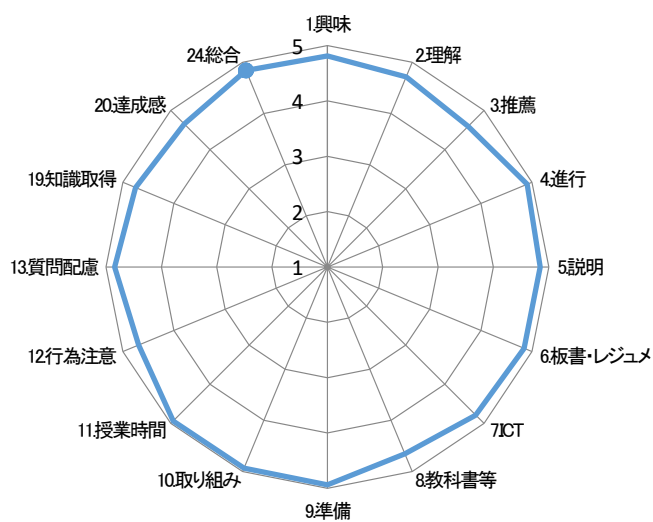
全ての項目で4.5点を超えており授業内容に問題なかったと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークや実習を通して臨床に必要な知識と実技を身につけられたという意見が多かった。実技については新型コロナウイルス感染症の影響で満足に行うことが出来なかったが、出来る範囲で実践できてよかったと思う。

◆今後の改善に向けて

本科目の内容は、新カリキュラム移行により2年次の内部疾患系理学療法実習に組み込まれる。次年度以降、開講されない。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

科目名

77. 臨床実習Ⅱ（評価）[3PT]

担当教員

加藤 真弓・松村 仁実・宮津 真寿美・木村 菜穂子・臼井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠・濱田 光佑

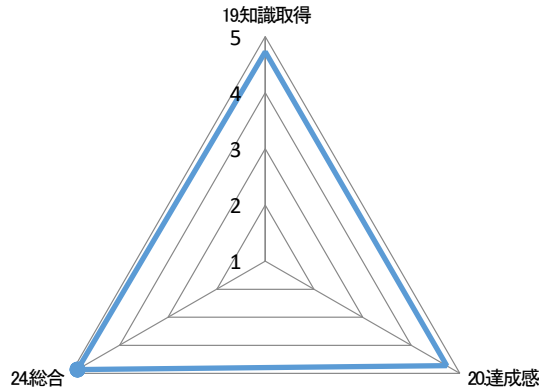
専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

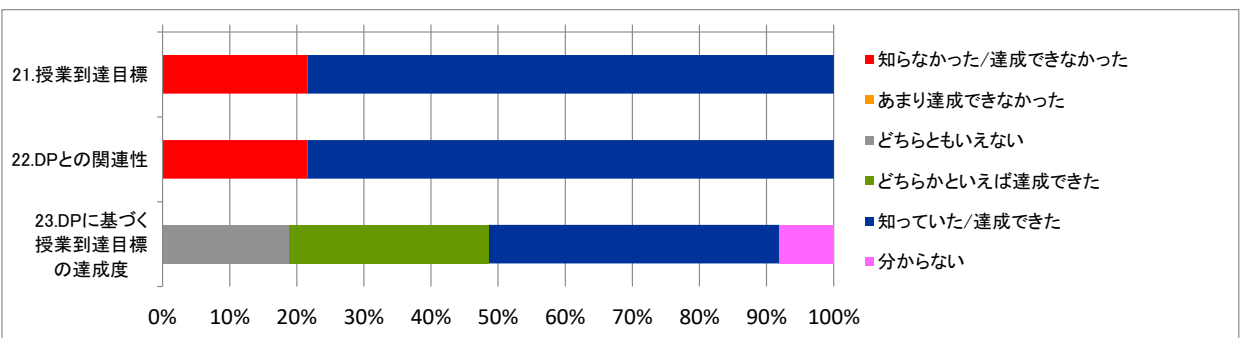
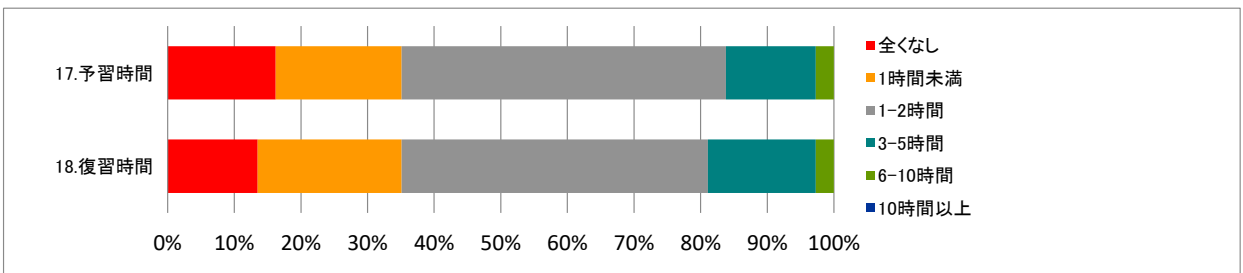
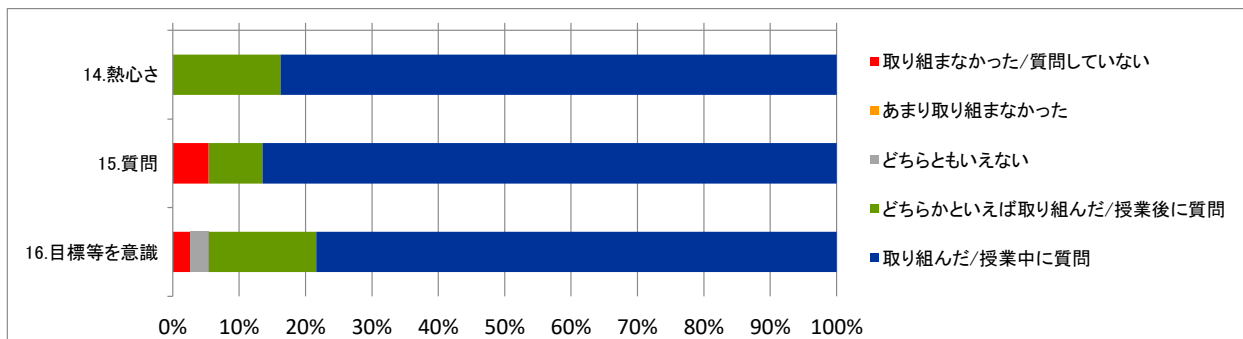
37 名

◆集計データ結果について



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

78. 臨床実習Ⅲ（総合1）[3PT]

担当教員

加藤 真弓・松村 仁実・宮津 真寿美・木村 菜穂子・白井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠・濱田 光佑

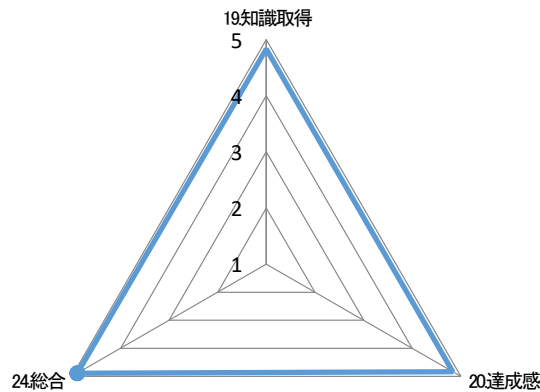
専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

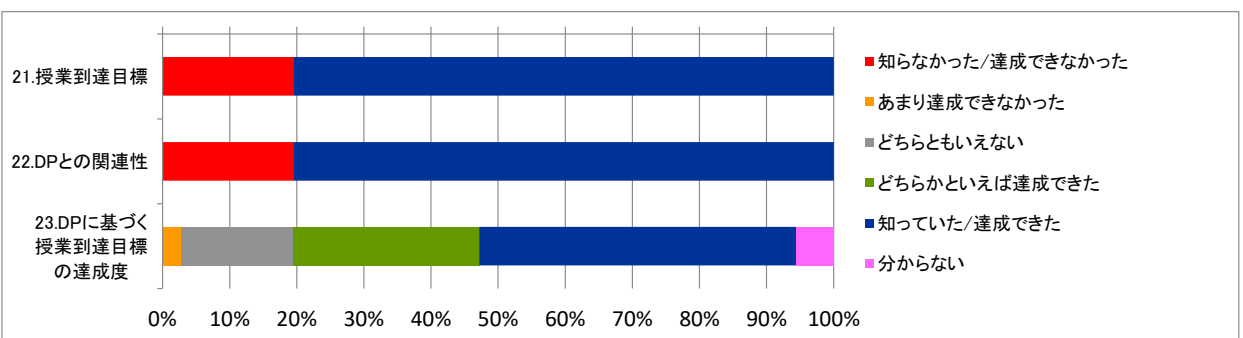
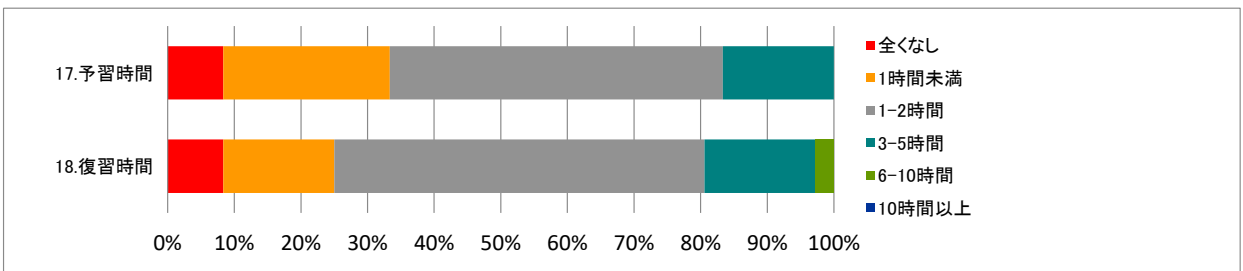
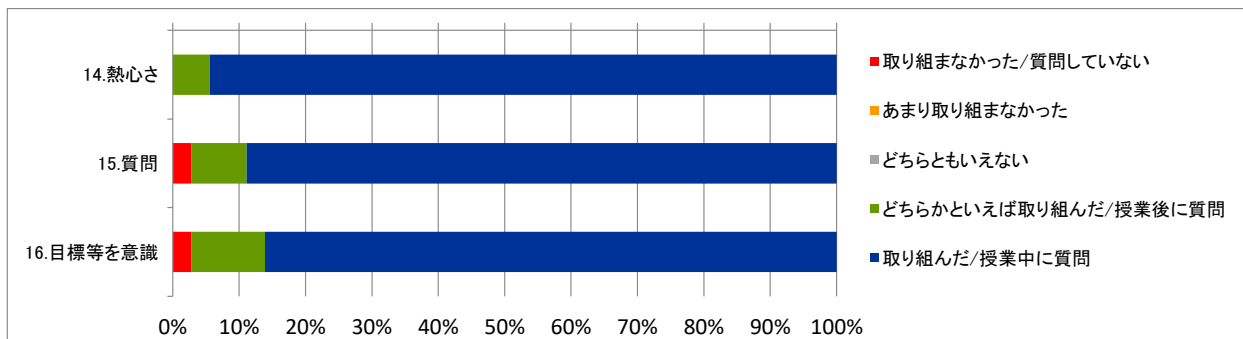
36 名

◆集計データ結果について



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

79. 臨床実習Ⅳ（総合2）[3PT]

担当教員

加藤 真弓・松村 仁実・宮津 真寿美・木村 菜穂子・白井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠・濱田 光佑

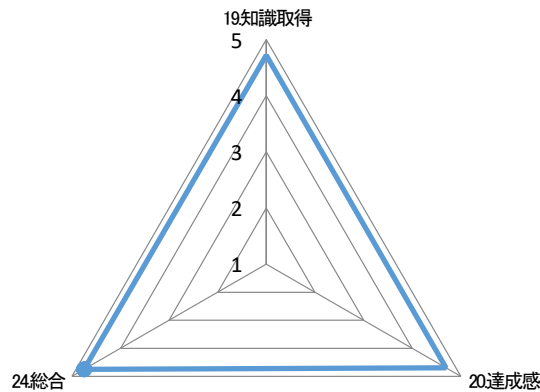
専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

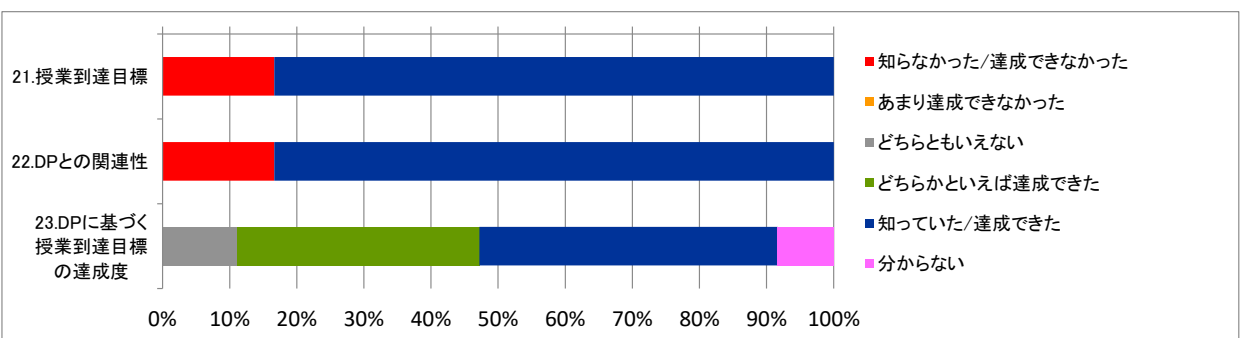
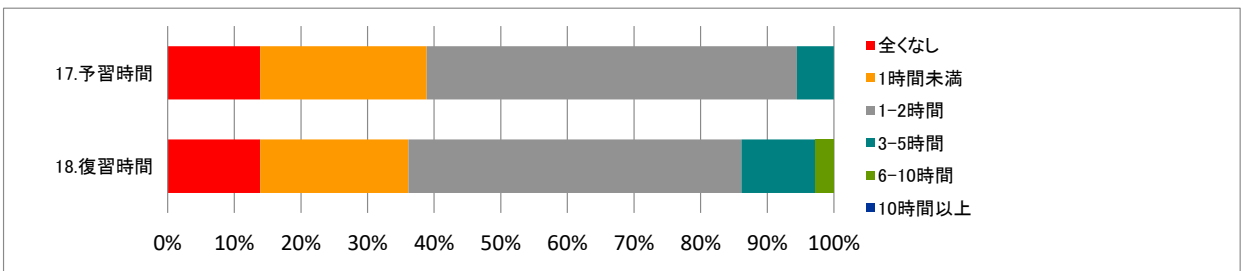
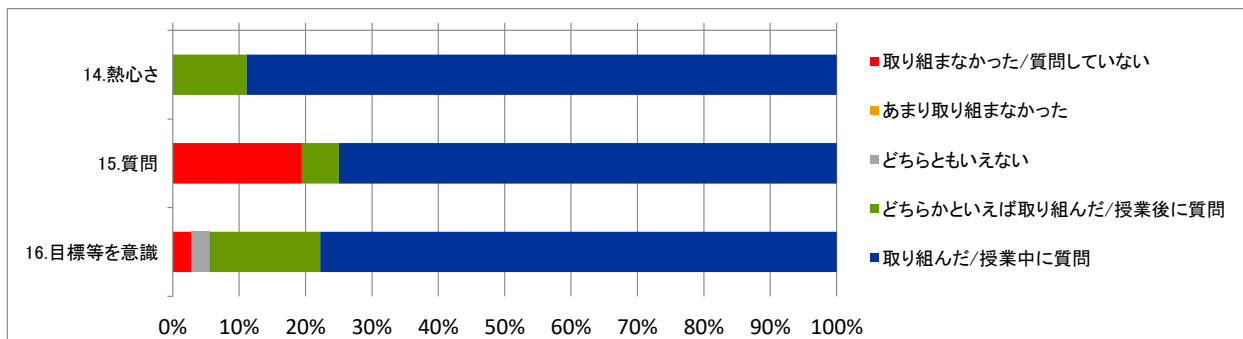
36 名

◆集計データ結果について



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

80. 卒業研究[3PT]

担当教員

加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・白井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠・濱田 光佑

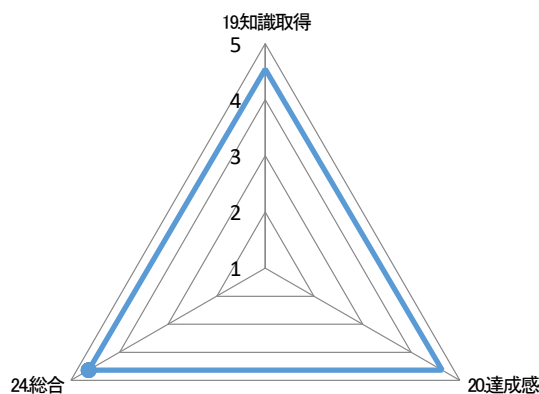
専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

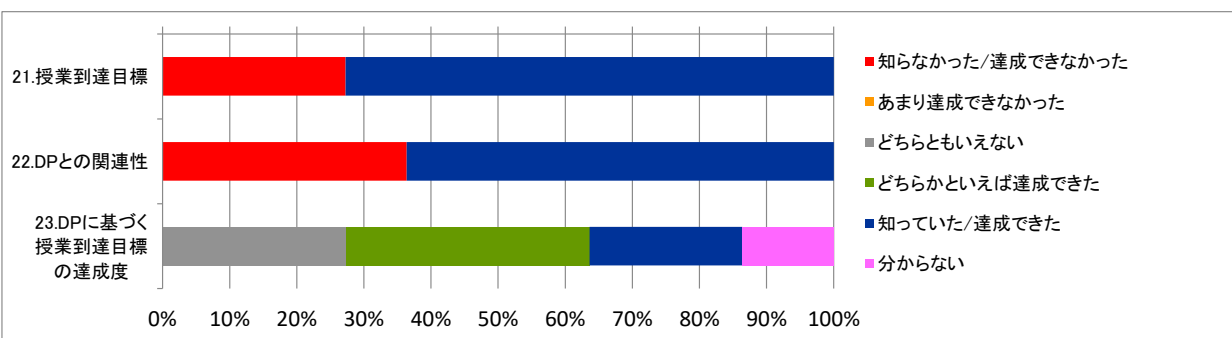
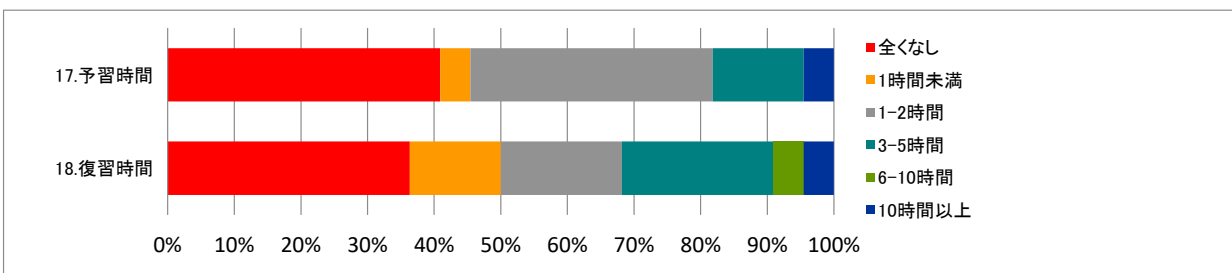
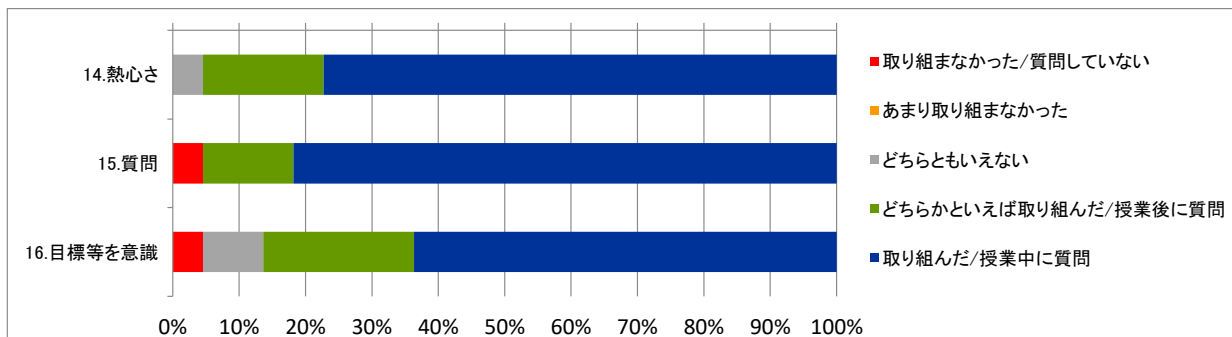
22 名

◆集計データ結果について



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

81. 総合演習[3PT]

石川 清・加藤 真弓・松村 仁実・杉山 成司・宮津 真寿美・木村 菜穂子・臼井 晴信・

担当教員

山田 南欧美・齊藤 誠・濱田 光佑・横山 剛・廣渡 洋史・加藤 真夕美・石黒 茂・

種田 陽一・渡邊 豊明・清水 一輝・松田 裕美・外倉 由之

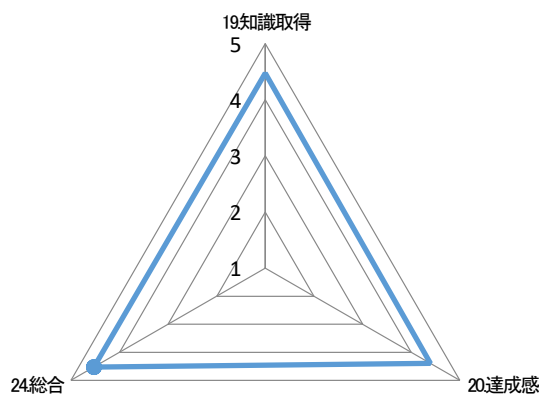
専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

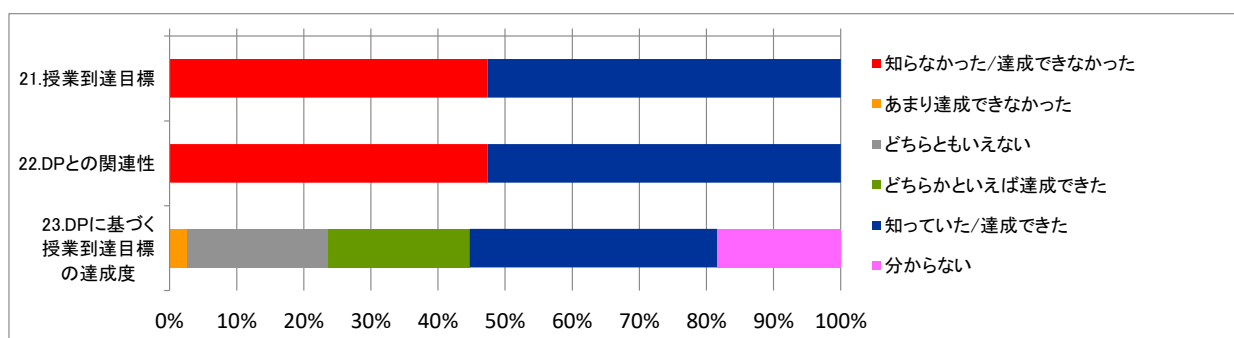
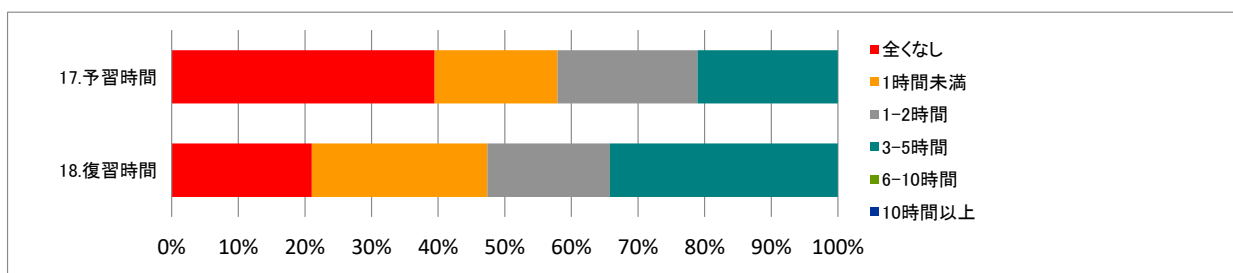
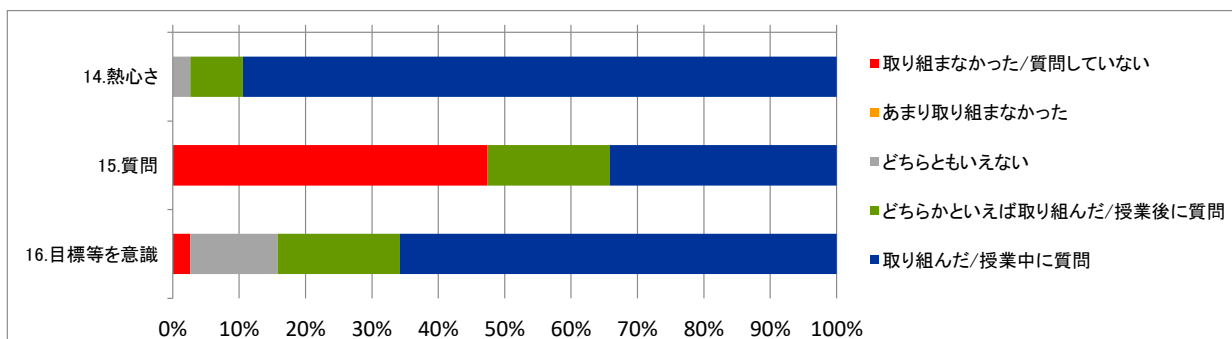
38 名

◆集計データ結果について



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



◆集計データ結果について

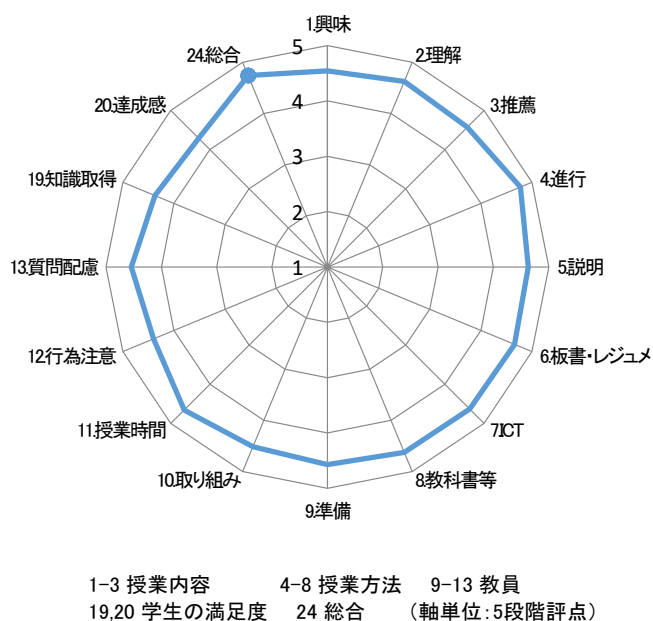
初めて担当する本科目の評価総合が4.74であったことは安堵する点であります。また、どの項目でもおおむね良い結果となり、作業療法への興味・関心が伝わって点において嬉しく思っています。本科目では、作業療法士としてのアイデンティティの構築が最大の自身の目標であったため、その点においては満足できる結果であると思っています。ただ、学生の予習時間や復習時間がそれほど多くないのは少し残念な点です。次年度はもっと学生の利益となるよう、予習・復習の時間を持たせれるような指導をしようと思います。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

対面授業とオンライン授業と転々と変化する授業形態であったにもかかわらず、自由記載では否定的な意見はなく、概ね高評価であったので、これらは引き続き実践していきたい。一点、作業療法の歴史をただ読むだけの時間があつた点が眠くなったと意見を頂戴した。本科目のテキストは作業療法の歴史の詳細に記載している点で、それに勝る資料がなくそれを活用した。ただ、実際にこれらをイメージすることが困難なことは否めず、今後の授業展開のヒントとなり有難い意見である。今回は、自身にとって初めての授業、コロナ禍による初めてのオンラインのアプリケーションということでグループワーク形式の対応ができなかったが、今後はグループワーク等の活用を検討していきたい。

◆今後の改善に向けて

今回頂戴した意見で、学生に高評価であった点は多くあつた。これらは引き続き踏襲し、作業療法の歴史等、若干イメージし辛い部分はまとめ作業を用いる等工夫していきたい。また、予習・復習やその他派生する学習についても検討していきたいと思う。



◆集計データ結果について

すべての項目で平均4.6点以上であり、バランスのとれた評価であった。本講義の工夫としては例年通り①教科書をしっかり読む習慣をつけるために、教科書のガイドとなるようなレジュメを作成すること ②体験学習を多く取り入れて「体で理解する」仕掛けを用意すること ③学生的心声を授業中に積極的に拾うこと の3点である。②について、本授業は講義という形式の授業であるが、疑似体験しながらそれに関する知識をその都度入れていくことにより、共感的に対象者を理解することを推進している。

学生自身の取り組み姿勢としては熱心さ(14)と目標等を意識(16)において「取り組んだ」「どちらかといえば取り組んだ」と回答した学生が100%であり、学生の意欲を引き出すような授業を展開できていたと考えている。復習時間も、「まったくなし」の学生は皆無で、今年度の学生(回答した学生に限る)の学習意欲の高さが示された。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

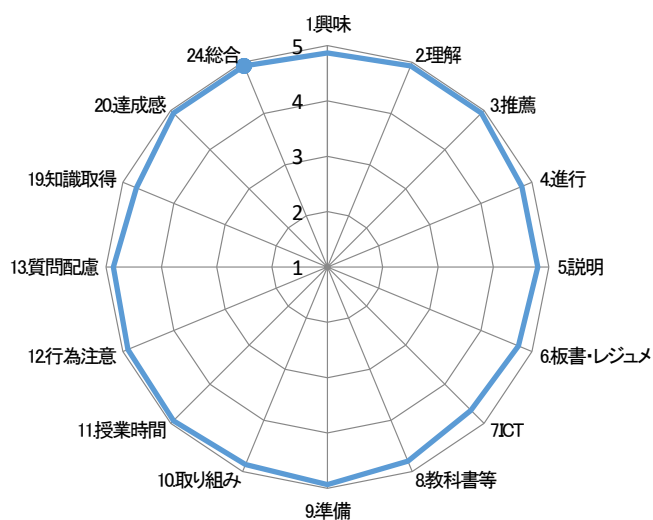
授業の進め方について「一人一人の意見に対してどうすれば良いかや工夫する点を言ってくれるためとてもわかりやすかった」「実際に自分たちで経験しながら答えを出していくことが多かったので、すごくいい授業だったと思う。レジュメもとても見やすく、いつ見直してもわかりやすいものだと思う」「実際に体験することで対象者の立場で考えることが出来た。また、ペアでやることで自分ない意見や視点を学ぶことが出来た」と肯定的な意見が多く上がった。

また「片麻痺の患者さんの寝返り、起き上がり動作や、PDの方の寝返り、起き上がり動作を実際にやりながら学習できたのがすごく良かった」「障害を持つて人の生活や精神状態が少しでも理解出来たと思います。これからも忘れずに患者様を第1に考えられる作業療法士になれるように頑張ります」「連合反応や共同運動についての体験などを行い不便さについて理解できた」など、具体的な学習内容に踏み込んだ回答が複数あり、とても勇気づけられた。

◆今後の改善に向けて

昨年度より、1年次開講となった科目である。この授業の役割として、1年次の運動学(総論・上肢・下肢)がいかに臨床活動に結びついているかを理解すること、臨床実習において求められる「動作分析」の基礎を押さえること、臨床実習の場で実践できるよう最低限の動作分析技術を身につけること、の3点を意識している。まだ運動学が十分に習得されていない学生にとって、臨床的応用となると理解がたいと思い、極力体験的で、学生の身近に引き寄せた授業を心掛けた。その思いの大半は、学生らが汲み取ってくれたようであり、2年連続で一安心という心境である。この知識が臨床実習でどのように活かされたか、追跡していく必要がある。

昨年度はレジュメに関して見にくいとの意見があったため、内容を整理したところ、今年度は肯定的な意見が挙げられた。次年度は担当変更となるが、この経験を他教科に活かしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

84. 基礎作業学

担当教員

松田 裕美

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

37 名

◆集計データ結果について

・質問について

質問をしていないと回答した学生が多かった。毎回の授業後にGoogleフォームを用いて授業の感想や質問などを求め、次回の授業時にフィードバックを実施していた。しかし、学生にとってはGoogleフォームの回答は「質問」と一致していなかったと考えられる。また、Googleフォーム以外での質問の機会を設けるなどの声かけが必要であったと考えられる。

・予習時間、復習時間について

レポート課題では自宅学習の時間を用いながら作成した。学生にとっては授業の内容自体の予習、復習時間と捉えていた可能性が高いため、今後は予習復習時間に含まれる時間や意味合いなどについても教示していく必要があると考えられる。

・授業達成目標やDPについて

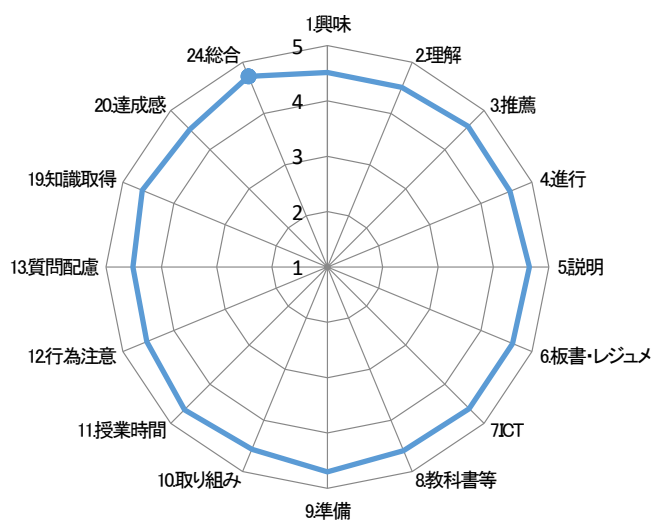
初回授業にてシラバスを印刷し、配布した。配布したシラバスを見ながら授業達成目標やDPとの関連について説明した。学生にとっては授業評価アンケートに記載のあるものとの繋がりを捉えられなかったことも考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業に集中できる工夫など学生からのポジティブな意見も多くみられた。しかし、授業の出欠に関する対応や課題についての説明にて不十分な点があったと考えられる。今後は他の教員と出欠の扱いを統一することや課題についての説明をより学生が理解しやすいものとなるよう努めたい。

◆今後の改善に向けて

教員側としては対処していたつもりであった部分も学生の受け取りとして「不十分さ」を感じている部分が多くある部分が見受けられた。特に授業達成目標やDPとの関連については初回授業で伝えるだけでなく、15回の授業の中で折を見て触れる、確認するなどの配慮を行っていく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

85. 基礎作業学実習

担当教員

松田 裕美・森下 章生・後藤 秀樹

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

16 名

◆集計データ結果について

すべての項目の平均点も4.84点と概ね良い結果であったと考えられる。12.注意行為については、他の項目と比較してやや低値であるため、今後は実習時と説明時にメリハリをつけた授業運営を行っていく。

14.熱心さ～16.目標等を意識については約7割の学生が「取り組んだ」に該当していたため、今後も治療や介入に結びつくよう授業を行っていく。

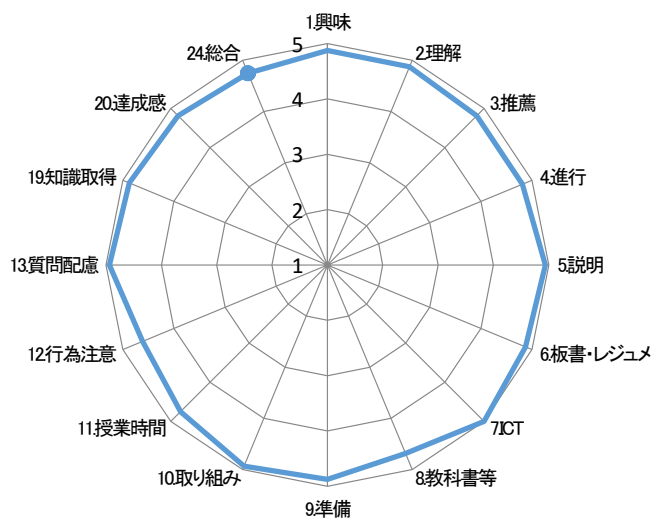
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

各教員の説明の丁寧さや教え方についてはポジティブな意見が見られた。今後も作業時の要点やどのように作業を活用するかについてわかりやすい説明を行っていく。

また、「仲間と楽しくできた」「仲間が増えた」など作業を教え合う体験や他の学生との仲間意識が芽生えた授業であったと考えられる。

◆今後の改善に向けて

作業を用いて具体的にどんな機能や能力の維持、改善が見られるかについてより具体的に教授していくことが求められる。また、身体機能のみでなく、精神機能や自身の感情の動きの変化についても感じ取れるよう助言していく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

86. 作業療法評価法

担当教員

清水 一輝

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

27 名

◆集計データ結果について

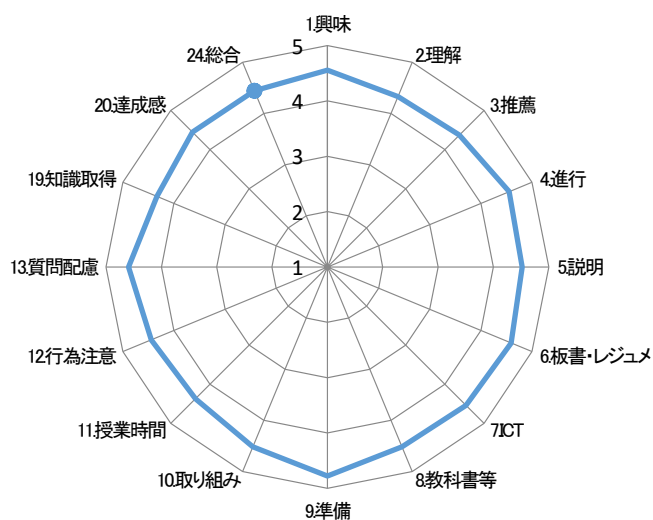
各項目で4.0以上の評価であり概ね良い結果であると思われる。予習、復習をしていない学生が3割程度おり、グループでの学習課題を設定し、図書を活用するなどして学習の機会を得られるように工夫したつもりであったが、その成果としては不十分であったといえる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループでの学習により主体的な学びにつながったとの記載が多くあり、その点は良い点だと考えられる。その一方で、グループ学習での成果に対する評価の割合が低いことに対する意見もあった。また、具体的な評価についてこの科目については取り扱っていない(概要のみの講義となっている)が、具体的な内容についても講義がなかったことに対する意見があった。

◆今後の改善に向けて

作業療法評価について、グループでの学習や意見交換を基に学習を進める形を今後も継続して行っていきたい。その中で、どのようなテーマでの議論を促すのか、どのような成果を期待するのか、学生からの自由記載にもあった作業療法評価に関する具体的な学びにつながるよう工夫をしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価点)

科目名

87. 作業療法評価法実習Ⅰ

担当教員

加藤 真夕美・渡邊 豊明・清水 一輝・外倉 由之・松田 裕美

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

17 名

◆集計データ結果について

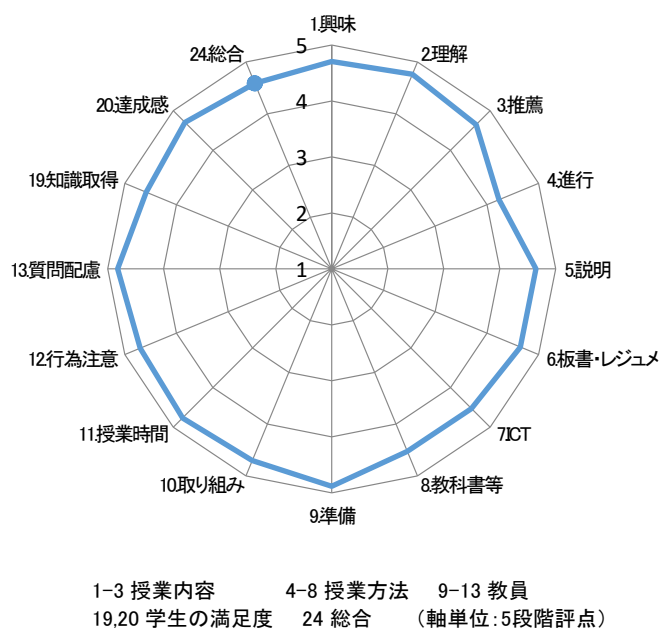
総合得点で4.5点以上であり、全般的に高得点でした。実施内容には、満足されている学生が多かったですが、時間内で終わらない項目や説明が不十分であったこと、教員間で説明に部分的に相違があったところは改善していきたいと思います。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

時間内に終わらないことがあったことについて、計画的に授業が進行するように、計画をさせていただきます。また、説明できなかった部分については、後日、資料等で補完をさせていただきました。授業内で完了できるよう配慮していきます。また、教員間で説明の相違がある部分があったとの意見がありました。確かに、実技試験などで、相違点について質問がありました。これらの意見を受け止め、次回からは統一できるようにしていきます。

◆今後の改善に向けて

実技評価と触察の2つの授業の構成になっており、別々での指導になっていることがあったかと思います。次年度からは、同時に同じ教員がすすめられるように検討していきます。教員間での相違する内容は、できるだけ内容を情報共有するとともに、学生から質問や意見が言いやすい環境を整え、実際に相違があった場合には、早急に状況を確認し、修正をしていきたいです。授業時間内で終わらなかった部分などは、実習前の実習で補完できるようにも工夫していきます。



科目名

88. 作業療法評価法実習Ⅱ

担当教員

横山 剛・松田 裕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

18 名

◆集計データ結果について

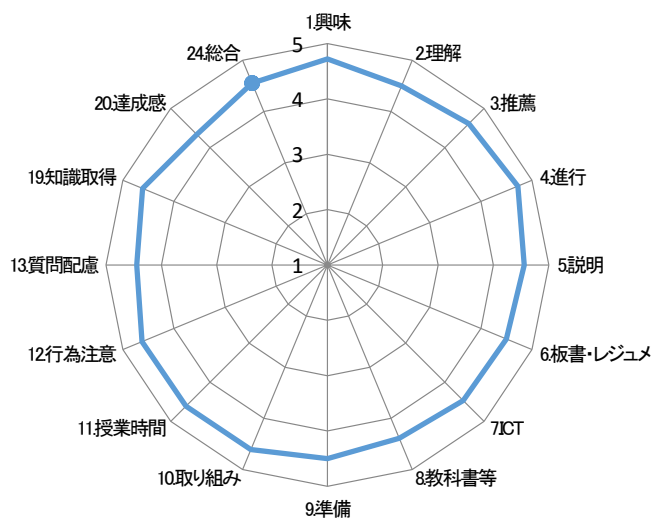
集計データについて回答者数が少ないため、言い切れない部分はある。授業達成目標、DPとの関連やDPに基づく授業達成目標の理解が不十分である学生も数名見られるため、今後は初回の授業での説明だけでなく、折に触れて授業の意義やDPとの関連について説明を重ねていく必要があると考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

フィードバックに対する肯定的な意見が多くあった。自由度の高い枠組みであったため、学生の中には困惑した部分もあったと考えられる。フィードバック時に困っている点などについて尋ねてよいことを今後も伝えながら実施していくことが必要だと考えられる。

◆今後の改善に向けて

正解や不正解がある課題ではないため、学生によっては戸惑うこともある内容だと考えられる。今後も学生の理解や進捗状況に合わせて適宜フィードバックを行いながら指導していく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

◆集計データ結果について

すべての平均が4.3以上であり、概ねバランスの取れた評価であった。学生の意識として、熱心に取り組んだか(14)、目標を意識したか(16)では、9割前後の学生が「取り組んだ」「どちらかと言えば取り組んだ」と回答した。一方で、質問(17)は、4.5割の学生が「していない」と回答した。予習時間を少しでもとった学生が8.5割強との回答には心強い思いである。復習時間は、5割が1時間未満、4.5割が1-2時間であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

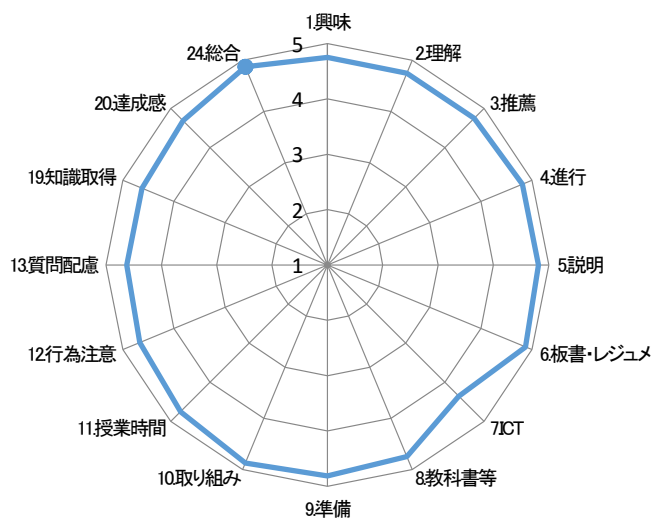
授業の進め方やレジュメについては「グループワークを多く取り入れてくれていたので、意見交換ができて、ためになったとすごく感じた」「授業自体も教科書のページ指定も的確ですごくわかりやすいものだった」「プリントにまとめてくれてあったり教科書のページを記載してくれてあり、勉強する時にすごく助かる。声もすごく聞き取りやすい」「実際の評価などの動画を見て、自分達にわかる情報を書き出したのがすごく実践的で難しかったけど興味深かった」、課題指導などについては「レポートにフィードバックが書かれていて、次のレポート課題に指摘されたことをなおすことが出来た」「質問したら丁寧に答えてくれるのが良かった」と肯定的な意見が多かった。授業全体の印象としては「この授業は多くの教科が必要となり、予習では自分の考えがあるので、とても考えさせられる授業でした。いろいろな視点からみることができた。」「授業の内容が興味深く、レポートがためになった」「身体障害作業療法評価学を通して、作業療法士になりたいと改めて思いました！これから初心の心を忘れずに頑張りたいと思います！」との嬉しい意見が挙げられた。

一方で「小テストが難しかった」との意見が1件挙げられた。

◆今後の改善に向けて

本授業は、身体障害領域の作業療法を学ぶ、入門編の位置づけである。今までに学んだ解剖・生理学や運動学の知識が臨床でどのように繋がっていくかを学生は理解する必要があり、特に脳神経系に関する復習には時間を割いた。図や別途資料を用意したり、演習を交えたり、課題の中で作業療法との繋がりを考えてもらったり、小テストで基礎知識を復習したり、様々な方法を駆使して学生理解の促進を試みている。課題へのコメントには、学生の知的好奇心や向学心を引き出すようなことを加えるようにも心掛けた。

昨年度から当科目の配置が1年次となり、解剖・運動・生理学の基礎知識が不十分な状態での受講となったことが、「小テストが難しかった」との印象の原因と考えられる。その分、基礎的事項の復習や丁寧な解説を心掛けたため、昨年度は時間の使い方についての指摘が複数あったが、今年度は挙げられなかった。時間配分や説明することを整理したことで、昨年度より余裕のある授業運営ができたと考えられる。1年次の学生にも理解が深まるよう、更に工夫を重ねたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

90. 精神障害作業評価学

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

25 名

◆集計データ結果について

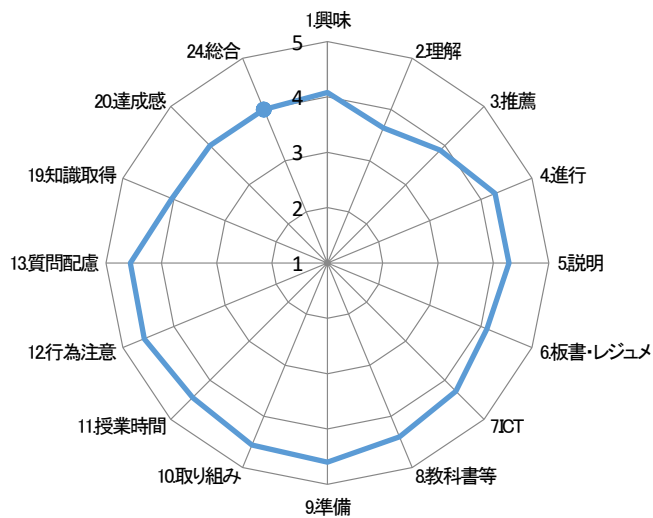
目には見えない部分の学習であり、理解の得点が低いのはよく分かるが、教科書に書いてあることを暗記するだけでは臨床ではあまり意味のないことを繰り返し伝えてきた。質問表を使用しての授業としたが、自身がよく分からないことを意識化して何とかそれを他人に伝えようとするところこそが理解の繋がっているのだと思う。めげずに学習を続けて欲しいと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

与えられた資料をただただ暗記する学習を卒業して欲しいと願いこのような授業を行っていることがまだ理解できない学生がいるように見える。

◆今後の改善に向けて

この形態は続けるが、ペースをもう少しゆっくりさせて検討するような時間を組み込もうと思う。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

91. 発達障害作業評価学

担当教員

小山 隆幸

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

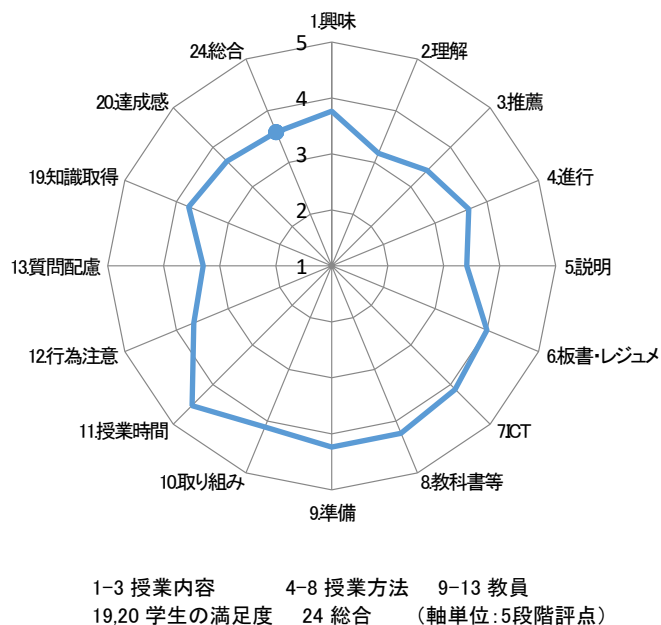
17 名

◆集計データ結果について

総合評価は3.58となった。「板書・レジュメ」「ICT」「教科書等」「準備」「取り組み」「授業時間」の各項目は、4前後の評価であった。感染症対策に伴いオンラインと対面を組み合わせ授業を行った。授業内容項目の「理解」に対して小児分野をよりイメージしやすく取り組む必要があると考える。今後特に「興味」「理解」などの向上を目指したい。授業開始時に小テストを実施しており、予習や復習に多くの学生が1～2時間を使っていた。学生の意識では質問をしていない学生が60%だった。Googleフォームで質問を受け付けているがこちらから問う方法も検討していきたい。今回の集計データを参考にして、次年度に活かしていきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

実施内容については、シラバスに記載されている内容で進めていた。講義に加えて、実践形式を行ったことで理解が深まったコメントが見られた。症状を理解する上で実際に体を動かしながら取り組んだ事で理解が深まったようである。声が聞き取りづらいコメントがあり改善していきたい。今回は機能別に講義を実施したが、疾患別の方が分かりやすいコメントがあった。今後、授業テーマを検討していきたい。



◆今後の改善に向けて

次年度から、小児のイメージがしやすいように動画を提供したいと考える。授業テーマは疾患別も取り入れて、症状の理解を深め知識定着に努めていきたい。資料の配布や小テストの実施は、学習機会を作る時間につながっている事が考えられるため、今後も継続して実施していく予定である。講義について分からない点など質問できる時間をつくり、こちらから問いかける等を行い授業理解を高めるとともに授業満足度を向上させていきたい。

◆集計データ結果について

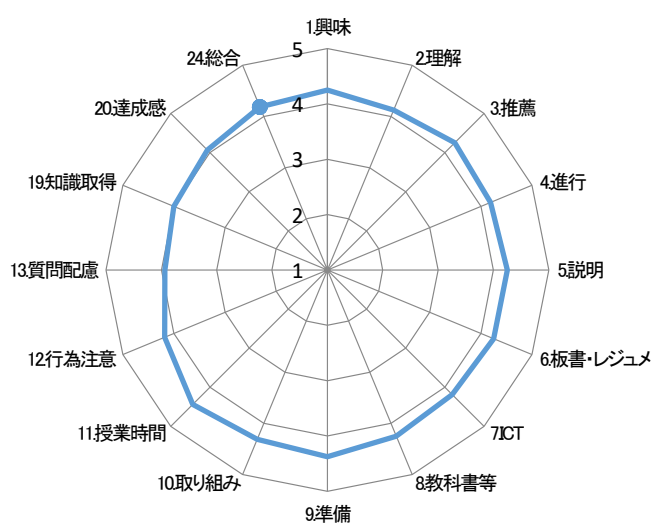
各教員の研究・実践報告がある中で研究そのものの授業内容には時間的に制約があった。実際には統計手法を広く行うのが理想であるが、基本的な統計について触れるに留まり、これらが課題である。但し、研究とはなにか、研究をする心構え、倫理的事象を強く指導することは重要であると考えている。また、学会発表と論文発表の違い、国内での研究の位置づけ、海外での発表まで幅広く指導できたと思う。比較的固い内容が続く内容であるにも関わらず総合評価では4.0を超え、後輩への推薦も4.25であった。今回は対面授業とオンライン授業と変則的な授業形態にせざるを得ない状況で、実物の提示等すべて提示できなかった点が残念である。今後は、それも見越して提示していきたいと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

今回は回収率が悪いこともあり、量的に自由記載の材料に乏しい。プリントがあるのが良かった、プリントの穴埋め形式が良かったという意見があり、前年度使用していた教科書の表現が学生にとって分かり辛いことが認識できた。研究に触れたことのない学生には少々イメージし辛い面があるようでしたが、教員の実体験を交える講義はそのイメージ化には良かったようです。各教員による研究・実践におけるパワーポイントは各教員持ちであり、それを活用したことは非常に有効ではありますが、海外で使ったポスター発表時のポスターそのものはとても関心が高かったように思えます。意見の中に学生自身がどのような分野に興味があるのかを考える契機となったという点は、今後の卒業研究の取り組みを考えた上では良い機会になったと思われます。

◆今後の改善に向けて

コロナ禍において、急遽オンラインになったり、また、急遽対面となったりするなど教員も学生も若干の混乱があった。私自身、本学での初めて経験する授業である点、コロナ禍による変動であった点を踏まえ、授業準備が慌ただしかった。次年度はこれらの経験をもとにアップデートを心がけることで対処していきたい。授業評価では授業内容に対する否定的な意見はなかった。但し、質問配慮・知識取得・達成感が全体的割合としては低値であった。特に、質問配慮では、自身でも納得できる点があり、何が分からないのかをじっくり聞き取れる機会の提供を用意したいと思う。また、研究における基本的知識を問う機会を設け、達成感とともに学生の満足のいく結果となるよう努力する所存である。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

93. 作業治療学理論

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

19 名

◆集計データ結果について

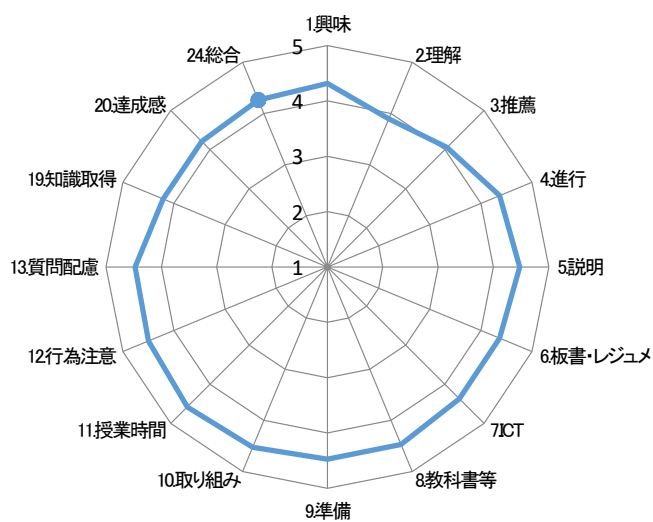
概ね4点台であり、目的は達成できたと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

発表の仕方を途中で変更したのは、急遽休学する学生が出たためである。今後そういった事態にも対応できるようにしたい。

◆今後の改善に向けて

ジグソー学習による発表を計画していたため、今後受講者一人一人の力量も考慮する必要があると考える。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

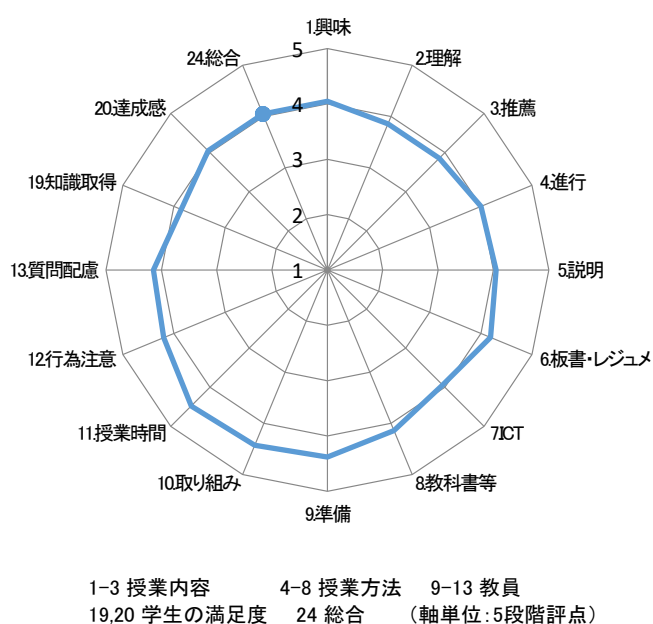
本科目は幅広い疾患を対象としており、その症状と作業療法の理解に学生も苦しんだかと思う。全体的に総合評価4.0であったものの、理解、推薦、ICT、知識習得は4.0を下回った。これらは、従来使用していた教科書の疾患名の多さとその内容が詳細に記載されているものとそうでないものの差が激しく、詳細でないものはプリントやスライドで補った格好となった。そのため、量的な部分で学生への理解が深まりきれなかったように思えます。また、筋・腱の走行とその機能について基本的な知識の不足がある故に、基本的解剖学的視点から教授する必要がある、時間的余裕がなくなったようにも思えます。そのため、知識取得という点で深まらなかったのでしょう。今後は、教科書とプリントやスライドとのバランスを再検討していきたいと思えます。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本科目において、イラストや図があって分かりやすかった、視覚的に知ることができた、という意見がある反面、プリントの量が多い、どこをさしているか示してから講義して欲しいという意見があった。また、教科書そのものが分かりにくい、話が飛躍しているという意見もあった。これら色々な意見があったが、全体としてベースとしての基本的知識の格差があったように思われ、基本的知識の乏しい学生が理解できる講義内容を検討する必要があると思われた。マトリックス上、1年次の基礎知識の学修が重要であるが、復習も踏まえて今後は授業の構成を考えていきたい。また、熱意が伝わった、体験談を交えたのが分かりやすかったという内容は疾患別作業療法の視覚化として有効であることを再認識した。

◆今後の改善に向けて

本科目も、コロナ禍によって対面授業とオンライン授業と流動的となり、授業準備が捗らず、学生にも若干の混乱を招いたと思われる。また、教科書が、各疾患によって充実している部分とそうでない部分があり、それらを通して全て終わらせてからプリントとスライドで補ったが、時間的制約があったように思われる。臨床と国家試験とを分けて考え、特に臨床では学生が卒業して恥ずかしくないレベルとしてプリント等で補い、臨床、国家試験で重要度の低い部分は量を減らす等して授業構成を再検討していきたいと思う。また、専門的用語についていけなかったという意見もあることから、その都度どの程度の基礎的知識があるかを確認して授業を進めていこうと思う。



科目名

95. 身体障害作業治療学 II

担当教員

清水 一輝

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

20 名

◆集計データ結果について

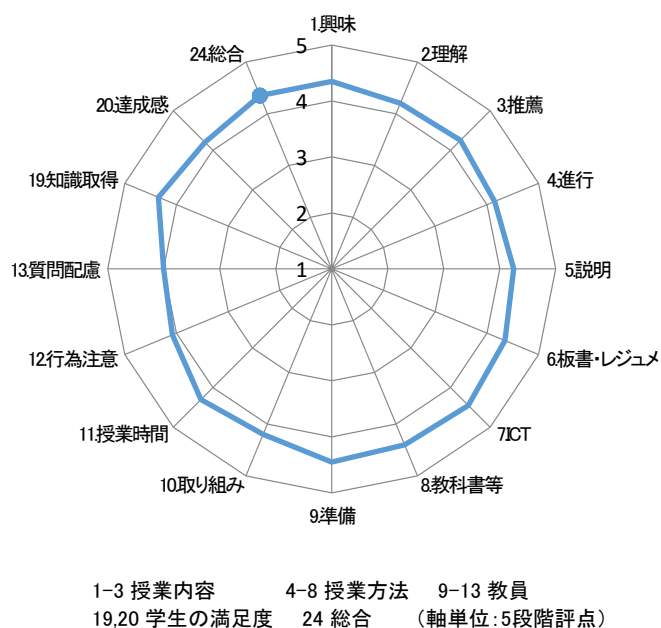
全ての項目で概ね4.0以上であった。12行為注意、13質問配慮ではやや低値であった。質問も約5割の学生がしていなかったという回答があったことから、学生からの質問がしやすいような環境を整えたりアクションペーパーなどの工夫をする必要があると考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見として、「プリントが分かりやすく、説明も丁寧だったので、理解が深まりやすかった点が良かった」という記載から授業の資料等に関しては良い評価を得られていた一方で、「もう少しわかりやすく見やすい画像にしてほしい」とその質に対しては不満が挙げられているため今後も改善が必要である。「内容がとて多かったりして辛い時があったので、もう少し余裕を持った設定だと学びやすい」「課題が多いところが改善すべき点だと思った」など授業内容に関しては学生にとって負荷の高いものとなっており、講義の進め方についても検討が必要であると思われる。

◆今後の改善に向けて

この科目では多くの疾患に関する基礎知識の学習と関連する作業療法の知識を教授しており、学習すべき範囲としてはとても広いものになっている。学生にとってその範囲の広さが学習の困難さにつながっている可能性があるため、他の科目と連携しながら学習する範囲を再検討する必要があると思われる。

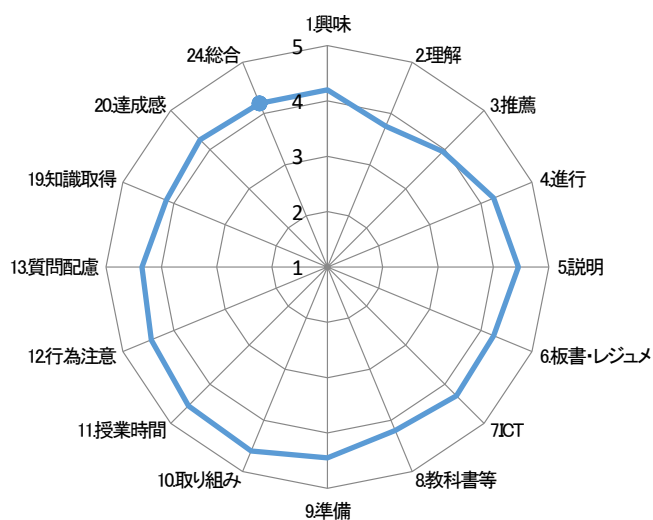


◆集計データ結果について

目には見えない領域を扱う領域であり、理解の得点は低いように見える。しかしながら目に見えることを本当に理解しているのかといった疑問を持つべきであると思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

テキストを丸写ししてレポートするようなことにならないように、学生の理解度を確かめる質問をしていたが、それが「圧を感じた」という感想になっていたのだと思う。これまでの暗記中心の学習の仕方では、精神領域の患者の理解にはつながらないことを理解して欲しいと願うばかりである。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

学生同士の人間関係が学習の進度や理解度を左右するように見えるので、学生にグループのメンバーを決めてもらったが、多くの場合、責任を持って取り組もうとする人そうでない人に分かれていたのだと思う。他の授業でもグループワークがあり大変であったとの感想もあるが、授業時間でグループワークをし、質問できる環境を作り、質問にも応じてきたが、そもそもテキストなどを丸写しして発表しようしたり、安易にYoutubeの映像を発表時に使用しようとしていたりすることから学習の質の低さがうかがえた。繰り返して何を学習することが今後活かされるのか一緒に考えようと質問したり話を伺ったが、そもそも発表のために発表となった人がいたのだと思う。こういったことからこの授業に限らず、学ぶことの意義やその方法について、専攻内に留まらず学内での共通理解をしていかなければならないのだと思う。

科目名

97. 精神障害作業治療学実習

担当教員

横山 剛・松田 裕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

20 名

◆集計データ結果について

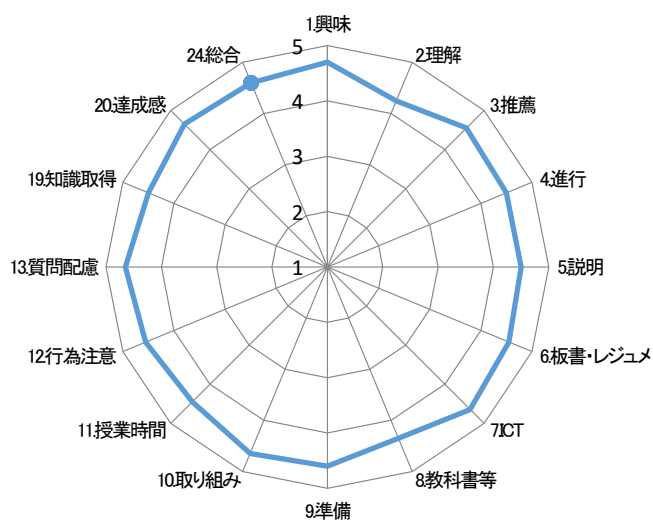
回答者数が20名であり、全受講生の8割ほどの集計データの結果を分析する。項目1～24までの平均は4.54点であり、概ねポジティブな結果であったと考えられる。2.理解については、普段の生活の中でも実習内容を意識し過ぎていくことを鑑みると概ね目標は到達できたと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「質問のしやすさ」について多くの学生がポジティブな意見がみられた。毎授業後のフィードバックを行う中で学生の質問に対応できていたと考えられる。本科目を通して「自身の力がついた」「自分自身について知れた」など青年期の学生にとって有意機な経験を提供できたと考えられる。

◆今後の改善に向けて

集計結果の8.教科書等については、教科書をどのよう
なときに用いるとより良いかなどについて詳しく説明を
加えていく。毎授業後のフィードバックについては、受
講生によっても毎年教員の負担は変化するため、毎
年2名以上の体制で実施していくことが望ましいと考
えられる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

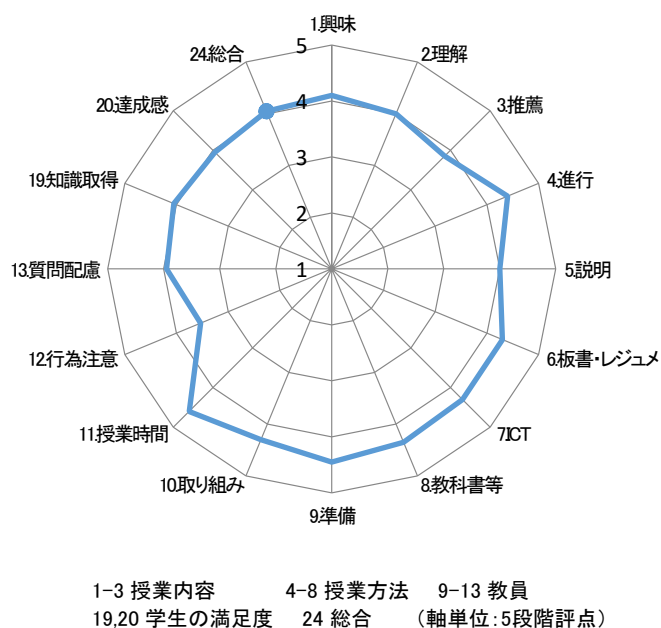
総合評価は4.05となった。各項目4前後の評価であった。感染症対策を行い対面授業に取り組んだ。グループワークではフェイスガードを使用して実施した。「授業到達目標」、「DPとの関連性」では、知らなかったが約40%だった。今後は授業到達目標を知る機会を増やし、学生と共有することで、「達成感」の向上を目指したい。予習時間や復習時間について、授業開始時に小テストを実施しており、多くの学生が1時間未満の時間を予習や復習に使っていた。「行為注意」は3.5であった。学生の意識では質問をしていない学生が50%だった。Googleフォームで質問を受け付けているがこちらから問う方法も検討していきたい。今回の集計データを参考にして、次年度に活かしていきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

実施内容については、シラバスに記載されている内容で進めていた。講義に加えて、グループワークを取り入れた。「グループワークで話し合うことで理解が深まって良かった」、「グループワークで他の学生の意見を知る事で理解が深まった」など前向きなコメントが見られた。事例を通して多様な視点を共有するように取り組んだ事で理解が深まったようである。今後もグループワークを継続して行なっていきたい。一方で、「グループワークの意図が分からない」意見もあったため、事前に目的を説明していきたい。Googleフォームで問い合わせのあった質問や小テストの解答を説明する時間を設けたことで「質問に答えてもらえて良かった」、「小テストの解答説明で理解が深まった」意見があった。今後も継続していきたい。

◆今後の改善に向けて

講義時に、ねらいや目標など説明する時間を設けて授業目標を学生が知る機会を増やしていきたい。講義中に声の聞き取りにくさがないか確認していきたい。特に最後列に座っている学生に声量について確認していく。講義中にグループワークは様々な意見を知る機会につながっている事が考えられるため、今後も継続して実施していく予定である。グループワークに関して、取り組む前に目的を説明してから実施する。目的を把握した上で、取り組むことで学生の授業達成度の向上に努めたい。また、講義について分からない点など質問できる時間をつくり、理解を高めたい。各授業で到達目標を学生と共有するように取り組み、授業満足度の向上に努めたい。



科目名

99. 発達障害作業治療学実習

担当教員

外倉 由之・松田 裕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

11 名

◆集計データ結果について

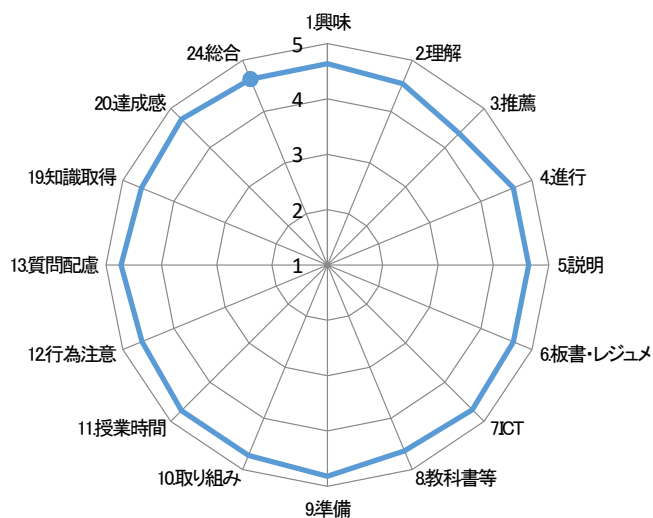
受講生の半数程度の回答者数の集計結果を分析する。項目1-24の平均は4.65点であり、概ね高値であると考えられる。14.熱心さ～16.目標等を意識については、回答者の8割程度が「取り組んだ」としており、学生が主体的に取り組めたと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

フィードバックの時間が確保されていたことについてポジティブな意見がみられた。今後も個別でフィードバックする時間も設けながら実施していく。一方で、畑の管理については負担が強いという意見があった。受講生の人数と管理する畑の面積を鑑みて調整していくことも必要だと考えられる。

◆今後の改善に向けて

項目17,18.のデータからも、回答者の予習復習時間には個々の学生で差が大きく、一部の学生の負担が大きかった可能性が考えられる。役割分担をより明確化するなどして学生の負担感の軽減に努めていく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

100. 高齢期作業療法学

担当教員

廣渡 洋史

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

10 名

◆集計データ結果について

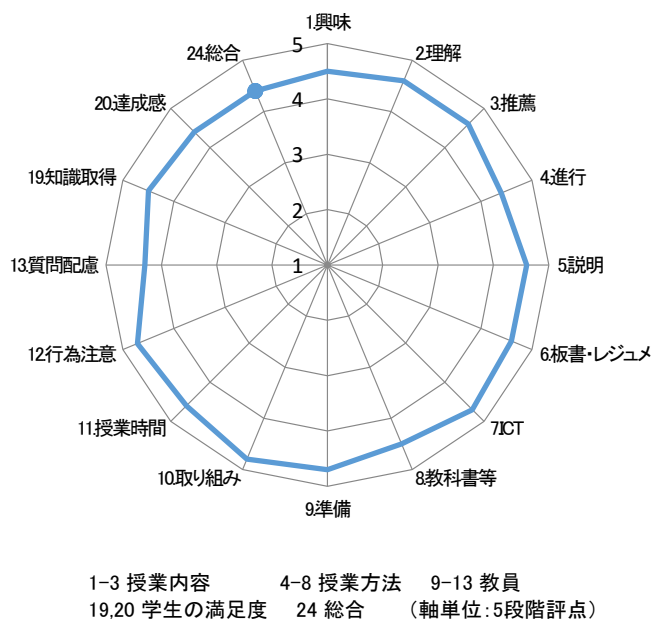
教員として初めて受け持った領域の科目でしたので高評価であったことにとても安心しています。各項目ともある程度バランスがとれつつ良い結果であったことは嬉しく思います。高評価の中でも低値であった質問配慮は一つ反省材料かと思います。ただ、初めての科目であったことで無我夢中で授業準備をしたことから何が功を奏したのか今一つ認識できていません。高齢期作業療法に関する内容を各種テキストから抜粋した点、体験系を取り入れた点、動画で疾患像を理解してもらおうとした点が良かったのではないかと推察しています。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

プリントがあるのが良かったという意見に対しては、学生がノートをとることに集中しすぎないような配慮からそのようにしましたが、結果的にそれが授業に集中できたのでしょう。また、プリントの穴埋め式も良いという意見もあるが、時折記載する動作が必要で授業進行にメリハリができたのだと思います。高齢者の現状や知識が深められた、高齢者の体験をしたのが良かったという意見もありますが、動画や高齢者体験をしたことで、学生自ら、将来自分もそうなるであろう高齢者像を自分に当てはめるとともに、作業療法士としての支援を深く考察するという姿勢に繋がったように思います。教員の経験を話した内容が、知識として定着しやすいと感じたという意見は、実体験そのものが作業療法の内容そのものが教材として活きたと思います。

◆今後の改善に向けて

初めて担当した領域の科目としては高評価であり自分の評価以上であった。推察としては、動画や高齢者体験、教員自身の体験談など疾患像をイメージできる内容を提供できたのだらうと思っています。これらの効果のエッセンスを他教科にも導入を検討していきたいと思います。また、大学業務以外の臨床の経験を提示することは学生にとって有益なものと考えますので、それらの経験を蓄積・整理して学生に伝えていけるよう努力していきたいと思っています。



科目名

101. 日常生活作業学Ⅰ

担当教員

加藤 真夕美

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

24 名

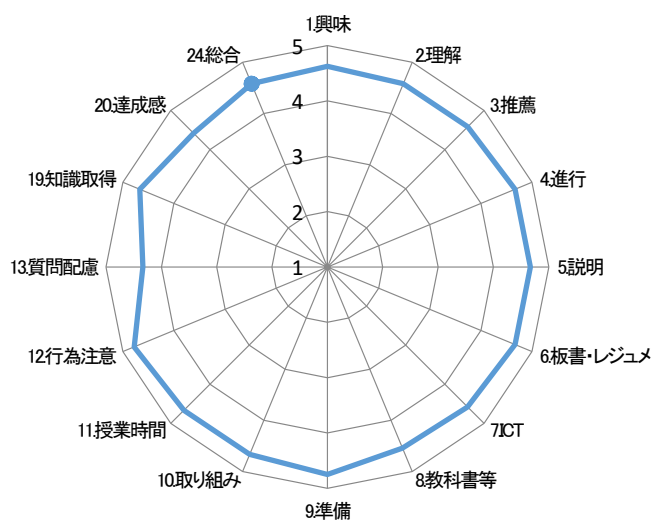
◆集計データ結果について

すべての項目で平均4.3以上であり、バランスの取れた評価であった。学生の意識では「どちらかといえば取り組んだ」「取り組んだ」の合計が、「目的等を意識」が65%、「熱心さ」が95%であり、積極的な姿勢で授業に取り組んだ様子が伺われた。「質問」は15%であった。

一方、復習時間は「まったくなし」か「1時間未満」が75%であった。ほとんど毎回、自宅学習課題を出しており、全員から遅滞なく提出があったので、この項目に関しては、学生の認識の差が大きく現れているようである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

内容については「演習が多くあったので、実際に体験して得たことが多くあったので、それがすごく良かった」「実践もしながら作業の分析をしたり、友達と意見を言い合ったり楽しく授業が出来て良かった」など肯定的な意見が多く、おおむね教員の意図が伝わったようである。教員の教え方も「すごく聞き取りやすくわかりやすかった」「穏やかに授業が進み、説明も丁寧なためわかりやすい授業だった」と肯定的な意見が挙げられ、今回は改善要望が挙げられなかった。「生徒側もしっかりと雰囲気づくりをするべきだった。」との、学生側の反省点が挙げられたのは今年初めてであり、良い気づきであると感心した。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19.20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

本授業は、作業療法を学ぶ学生の入門編にあたる位置づけである。作業療法を学ぶにあたって必要不可欠な日常生活活動(ADL)についての基礎をしっかりと理解してもらうために、学生自身の身近に引き寄せた演習を取り入れたり、自助具を実際に見てもらったりと、講義以外の内容にも時間を割いた。

感染症防止の観点から、演習では密にならない工夫が必要であったが、学生もわかまえ、適度な距離感で効果的に実施できていたようである。また昨年度は中止した文献レビューは、回数を削減して実施することができた。ほとんど毎回提示していた課題も、よく学習している学生が多く、質の良いものが多かった。

今後は、「日常生活作業学Ⅱ」「日常生活作業学実習」など関連科目との繋がりを更に充実させていく。

科目名

102. 日常生活作業学 II

担当教員

清水 一輝

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

17 名

◆集計データ結果について

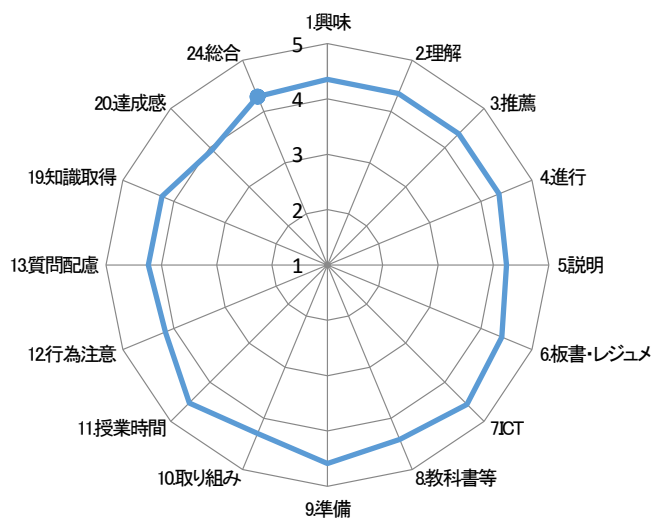
全ての項目で4.0以上であり概ね良い結果であったと考えられる。その中で、20達成感が4.0を下回る評価となっており、講義全体を通して習得すべき学習の目標やその達成度がわかりにくくなっていることがうかがえる。また、13質問配慮も他の項目と比べるとやや低値であり、4割程度の学生が質問をしなかったという結果であったため、学生からの質問に対する配慮が不十分であった可能性がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見として「実際に評価を体験してみると話を聞くだけでは分からなかったことも知ることが出来たので良かった」「オンライン授業になっても、授業形態を工夫してくださったので受講しやすかった」などの記述があり、今回種々の評価法について実践も交えながら実施したことに対しては学生の理解もしやすかったと思われる。一方で「それぞれの評価法を実際体験できたのでとてもよかったと思いましたが、答えのないまま授業が終了してしまう時があったのでもう少し説明してほしいと感じた」という意見もあり、各回の授業目標などを明確にする必要があると思われる。

◆今後の改善に向けて

基本的には今年度の形態を継続し、日常生活に関する種々の評価を経験できる場としていきたい。その中で、学生からの意見・質問を十分に吸い上げられるような授業環境を整えていきたい。また、本科目の到達目標とDPとの関連、各回の授業の目標などをより明確に学生に伝えていけるようにしたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

すべての項目で平均が4.4以上であり、バランスの良い評価であった。本講義では①トランスファーや車椅子操作などの基本的な技術を、その場で修正しながら徹底的に身に付けてもらう、②各疾患の特性によるADL上の特徴を、自身で調べたり体験したりしながら身をもって理解してもらうという、臨床実習に向かうための技術獲得の場という位置づけを重視した。

随時、技能評価試験を行い、その都度フィードバックしたためか、14「熱心さ」、15「質問」は多くの学生が「取り組んだ」「どちらかといえば取り組んだ」を選択した。18の復習では、75%の学生が1時間以上は確保できていたようである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

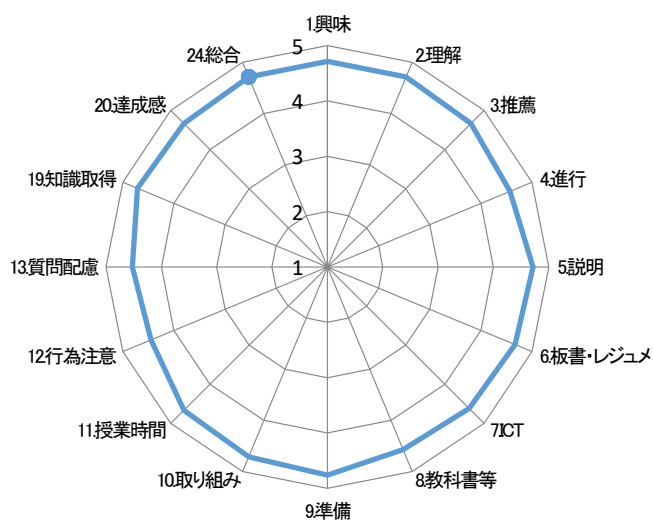
移乗介助実技については「臨床での車椅子移乗などを学ぶことが出来て良かった」「実際に自分でやって学べる授業だったので、とても身になった」、架空事例に基づいた学習については「課題が結構多くて大変だったが、考えが総括出来て、深まる良い課題だった」との意見が挙がった。教員の教え方については「行うことが多く、先生についていくのに必死だったが、楽しさを感じながらできた。先生の説明がわかりやすいのと、言葉選びが柔らかいので聴きやすかった」「実習で分からないところを聞いたときに細かくわかりやすく教えてもらえたところ。介助方法でこうした方がもっと良くなるというコツを知れたことが良かった」と、学生個々に向き合おうとした教員の意図は伝わったようである。

一方で「もう少し実技についての知識を身につけたらなと思った」「課題が多くて大変だった。半分くらいの量だともっと効率的に進められると思った」と、課題の多さを指摘する声が複数あった。

◆今後の改善に向けて

課題の多さの指摘については、例年通りではあるが、今年度は、限られたマス目にぎっしりと丁寧に記述する学生がとて多かった印象である。そのため、周囲の学生が「ここまでやらなければいけないのか」と、教員が求める以上に高いレベルで課題をこなそうとした可能性はある。アクティブラーニングとしてとても良い傾向であるが、「やらされ感」だけが募らぬよう、適切な説明やフィードバックを心掛けたいと思う。

また、養成校指定規則の改正に関係して、臨床・クラークシップやOSCEの導入など、臨床実習を取り巻く状況が大きく変化している。そのような中で、技術の獲得はもちろん、臨床リレーズイングを身につけてもらえるような内容を継続していく予定である。他の関連科目と協同し、授業内容の再構築に努めたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆集計データ結果について

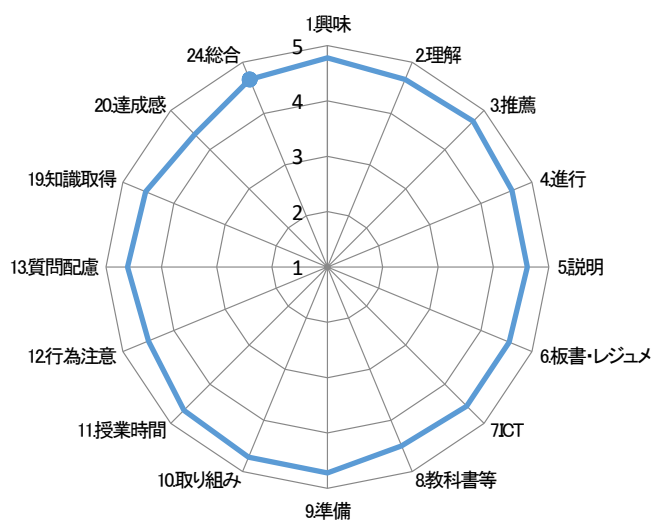
すべての平均が4.3以上であり、おおむねバランスのとれた評価であった。本科目の授業準備や進行で工夫していることは、①わかりやすく、後に活用できるレジュメを作ること ②演習を取り入れること ③関連論文を学生一人一人に探してもらうこと の3点である。①については、臨床実習や国家試験を念頭に置き、ポイントをわかりやすく示すことを意識した。また②についても同様に、臨床実習や国家試験で体験を生かせるよう、できる限り多くの演習を限られた時間の中で盛り込んだ。③はCOVID-19感染拡大の状況下であったため、検索項目を減らす配慮をした。

学生の取り組みについてはほぼすべての学生が質問14,16に「取り組んだ」あるいは「どちらかといえば取り組んだ」と回答していた。予習・復習とも、回答者の約半数が「1時間未満」と答えていた。これは昨年度と同様の結果であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業の進め方については「グループで話し合うことも多く理解が深まった」「実際に検査キットを使ってみることができ、臨床で使う際のイメージがしやすい授業でした」「ポートフォリオが課題になっていると、後から復習しやすいノートができあがるので良いなど」肯定的な意見が多く挙げられた。一方で「論文のまとめの書き方を始めから教えていただけるとよりありがたかったかな」と思います。「レジュメが穴埋めの方が分かりやすかった」との改善要望をいただいた。

科目への興味については「とても興味深い内容でこれからも学んでいきたいと思えるような授業でした。」「高次脳障害についてもっと知りたいと思えたり、もっと勉強しなきゃとも思いました。」との肯定的な意見が挙げられた。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価点)

◆今後の改善に向けて

毎年、高次脳機能の領域に対し、「難しいからイヤだ」ではなく「難しいからこそおもしろい」と思ってもらえるような、高次脳機能の入門編としての位置づけの授業が展開できたらと思い、授業を進めている。昨年度の授業評価アンケートでは「それぞれの障害に対する評価方法が多くあり、理解が難しいと感じた」との意見があったが、今回の改善要望では、論文のまとめ方の指南やレジュメを穴埋めにしてほしいとの内容であった。論文のまとめ方については他の授業で取り入れているため、専門科目での重複は避けたいところであるが、どこに何を書くのか、何を参考にするのかなどの要点は授業中に伝え、提出されたものについても個々に不足点などを朱書きして返却している。今後は更に個別対応の仕方を工夫したい。

◆集計データ結果について

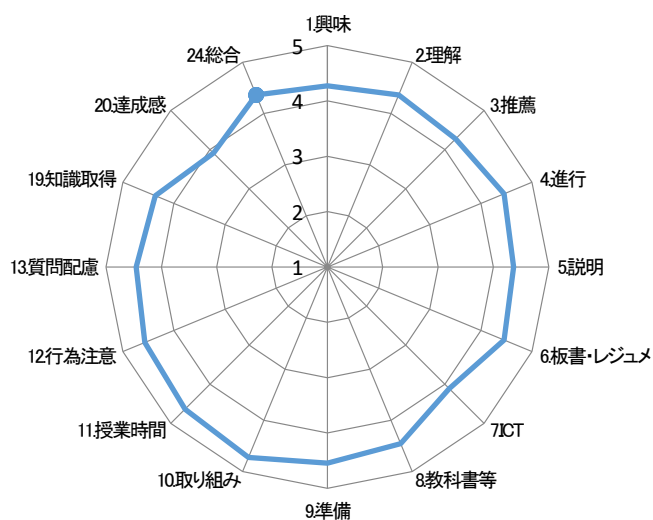
総合4以上であった点は一定の成果であると思われます。全体的には良い意見があったが、「達成感」が低かったのは残念です。備品としての義手の種類が少ないこと、実際に装着して体験できない部分に限界があるようにも思えます。また、できる限り質問を受け付ける環境を作ったつもりですが、もう少し質問が出るとなおいと思われました。義手の特性かと思いますが、種類や部品(パーツ)等とはとつきにくい半面、国家試験にも出題される内容ですので、復習の時間をもう少しとってもらえるよう促す必要があると思います。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

質問しやすい環境という意見は素直にうれしく思います。ただ、実際には質問は多くなかった点は反省材料かと思います。小テストで名称から覚えてもらってからの説明は、義手という特性上、パーツ名をまずは記憶しないとその義手の操作等の理解につながらないためです。小テストは1週間期間を設け実施したためとても良く理解してくれていたと思います。ただ、専門用語の説明が分からなかったという意見もあるため、どこまでの用語が分かるのかという確認も必要であったと思います。赴任してすぐに学生諸君のこれまでの学習の把握ができていない部分があったと思います。

◆今後の改善に向けて

義手と装具を教授するにはコマ数がとても少ない授業でしたので、正直苦慮しました。国家試験も含め、義手のエッセンス部分の必要最低限の部分を抽出して授業を展開いたしましたが、それに付随する専門用語の伝え方の工夫が必要であることが分かりました。そのためには、事前の予習として専門用語の確認、義手や装具を必要とする疾患の確認を指導する必要があると考えます。また、実際の義手を手に取ってもらう機会を増やし、実際にその操作する時間を設けようと思います。手先具のゴムの枚数による力源の大きさ等を実際に体感することで、理解したことへの達成感に繋がれば良いと思います。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆集計データ結果について

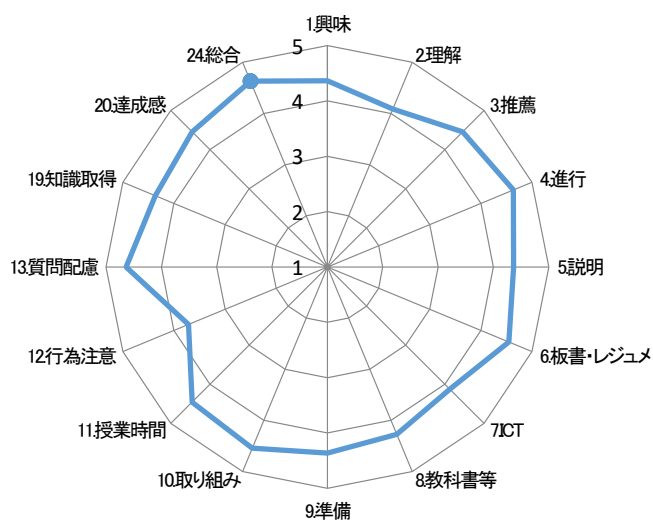
各項目にばらつきがあるものの達成感や総合評価が4を超えるものとなって安心しています。しかし、理解や行為注意が若干低い点は見直しが必要であると認識しています。本科目では、装具の材料である樹脂の特性を知ることが重要と考え、楽しむことと失敗を恐れないこと、そして作成や失敗を回避しながらその手順をカラダで覚えることを重要視しています。よって、行為注意が低い項目が低い点は理解できるとともにその線引きの難しさを再認識しています。臨床では、実際に作成することの自信の無さによる悪影響がわざわざして作成を遠慮しがちな作業療法士がいます。よって、恐れずトライする気持ちで装具作成をする姿勢にまでもっていきたいと考えています。それらの思いも含め、事前での説明を大切にしたいと思っています。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

その場で聞ける環境であった点を評価してもらえたこと、とても分かりやすいという意見、質問をしやすい環境という感想は素直にうれしく思いますが、助手もいない中で教員一人でのそれらの環境設定は非常に苦戦した印象です。ただ、少しも油断できない状況ですので、一人でそういった環境を維持するための工夫を検討せねばならないと思っています。意見の中には、専門用語が分からないというものもあり、座学と同様、再度見直しが必要であると認識しました。実際にスプリントを作成することで作り方が良く分かった、楽しかった、全く興味がなかったが面白くなったといった意見もあり、そういった意見が今後増えるような授業にしていきたいと思っています。

◆今後の改善に向けて

本科目では、多人数学生と教員一名で実習を行います。コロナ禍における対策としては学生数に対する教室の大きさが必要最低限であることも踏まえ、教室の構造上開閉できる窓の数も限られ、CO2センサーへの気づきや調整と実習形式による学生指導にとっても苦慮しているのが現状です。よって、赴任して初めて行った環境での授業でしたが、ある程度要領は把握できたので、今後は迅速な指導ができると思います。学生からあがった医学用語の確認は急務と考え、現状における学生の知識の確認を都度するよう努力していきたいと思っています。義肢装具学実習の主な目的はクライアントが必要とするスプリントを作成すること・できることです。よって、行為注意の線引きが難しいところですが、楽しむイコール好きになるイコール上手にできるようになることを目的に、これまで行っていた事前の注意喚起を少し色濃く説明をしていきたいと思っています。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名	107. リハビリテーション関連機器
-----	--------------------

担当教員	渡邊 豊明
------	-------

専攻・配当年次	OT 2年
---------	-------

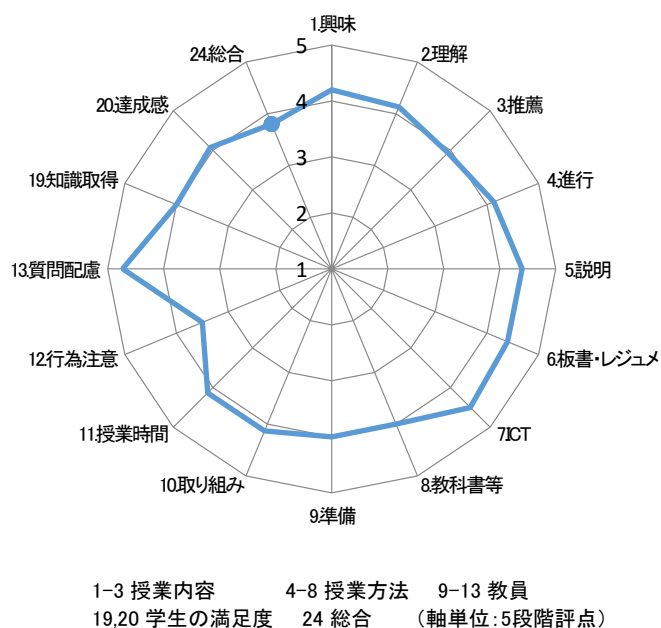
回答者数	15 名
------	------

◆集計データ結果について

全般的に4点以上の項目が多くありましたが、項目12の行為注意で3.5点。総合で3.8点とやや低い点数が出ていました。項目5～7の説明、レジュメ、ICTは4.4点以上あり、項目13は4.7点と質問への配慮は高い点数でした。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業時間が少し早く終わったことについて、グループディスカッションが予定より効率よく進んだことにより、早く終了することがありました。自主学习や復習の時間に当ててもらおうこちらの配慮の気持ちでしたが、その説明や、十分な説明がいたらなかった可能性があります。また、早く進行した場合の時間の使い方について、学生に不利益のないように、調整していきたいと思います。福祉用具のポイントについて教えてほしいについては、グループ討議以降にわかりやすいまとめなどがなかったため、理解不十分などがあったかもしれません。最終的に、ポイントがわかるような資料などを用意したいと思います。



◆今後の改善に向けて

福祉用具等についての説明は、動画などを使ってできるだけわかるような工夫をしました。その反面、自身のことばでの説明が足りない部分もありました。便利な動画に頼りすぎることをないよう、説明割合等を調整していきます。また、グループディスカッション等で、私語が目立ってしまったように思われます。また、居眠りなどを行っている学生に注意をすることがなく、動画視聴時の勉強する雰囲気を崩していた可能性があります。公平に授業がうけられるよう、私語や居眠りに対し、適切な対応をしていきたいと思います。福祉用具は実際に触れることで勉強になります。実践の時間を増やし、授業の構成を再検討していきます。

科目名	108. 地域作業療法学
-----	--------------

担当教員	渡邊 豊明
------	-------

専攻・配当年次	OT 2年
---------	-------

回答者数	10 名
------	------

◆集計データ結果について

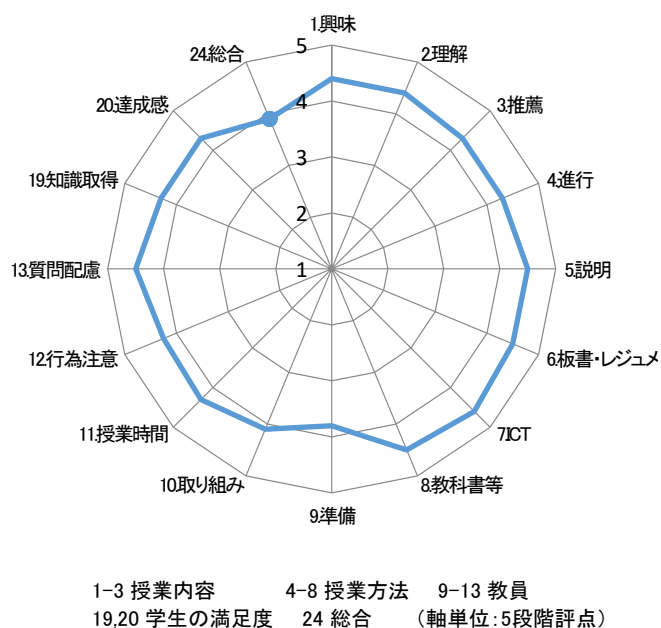
授業時間数の齟齬により、8コマ予定していたところ、15コマへ変更した経緯があり、途中から授業計画の再編を必要とした。項目9の準備で3.8点と点数が低かった。総合評価は3.9点と満足のいく点数ではなかった。説明、板書説明、ICT、教科書、質問配慮の項目は4.5点以上と高い点数であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

今年度から授業担当し、準備を進めていたが、途中で15コマへ変更することとなり、準備不足は否めません。今年度の失敗を次年度の授業計画に活かしていきたいと思います。できるだけ講義を簡潔にし、調べ学習を中心にしたことで、学生同士の意見交換ができたことは狙いとして良かったと思われる。

◆今後の改善に向けて

今年度の授業計画の失敗は、次年度の授業計画に活かしていきたいと思います。15コマあるので、講義で知ってほしい知識はしっかりとまとめ、考えてほしい事柄については、課題を提示し調べ学習を昨年同様に取り入れていきたい。症例を提示して、地域で活用できる制度や施設の課題発表は、考える力を育むため、継続して導入していきたい。



科目名 109. 地域作業療法学実習[2年]

担当教員 渡邊 豊明・外倉 由之・横山 剛

専攻・配当年次 OT 2年

回答者数 12 名

◆集計データ結果について

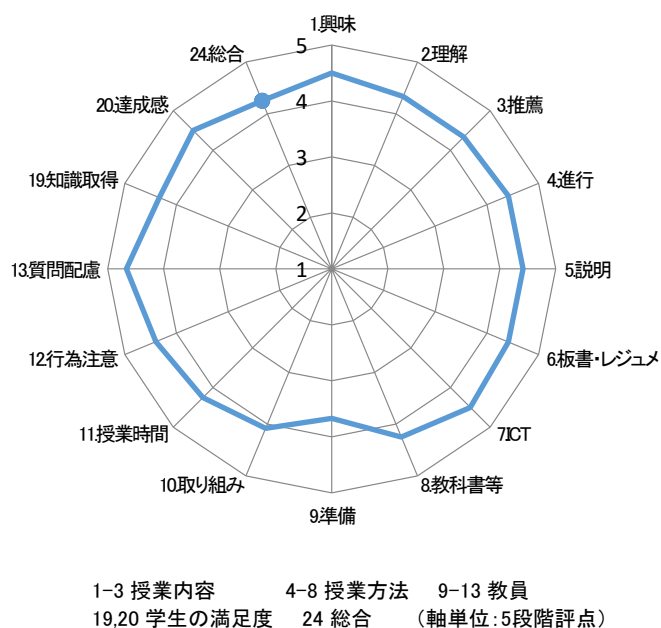
興味, 理解, 進行, 推薦, 説明, レジューメ, ICT, 行為注意, 達成感で4.3点以上であり, 質問配慮は4.6点以上でした. 準備で3.6点でしたが, 総合は4.2点以上でした.

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

レポートレビューにより, 評価の基準を示しましたが, 教員が3人いることで, 意見の食い違いがありました. もう少し, 情報共有をすることで, 地域実習に対する内容や作成するレポートの統一ができたかと思われます. また, 実習時間において, 調べ物などしている時間がありました. 学生から質問などしやすい環境になかったことがありました. その点については改善していきたいと考えます.

◆今後の改善に向けて

授業計画と実施内容について教員間で共有の理解が必要であると強く感じました. また, レクリエーション実習を実施する施設の先生にも情報が取りやすいような配慮が必要です. できるだけ, 実習計画や実施の時間を多くとり, しっかりとフィードバックできる環境を整え, 実習後のフィードバックも情報共有しながら実施していきます.



科目名	110. 作業科学
-----	-----------

担当教員	清水 一輝
------	-------

専攻・配当年次	OT 3年
---------	-------

回答者数	29 名
------	------

◆集計データ結果について

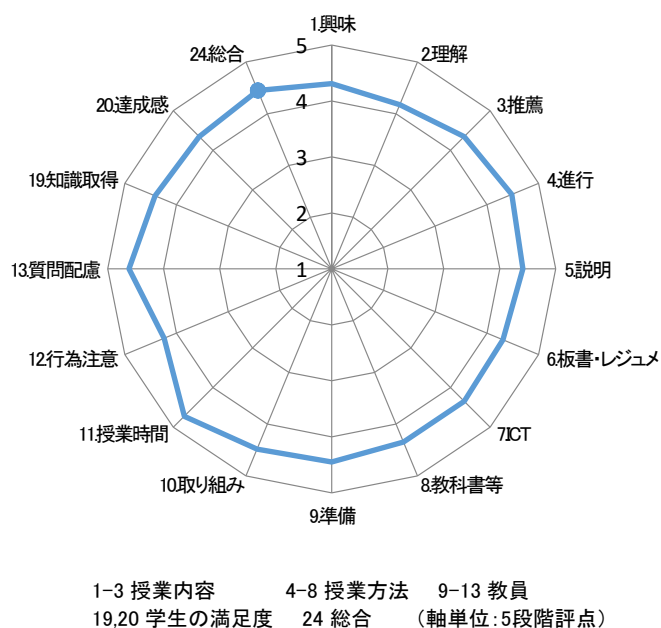
各項目で4点以上の評価であり概ね良い結果であった。質問をしていない学生が約半数であり、グループでの学習などを中心に学生ともディスカッションをしながら進めていく授業を構想していたが不十分であったといえる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークを中心に実施したことに対する肯定的な意見が多くあった。また、「作業療法としての新たな側面を考えることが出来、作業療法についての興味ややりがいが大きく芽生えたきっかけになりました。」「作業療法士として、クライアント作業を見る提供する立場となる際に大変役に立つ概念だと感じました。」など作業科学の重要性に関する記載もあり、その重要性が理解されたと思われる。

◆今後の改善に向けて

この科目は新カリキュラムでは開講されないが、作業療法の基礎となる重要な内容であるため様々な科目の中で必要な要素を教授していけるようにしたい。



科目名

111. 人間作業モデル論

担当教員

清水 一輝

専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

31 名

◆集計データ結果について

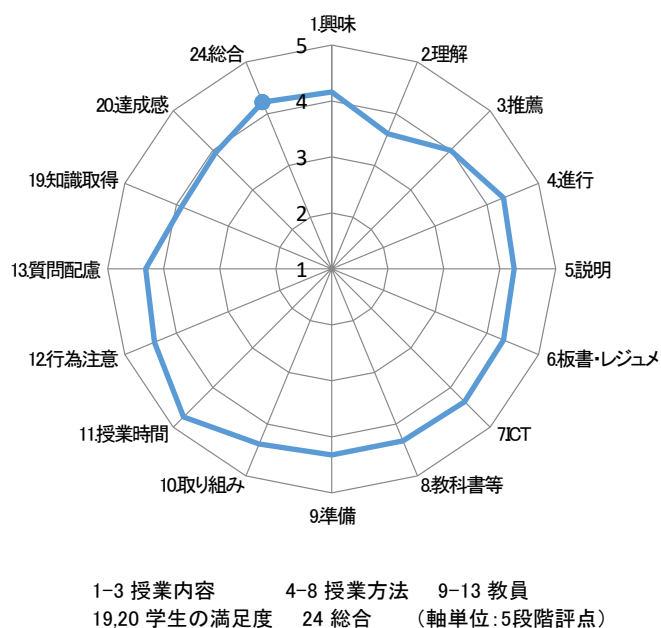
理解, 知識取得, 達成感の項目で4.0を下回っていたが, その他の項目では4.0を超える評価であった。予習, 復習をしていない学生が7割程度を占めており, 3年生の国家試験前の講義であったため授業時間外での学習等十分にデザインしていなかったことが, 理解の難しさや達成感の低さにつながっていると思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

難解な用語が多く用いられているモデルであり, その理解の難しさからレジュメ等でのよりわかりやすい説明を求める記載が見られた。一方で, グループで世の中で起きている事象などをモデルの枠組みで捉え直す枠組みなどをすることで, 理解が深まっている様子も伺えた。

◆今後の改善に向けて

この科目は来年度からのカリキュラムでは開講されない科目であるが, 作業療法実践のモデルとしてはとても重要なものである。他の科目等でもモデルについての理解を促していけるように構成を検討していきたい。



科目名

112. 就労支援学

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

33 名

◆集計データ結果について

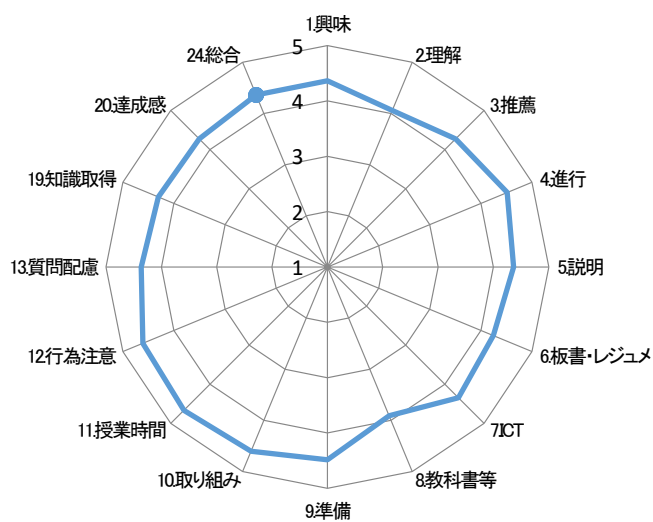
概ね4点台であり、目的は達成できたと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

就労することについて紹介し考え、自身に照らし合わせて自己の分析をする課題に、意欲的に取り組めたようだ。

◆今後の改善に向けて

作業療法士になる直前に、自身を振り返り、今後とつなげていく作業になったと思います。単なる機械的暗記で勉強しないように指導してきた最終の局面でこの授業を行っていく意味は非常に大きいであろうと思われるので今後も継続していきたいと思います。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

113. 臨床実習Ⅲ（総合1）[30T]

担当教員

横山 剛・加藤 真夕美・渡邊 豊明・清水 一輝・松田 裕美・廣渡 洋史・外倉 由之

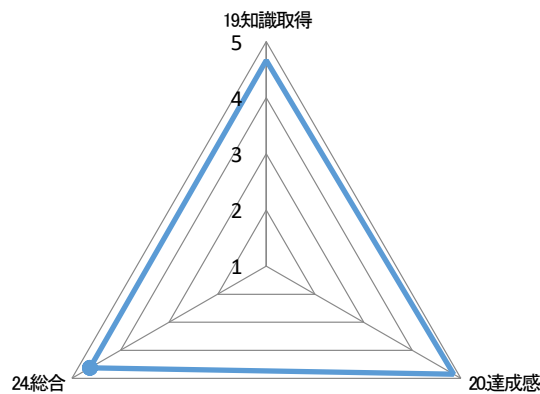
専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

27 名

◆集計データ結果について

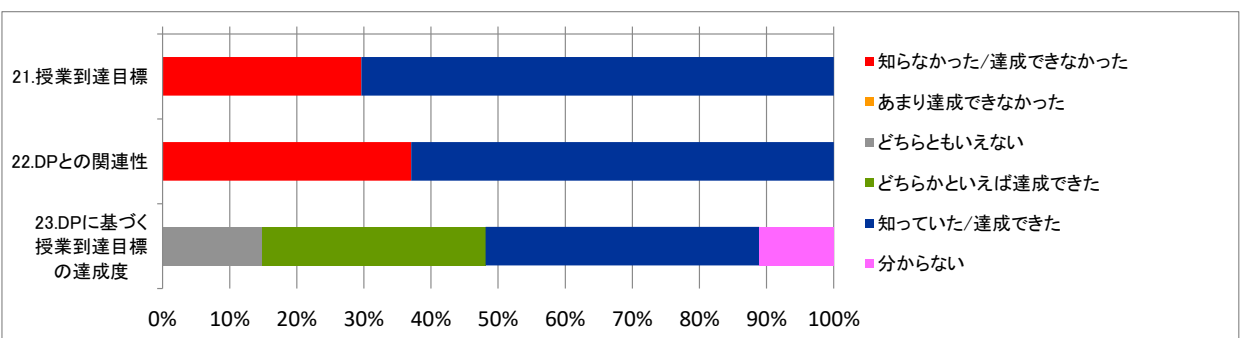
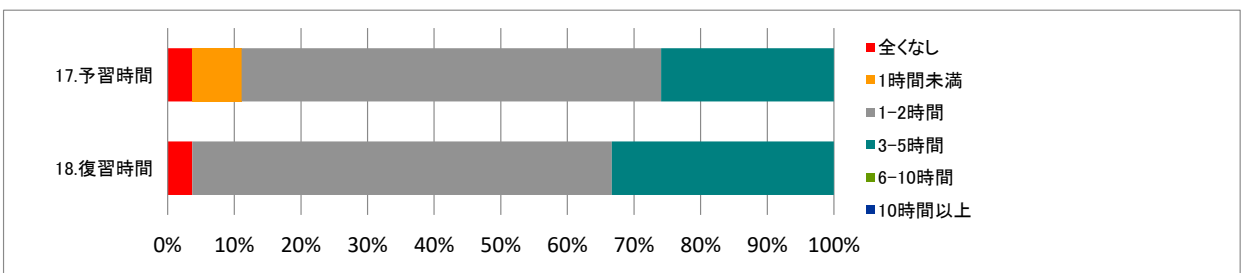
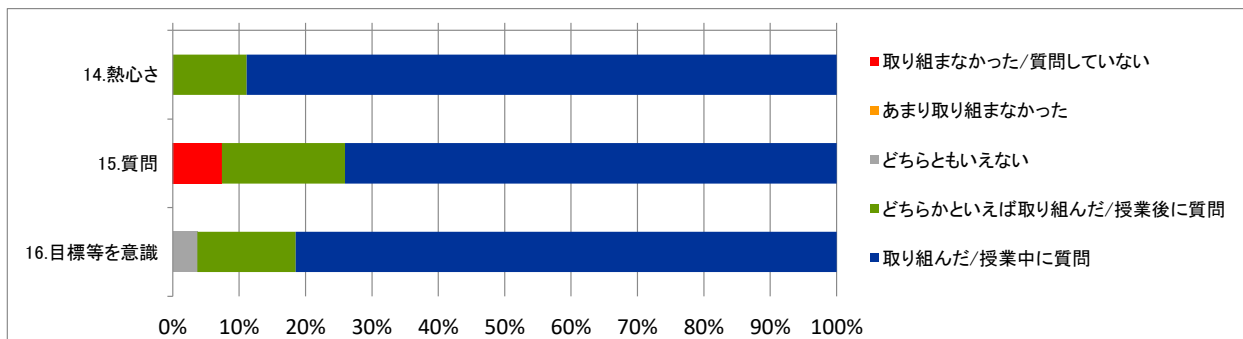


19 学生の満足度(知識習得)

20 学生の満足度(達成感)

24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

114. 臨床実習Ⅳ（総合2）[30T]

担当教員

横山 剛・加藤 真夕美・渡邊 豊明・清水 一輝・松田 裕美・廣渡 洋史・外倉 由之

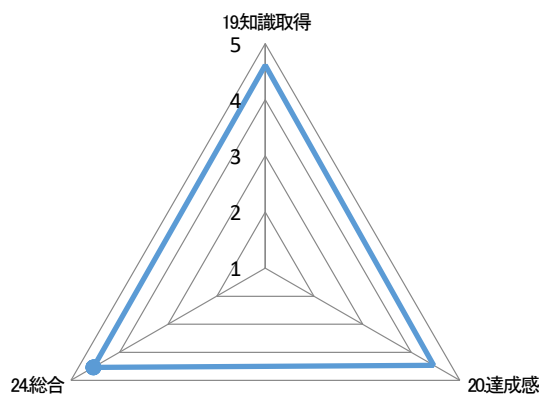
専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

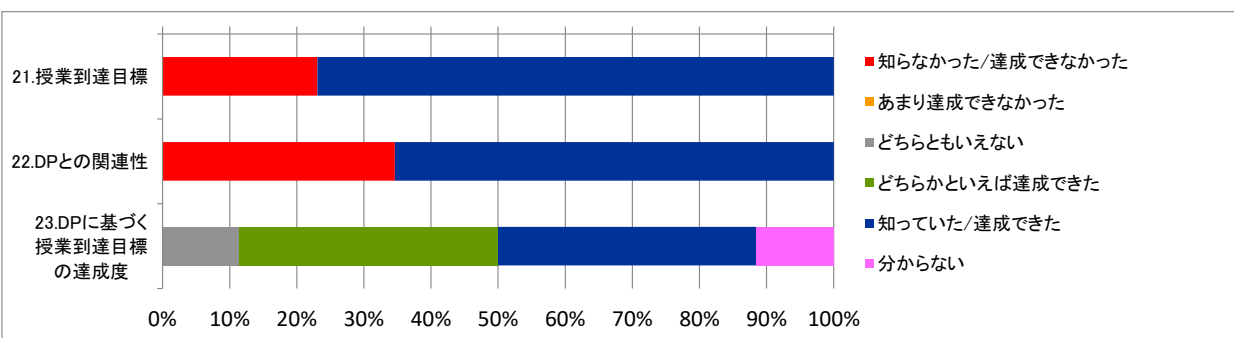
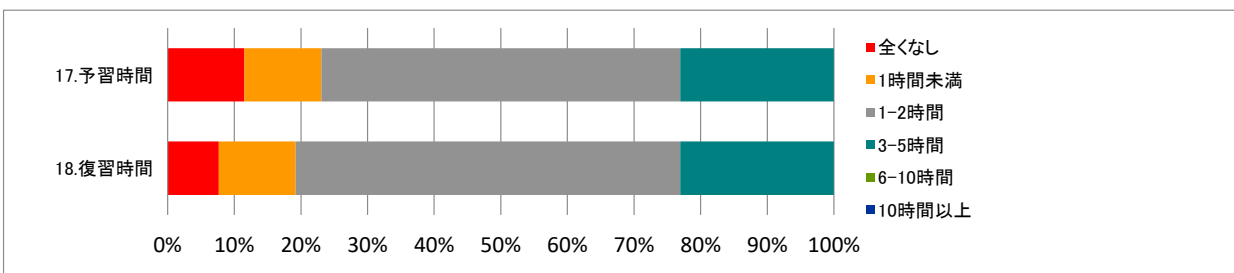
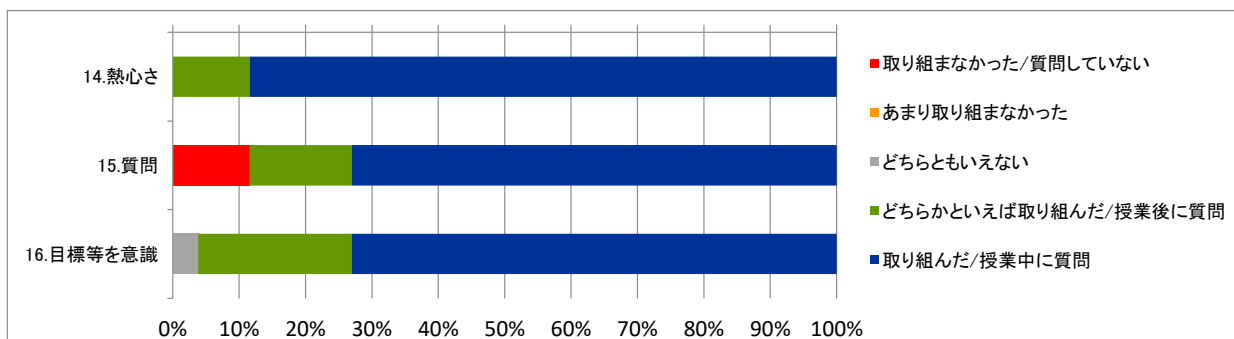
26 名

◆集計データ結果について



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

115. 卒業研究[30T]

担当教員

横山 剛・廣渡 洋史・加藤 真夕美・渡邊 豊明・清水 一輝・松田 裕美・外倉 由之

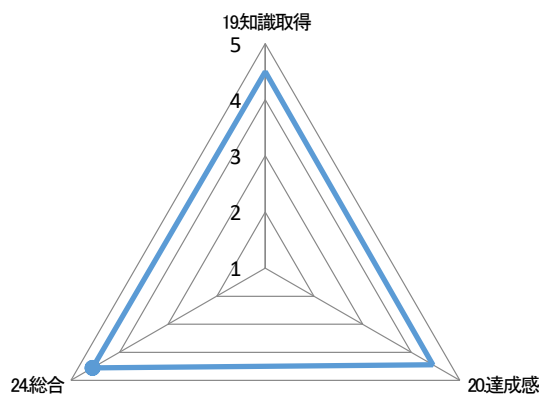
専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

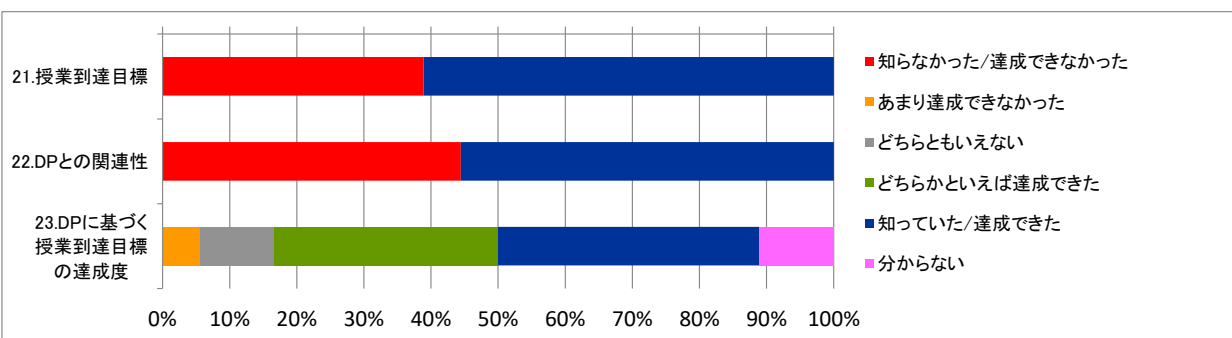
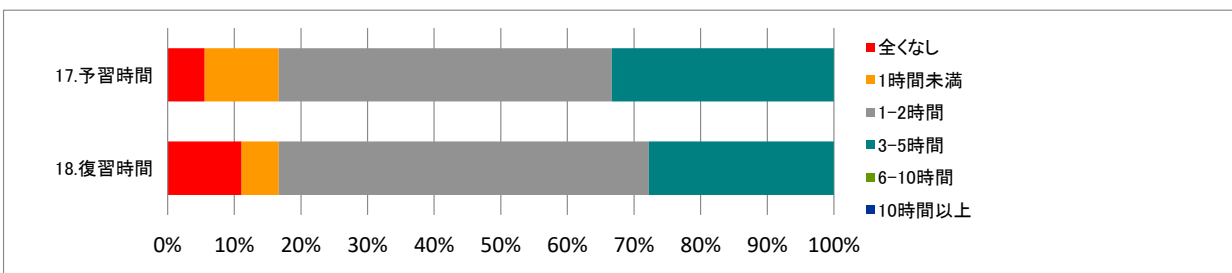
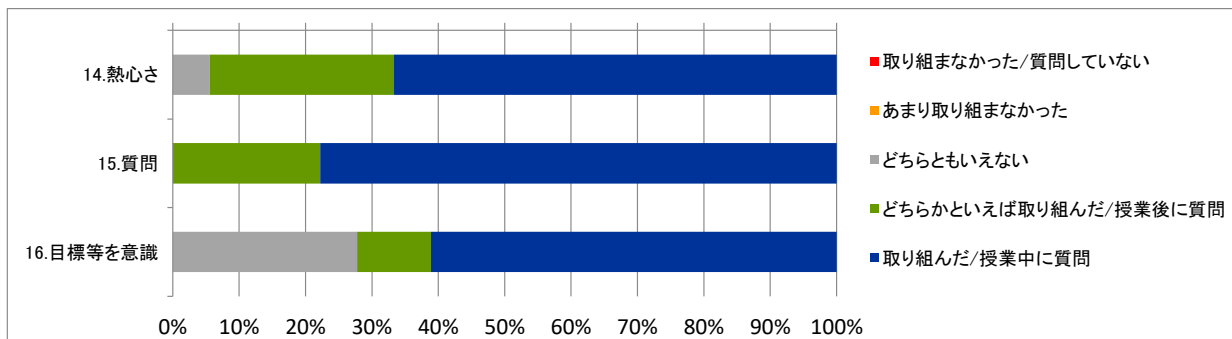
18 名

◆集計データ結果について



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

116. 総合演習[30T]

石川 清・加藤 真弓・松村 仁実・宮津 真寿美・杉山 成司・木村 菜穂子・臼井 晴信・

担当教員

山田 南欧美・齊藤 誠・濱田 光佑・横山 剛・廣渡 洋史・加藤 真夕美・石黒 茂・
種田 陽一・清水 一輝・松田 裕美・外倉 由之

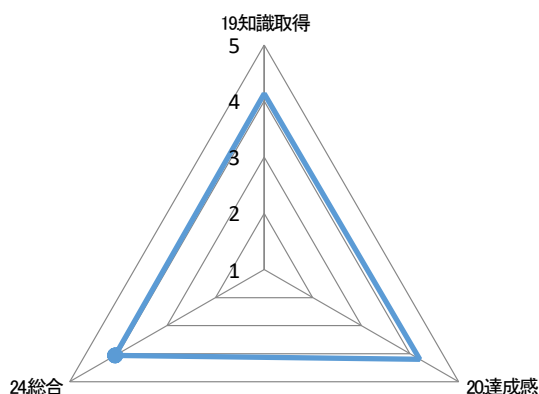
専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

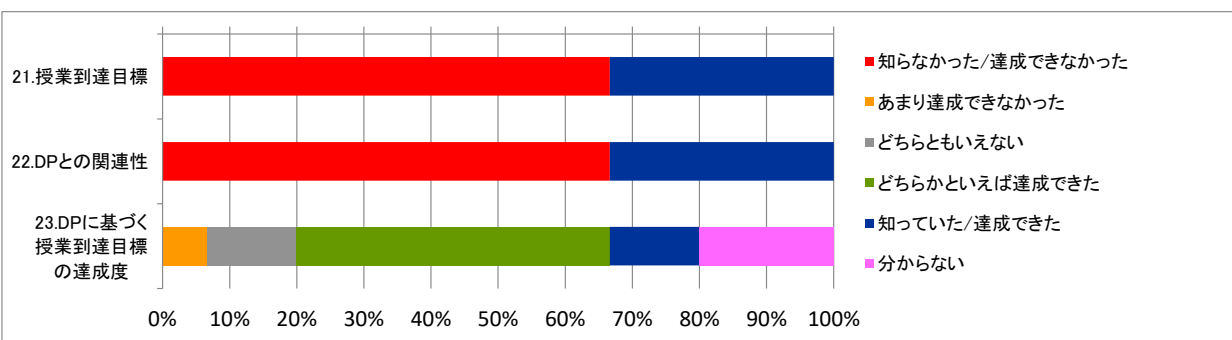
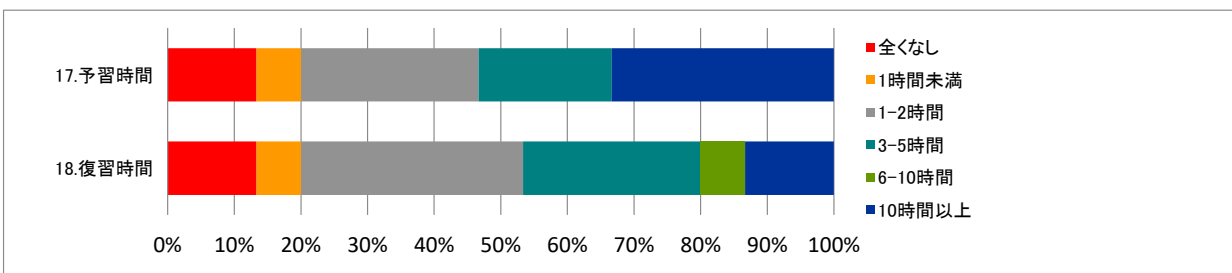
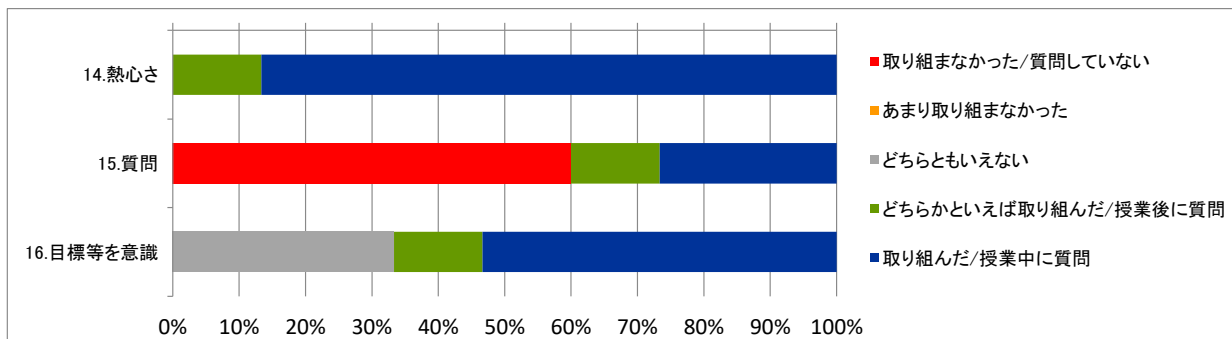
15 名

◆集計データ結果について



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



編集委員

横山 剛 (FD&SD委員会委員長)
加藤 真弓 (FD&SD委員会)
齊藤 誠 (FD&SD委員会)
外倉 由之 (FD&SD委員会)
齊藤 寛子 (FD&SD委員会)
笹山 香代子 (FD&SD委員会)
松浦 智美 (FD&SD委員会)

2021 年度 授業評価レポート

発行日 令和 4 年 7 月 11 日

発行者 学校法人 佑愛学園

愛知医療学院短期大学

〒452-0931 愛知県清須市一場 519

TEL 052-409-3311

<http://www.yuai.ac.jp>